２０２１－２０２２
テクニカルオフィシャル
ＭＯ／ＴＤ
競技ハンドブック

公益財団法人日本ハンドボール協会

競技・審判本部

目 次

はじめに..... 1

テクニカルオフィシャルの任務..... 2
各大会におけるテクニカルオフィシャル（マッチオフィシャル（MO）
並びにテクニカル・デレゲート（TD））の任務と競技運営に関する事項（改訂版）..... 3
１．テクニカルオフィシャルの配置..... 4
２．試合前..... 4
３．試合中..... 6
４．試合後..... 9

競技運営に関する事項..... 10
１．会場設営と確認..... 10
２．競技実施関係（準備物や諸会議等）..... 11
３．試合前（セレモニーや確認）..... 16
４．試合中（記録、得点、交代地域、
タイムアウト、段階罰、負傷退場、延長戦、7MTC など）..... 17
５．試合後..... 23

最後に..... 24

MO・TD の準備および大会期間中の任務..... 25
マッチオフィシャル（MO）の準備および大会期間中の任務..... 26
大　会　前..... 26
試　合　前..... 26
試　合　中..... 27
試　合　後..... 28
一般的な任務（大会中の担当試合以外での業務）..... 28
レフェリーのアセッサー（評価者）としての活動..... 28

タイムキーパー／スコアキーパーとしての TD の準備および大会期間中の任務..... 29
大　会　前..... 29
試　合　前..... 29
レフェリーのアセッサー（評価者）としての活動..... 32
タイムキーパーとしての TD の追加業務..... 33

試合の流れに応じた MO および TD の任務 34
試合開始までの手順 35
試　合　前 36
試合中・後の業務 40
チームタイムアウト中 41
＜補足事項＞　チームタイムアウトの取り扱いについて 42
延　長　戦 43
試　合　中 44
ハーフタイム中 56
試　合　後 56
通信機器の活用について 57
７ｍスローコンテスト 59
７ｍスローコンテストの実施要領 61
運営業務（大会役員・会場責任者と協働して） 65

レフェリーの指導および評価 66
２０２１年度 各級公認審判員の目標 71
Ａ 級公認審判員の目標 （2021 年） 73
Ｂ 級公認審判員の目標 （2021 年） 75
Ｂ 級公認審判員チェックリスト 77
Ｃ 級公認審判員の目標 （2021 年） 78
Ｄ 級公認審判員の目標 （2021 年） 80
レフェリーアセッサーの資質と任務 82
Ａ・Ｂ級審査会の評価の要点について（2021 年改訂版） 92
審判員の倫理綱領 93
レフェリー評価票の記入方法について 94
レフェリー評価における着眼点 98
評価票 （記入例） 99

競技運営に関わる通達 100
服装や保護を目的とした装具に関する規定 101
交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン 112
裁定委員会開催基準 113
暑熱環境下における各種大会の運営について 116
脳震盪（疑い）時の対応ガイドライン 118

テクニカルオフィシャル用 補助資料 122
テクニカルオフィシャル用 公式記録補助用紙（ＪＨＡ仕様） 123
７ｍスローコンテスト登録・記録用紙 124
レフェリー評価票（ＪＨＡ 全日本大会仕様） 126

※ 本資料内、2020 年度以降の追加事項について、★ 印をつけています。
ただし「TO の任務と競技運営に関する事項」については、**朱書き**での対応となります。

※ 競技・審判本部では、今後、マッチオフィシャル（以下 MO と表記）とテクニカル・デレゲート（以下 TD と表記）をまとめて「**テクニカルオフィシャル**」と称することとします。また本資料内、記録席は「ジャッジーズテーブル」と表記しています。

はじめに

近年、ハンドボールの試合はスピーディーなゲーム展開を見せ、個々の技術はより精巧に、戦術的側面は更に多様化しています。この進化はとても素晴らしいものであり、世界中の多くのファンと観客を、更に魅了させています。

しかし、これらの新しく非常に前向きな発展は、レフェリーに対し、ゲームの理解やルールの適用、ペアリング、個々のフィットネスといった新たな課題をもたらしてもいます。そのため、レフェリーがこれらの複雑で急速に変化するゲーム状況下において、より魅力的なハンドボールへと導くためには、コート上での業務に完全に集中できることが必須となります。そこで近年では、これまでレフェリーが行っていた得点と罰則、競技時間等の管理を、テクニカルオフィシャルに委ねることで、よりスムーズなゲーム運営に取り組んでいます。加えてヘッドセットの導入は、テクニカルオフィシャルの業務やレフェリーとのコミュニケーションを、より円滑なものへとしています。

また、ゲームの事前、最中、事後のテクニカルオフィシャルの業務もより多様化しており、テクニカルオフィシャルの任務につく者にも、多くのことが求められる時代にきています。その中で、テクニカルオフィシャルの基本的で最も大切な業務は、レフェリーをできる限りサポートし、支援することです。これは特に、交代地域およびコーチングゾーンの管理・観察することで発揮されます。

本資料は、IHF テクニカル・デレゲート資格を取得する際に基礎となる「IHF Nominees Event Guide」を基に作成したものとなります。今回、ジャッジーズテーブルにおける業務をより詳細かつ明確にすることで、ゲームに携わる一人ひとりがその役割を認識し、地区大会から国内外のトップイベントに至る全てのゲームにおいて、最高のパフォーマンスを発揮できる、そのサポートになれればと願い作成いたしました。

2021 年 3 月
（公財）日本ハンドボール協会
競技・審判本部

テクニカルオフィシャルの任務

各大会におけるテクニカルオフィシャル
（マッチオフィシャル（MO）並びにテクニカル・デレゲート（TD））
の任務と競技運営に関する事項（改訂版）

2021 年４月１日（公財）日本ハンドボール協会 競技・審判本部

テクニカルオフィシャルは、競技委員長のもと、競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、レフェリー、全ての競技役員、補助員と協力して、当該の試合を管理する責任者です。各試合のレフェリーが判定した事実判定以外のすべての事項の責任は、テクニカルオフィシャルにあるので、競技規則書、レフェリーハンドブック、大会開催マニュアル及び毎年度発行されている競技運営に関する通達に記されている事項を把握し、その任務にあたらなければなりません。

以下、それぞれの主な任務と具体的な試合前、試合中、試合後の業務となりますので、確認の上、大会に挑んでください。

【ＭＯの任務】

MO は試合が競技規則、大会要項に沿って行われるよう全体的な責任を負います。主には次の業務を行います。

① TD 及び開催地タイムキーパー（以下 タイムキーパーと表記）、スコアキーパー（以下スコアキーパーと表記）を含むジャッジーズテーブルを担当するメンバーの技術面（得点、時計、スコアなど）のTD 業務の全般的な管理・監督と指導・支援を行います。

② TD が交代エリア規定を適用する際の支援。

③ 不測の事態（停電、観客による妨害、災害等）が生じたときの対応、判断。

④ 公式記録用紙の記載が正しいことを確認し、試合の開始、成立を承認。

⑤ カメラマンに対して、特定エリアへの立ち入りを許可/禁止を決定します。

⑥ MO は、レフェリーの事実判定に関するものを除き、試合を中断させて事実確認し、レフェリーへの助言、支援を行う権利があります。レフェリーは MO の指示に従い、ペナルティを課す義務があります。競技規則 8：6 あるいは 8：10（a）（b） に係る反則については、報告書を伴います。

⑦ レフェリーが認識しているにも関わらず、違反に対する判定がされない場合には、MO が文書で大会委員長に提出し、裁定委員会が適切な判断を下すことがあります。

⑧ MO は担当しているレフェリーの片方あるいは両方が試合途中で交代しなければならない場合には、リザーブレフェリーとして当該試合に指定されているレフェリーと交代することを決定することができます。リザーブレフェリーが不在の場合には、可能な限り試合を最後まで遂行する方法を決定します。

【ＴＤの任務】

TD は開催地タイムキーパー及びスコアキーパーとともに、試合進行の技術的な部分を担当します。主には次の業務を行います。

① TD は大会研修会、代表者会議、及びテクニカルミーティングに参加します。

② TD は競技規則、大会要項を遵守し行動します。

③ 試合前・中・後のどのような場所、状況にも注意を払い、タイムキーパー・スコアキーパーの技術的ミスによってもたらされる可能性のある問題を防止しなければなりません。試合中は特に、TD としてのタイムキーパーとスコアキーパー業務に集中します。

④ TD の責任は、試合が整然と行われるようにすることにあります。TD は正式な抗議につながる可能性のあるあらゆる種類の状況を回避するよう努めるべきです。一方、TD はレフリーではありません。レフェリーが試合ですべての決定を下します。TD は事実判定以外のことに責任を負います。それでも TD は必要に応じてプレーを中断し、レフェリーへの抗議、競技規則の運用に間違いがある場合にはレフェリーの支援を行います。これには、レフェリーが自身の事実観察に基づいて下した決定（事実判定）は含まれません。TD は決定を下す権限はありませんが、勧告したり指摘したりすることができます。

⑤ TD は大会要項、大会規定が遵守されているか確認します。

⑥ TD は試合中、交代エリアを監視できるよう、また必要に応じて介入できるように、常にジャッジーズテーブルに着席します。

⑦ TD はジャッジーズテーブルに必要な備品（予備の時計、ストップウォッチ、笛など）が備えられているか確認します。

⑧ TD は交代エリアの適切な設置、規制、管理を行います。
特にタイムキーパーを担う TD （以下 TK と表記）は、競技時間、競技時間の中断、退場時間の管理及び選手のコートへの出入場の管理をします。

１．テクニカルオフィシャル の配置

各試合にその試合の責任者として MO を 1 名・TD を 2 名配置します。
MO は当該試合の責任者となるため、全体が把握できるジャッジーズテーブル後方に位置します。コートから見て左側から「TK」、「タイムキーパー」、中央に「公式時計、退場者表示板操作のための開催地補助員」、「スコアキーパー」、「スコアキーパーを担う TD（以下 SK と表記）」を配置します。

また、当該の試合に指名されたテクニカルオフィシャルは、ストップウォッチ及び笛、最新の競技規則、その他試合に必要な物品を持って試合に臨まなければなりません。

２．試合前

① 諸会議への出席
大会のテクニカルオフィシャルに指名された役員は、情報収集を含めて各種決定事項の確認やレフェリーとの共通理解を得るために審判会議、代表者会議に出席します。

② 競技場の点検

試合開始前に会場、コート、ゴール、ゴールネット、キャッチネット、ボール、交代地域のスペース、ベンチの長さ、ベンチの数、ジャッジーズテーブル関係備品等の有無、放送設備、医務関係（出血対策、担架など）の準備状況を管理し、各種機器の動作具合の確認・点検をします。

③ オフィシャルミーティングへの立会いと試合前の準備

1)メンバーチェック

各チームから受け取ったメンバー表と選手証、役員証を確認、ベンチ登録選手 16 名、役員 4 名を確認します（※各大会の規定に従うこと）。

2)TD はメンバー表確認の後、次の試合の準備のため記録用紙記入者へメンバー表を渡し、大会プログラムと照合しながら日本ハンドボール協会（以下 本協会 と表記）指定の公式記録用紙（手書きの場合にはランニング記録用紙でも可）に記入するよう指示します。
また、公式記録用紙に記載されている選手が遅れて到着し、試合に参加する場合には、当該選手の背番号とともに公式記録用紙にその旨記載しておきます。

3)ユニホームの確認

レフェリーとともにユニホーム確認を行います。コート上に 4 色あるか、レフェリーのウェアの色は何色かを確認します。 また、両チーム役員に相手側のコートプレーヤー（以下 CP と表記）のユニホームと同系色の上着を着用しないように注意を促します。

4)TD は公式記録用紙へ正しく役員・選手などが記入されているか確認します。
試合に参加できる役員・選手であるか、チーム役員に ABCD 等が記載されているかなど詳細に確認します。

5)TD は試合開始 **40 分前から** 10 分前までの間に公式記録用紙にチーム責任者が署名を行うことを確認します。

6)ボールの空気圧が適切かどうかチーム責任者、レフェリーとチェックします。

7)ABCD の役員カードを各チームに必要数配布し、記録用紙に記載の役員にそれぞれのカードを着用させます。

8)グリーンカードを配布します。配布は①番と②番の記載があるカードを配布します。
※ハーフタイム中、前半に申請がなければ、①番を回収し、②番と③番を配布します。
前半に申請が 1 回あれば、②番と③番を配布します。
前半に申請が 2 回あれば、③番のみを配布します。
※登録された役員以外のトレーナーがいる場合は交代地域外の指定された場所に当該者を着席させ、試合中には交代地域に立ち入らないこと、戦術の指示をしないなど、留意事項を説明しておきます。大会によっては認められないことがあるため、大会要項を必ず確認し、競技委員長に確認の上、座らせてください。

MO・TD は試合開始前に上記の事柄など、交代地域規定に違反していないかを管理し違反があれば正されるまで試合を開始させてはなりません。

④ 試合前の打ち合わせ

試合開始前に、レフェリー、ジャッジーズテーブル補助員との打ち合わせを綿密にしておきます。

1）計測の開始、停止の合図
2）得点の合図
3）罰則の合図
4）その他の事項（通信機器を用いた試合終了 10 秒前のカウントダウンの方法など）

３．試合中

① SK はスコアが正しく記入されているか、**電光掲示板と整合性が取れているかなど確認**しながら、自身が座っている側の交代地域の管理を行います。

得点の後には、得点したプレーヤーや必ず電光掲示板に加点されたかを、スコアキーパーと声をかけ合い、確認します。得点かどうかはっきりしない場合は、躊躇なくその時点でレフェリーに確認してください。必要であれば笛を吹き、試合を中断させてレフェリー、MO と確認してください。

また、SK は別紙(マッチレポート)に以下の記録を取ります。

- ゴール数、ハーフタイム時の得点、最終得点
- 得点した選手の背番号
- 退場及び失格
- 両チームの 7m スロー数
- チームタイムアウトの正確な時間

② TK は公式計時（得点、時計）の動作が的確に行われているか、退場タイマーの操作が正しく行われているかを確認しながら自身が座っている側の交代地域の管理を行います。また、テーブル全体の業務に気を配り、負傷者カードの作成や必要な場合は退場者カードの作成をします。

試合時間の管理・決定はレフェリーが行いますが、テクニカルオフィシャルの任務としても、不測の事態に備え、別途手元にストップウォッチと笛を必ず携帯し、試合時間を計測します。

③ 通信機器

レフェリー、テクニカルオフィシャルは通信機器を使用することができます。通信の内容は競技運営上の情報です。TD からは事実判定に関する指摘をしてはなりません。ただし、テクニカルオフィシャルはレフェリーの死角で起こった失格相当の重大な違反行為に対しては助言することができます。

④ レフェリーへの助言

判定上の問題が生じたとき、適切な助言・勧告を行うことはできますが、事実判定においては、レフェリーの最終判断であるため、判定を覆したり、異論をはさんだりしてはいけません。

⑤ 試合続行

試合中止の判断はレフェリーおよびテクニカルオフィシャルにあります。続行のために適切な助言・勧告をレフェリーに行ってください。

⑥ 交代地域の管理権限とレフェリーへの通知

交代地域の管理、不正交代等の管理業務は、TD は 2 名同格、同責任です。試合開始までの準備を的確に行い、試合中は交代地域規定を遵守させ、特にスポーツマンシップに反する行為の管理を行います。

試合途中、テクニカルオフィシャルは交代地域において違反があればレフェリーに知らせ、レフェリーが罰則を下します。テクニカルオフィシャル以外の補助役員が違反に気がついたときは、次の中断の時にレフェリーに知らせ、レフェリーによる口頭注意のみの対応となります（ただし、報告書を有する違反の場合は、報告書を提出する必要があります）。

テクニカルオフィシャル自らが プレーヤー、チーム役員に罰則を直接下すことはできないため、交代地域内でのスポーツマンシップに反する行為に対しては、まず当該者のそばに行き注意をします。注意をしたにもかかわらず是正されない時は、レフェリーに合図し、レフェリーに罰則を適用するように促してください。また、必ずしも注意が必要とは限らない状況もあり得るので、留意してください。以下、交代地域での留意点となります。

- 荷物はベンチの後ろに置いてあるか。ボールは収納され、ベンチ後方の壁側に置いているか。
- 登録者以外が交代地域に立ち入っていないか。
- 2 名以上が立ち上がってチームに指示を出していないか。
- 交代地域での選手・役員の暴言、暴力行為はないか。
- チーム役員がタイムアウト申請時以外にむやみにゾーンを離れていないか。
- ジャッジに対するクレーム、レフェリーへの暴言はないか。
- **CP と交代したゴールキーパー（以下 GK と表記）は、ベンチに着席しているか（交代地域に立ったままで待つことは許されない）。**

⑦　交代地域でのウォーミングアップ

交代地域の後ろ側でのボールを使わない状態でのウォーミングアップは許されます。しかし、アップを中断するようであれば、座るように指示してください。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出すようなとき、試合の判定に反応して大きな声もしくはジェスチャーをしたときは、ウォーミングアップを中断したと見なし、直ちに座るよう指示してください。指示に従わない場合はスポーツマンシップに反する行為として、レフェリーを呼び、罰則を適用するよう促してください。

⑧　チームタイムアウトの請求はそれぞれ着席している側の TD が受け付けます。机の上に置かれたのち（手で受け取ることも可能です）、立ち上がって、カードを高くかざし、一方の手でタイムアウトを請求したチームを指示し、笛またはブザーでレフェリーに知らせます。レフェリーがタイムアウトのジェスチャーの後から 50 秒を測り始めます。50 秒経ったら、笛またはブザーでタイムアウト終了を知らせます。その後、チームが速やかに競技を始めるように促します。

チーム役員はグリーンカードを提出する際、コーチングゾーンを越えた後にタイミングを計ることは許されていないため、ゾーンを越えて立ち止まりしばらくグリーンカードを出さない状態の時は、受け取らないことができます。

⑨　前半終了後のハーフタイム開始時や延長戦前の休憩時間には、テクニカルオフィシャルは正しく時間表示等がなされているかを確認します。また、後半が正確な時間に競技が始められるように管理しておかなくてはなりません。

ハーフタイム終了 3 分前にチームがまだコート上に来ていない場合は、TD は当該チームを呼びに行きます。終了 1 分前には公示時計を止め、後半の試合時間を設定するようにします。

競技時間の設定では、前後半の競技時間（延長戦を含む）はカウントアップ、ハーフタイムはカウントダウンとしてください。試合時間、ハーフタイムはそれぞれの大会で異なりますので、必ず大会規定を確認してください。

⑩　タイムアウト

タイムキーパーはレフェリーあるいはテクニカルオフィシャルが笛またはブザーにて合図した際には、速やかに公示時計を停止させます。この笛の合図はテクニカルオフィシャルだけでなく、ジャッジーズテーブル補助員も行うことができます。

時計を止めた状況及び再開方法について、レフェリーに助言します。
　タイムアウトの際には、速やかに公式時計を停止させ、プレーが再開されると同時に再始動されたか確認します。
　また、退場の際の判定なども一つ一つ確認します。

⑪　不正交代
　不正交代、不正入場その他交代地域の違反が確認されたとき、即座に笛を吹き、競技を中断させ、レフェリーに知らせてください。複数名いる場合は常に最初に入ったプレーヤーを退場とします。プレーヤーが特定できない場合は、チーム責任者に違反したプレーヤーを指名させてください。チーム責任者が指名を拒否した場合は、テクニカルオフィシャルがコート上にいるプレーヤーから 1 名を指名します。

⑫　退場者の管理
　電光表示や紙媒体で 2 分間や入場時間、退場プレーヤーの番号が表示されているかなど退場時間を管理します。また、退場となったプレーヤーを、ベンチに座らせるよう管理します。
　退場時間が経過し、入場する際の判断は、チーム、プレーヤーの責任によるのでジャッジーズテーブルから入場許可の合図をすることはなく、また、入場許可を求められても回答する必要はありません。

⑬　失格者の管理
　TD は失格となったプレーヤーを速やかに交代地域、競技場から退出したかどうか、または失格者席に座ったかどうかを管理します。この場合の競技場から退出させるとは、競技に影響のない場所に移動させるということです。失格となったプレーヤー・チーム役員は直ちにコートや交代地域から立ち去らなければならず、その試合に出場、参加しているチーム関係者といかなる接触もしてはなりません。失格となったプレーヤーがコート内に入った場合などさらなる違反が認められた時は、コート上のプレーヤーを減らすことはせず、報告書を作成します。

⑭　レフェリーが 3 回目の 2 分間退場を宣告し、結果的にその選手が失格となった場合には、レッドカードをはっきりと提示します。レフェリーがそれに反応しない様子であれば笛またはブザーによってレフェリーに知らせます。

⑮　負傷治療した選手の管理
　競技中、相手チームのプレーヤーに対して段階的罰則が適用された違反行為によって生じた治療行為など特別な場合を除き、負傷によりレフェリーの指示でチーム役員が入場したときは、当該プレーヤーは治療の有無にかかわらず、その後自チームが 3 回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできません。TD はそのジャッジーズテーブル上に、3 回の攻撃を示すカードを示し 3 回を計測します。1 回の攻撃についての考え方は、パッシブプレーの際の考え方と同じです。その間、チームタイムアウトが申請された場合でもその攻撃回数は継続されます。

　3 回の攻撃が終了するまでに、交代して入場した場合は、不正入場として、通常の不正入場時の対応をしてください。

⑯　グリーンカードの回収
　後半の残り 5 分を過ぎた時点で、②番のカードで後半のチームタイムアウト請求を行っていない場合には、③番のカードを回収します。

⑰　競技終了前 30 秒間の管理
　競技規則 8:5、8:6、8:10（c）及び（d）の対応について、テクニカルオフィシャルは、時間管理とレフェリーへの支援を行います。
　また、前半終了間際のプレーに注意を払う必要があります。特に、終了直前のシュートが得点となるかならないかの最終判断はレフェリーではありますが、テクニカルオフィシャルはレフェリーに、適切に助言・勧告をします。

⑱　ベンチ以外からの指示への対応

観客席からの声を交代地域で聞いていることに対しては制限しなくてよいが、チーム役員やプレーヤーが交代地域を離れて指示を受ける行為は止めさせなければなりません。注意したにもかかわらず継続するならばスポーツマンシップに反する行為として、当該プレーヤーやチーム役員に罰則を与えるようレフェリーに指示してください。

⑲　トラブル対応

試合中、コート内外を問わず各種トラブルが起きた場合、テクニカルオフィシャルはレフェリーと協力してトラブルを早期に解決しなければなりません。この行動、対処は速やかに、しかも迅速に行わなければなりません。また、特異な状況（レフェリーの負傷、照明の故障など）で試合が中断した場合、MO（または TD）が観客に対して理由を説明することが望ましい。処理・対応に時間がかかるときは、その旨を会場アナウンサーから説明するように促します。

４．試合後

①　公式記録用紙の照合、全後半の得点、罰則の記録などの確認を行い、間違い、記入漏れがなければ署名する（タイムキーパー、スコアキーパーもフルネームで署名する）
②　タイムアウト申請カードの回収
③　ABCD の役員カードの回収
④　記録用紙を本部へ
⑤　複写式の記録用紙は各チームに 1 枚ずつ渡す

【競技運営に関する事項】

この競技運営に関する事項はテクニカルオフィシャルの任務を遂行するための、競技運営に関連事項を記載してします。本協会主催、共催大会、加盟団体の主催の全日本大会においては実施、ブロック大会、都道府県大会においては推奨するものとして、各大会において基準として採用し、適切な競技運営を行ってください。

各大会、各試合は、当該年度の本協会競技規則及び最新の競技規則によって実施します。

1．会場設営と確認

① コート

競技会場は、正規コート（40m×20m）かつ地面が平らなエリアを使用します。競技規則に定められた通りとしますが、教育機関の大会など正規のコートの長さが確保できない場合、その大会規定に従います。小学生など、年齢や競技場確保の面で正規の大きさを確保できない場合には、その状況に応じて実施します。

② 安全地帯

競技場設置の場合、安全地帯を含め 48m x 28.5m の広さを確保し、その周囲を広告ボード等で区切ることを推奨します。止むを得なく確保できない場合には、緩衝材（マット）などを配置し、安全確保に努めなければなりません。

競技場の広さは、以下に記載される内容が含まれますが、この限りではありません。

- コート
- コート周辺　　サイドラインに沿ってベンチまでを 4m、ベンチから後方に 2.5m、その反対側に 2m、アウターゴールラインから 4m
- ベンチを含む交代地域

なお、スペースに限りがある場合の最低条件として、ジャッジーズテーブル前面はサイドラインから **50cm 以上**、**ベンチは 1m 以上**離してセッティングします。

③ ゴール

ゴールは床に固定しておく必要があります。止むを得ず固定できない場合には、固定用重り、マットや砂袋、両面テープなどでゴールが倒れないような処置を必ず施してください。

④ ゴールネットとキャッチネット

ゴールネットは内張とし、サイドネット、ネット下部からシュートしたボールが抜け出ないように紐で固定してください。跳ね返り防止のためにキャッチネットも張ってください。キャッチネット上部が垂れ下がること、途中で紐が切れること、下部も床につきたるみがつかないように調整するなど、**機能が保たれるよう注意**してください。

⑤　ベンチ

ベンチは単独イスの場合には16脚を（**感染症拡大予防を考慮して**）設置してください。

⑥　コーチングゾーン

交代地域にコーチングゾーンを設定します。サイドラインから **30cm** 離してサイドラインに対して垂直に 50cm の長さで 2 本引きます（サイドラインと異なる色でも構いません）。1 本はセンターラインから 3.5m の位置に、もう 1 本はセンターラインから 12mのところに引きます。その間をコーチングゾーンといいます。

⑦　ジャッジーズテーブル

ジャッジーズテーブルには補助員の業務を簡素化することから最大 4 ～ 5 名が座れるスペースを確保します。ジャッジーズテーブル後方に MO 席を設け、その横に競技役員席を設けます。

⑧　大会役員席

主要な国際大会では、ジャッジーズテーブル後方は大会競技役員の席（サポートテーブル）となります。コートから見て右側に国際連盟競技役員が座り、左側にテクニカル役員、主管国協会競技役員が座ります。

本協会主催の大会においても壇の設置の有無にかかわらず、ジャッジーズテーブル後方に競技役員席を設置してください。その他、会場の規模、規格などに応じて対応してください。

⑨　競技場の室温

競技場内の室温については、選手の健康・安全の確保、また円滑な試合運営に配慮し、**冬場は 14 度以下、夏場は 28 度以上にならないよう**環境を整えてください。

また、夏季大会では空調設備の有無にかかわらず、特にジュニア層など身体的に成熟していない年代では、特に注意が必要であり、こまめな水分補給、十分な休息を与えるなど、競技中、練習中においても体調管理には十分に留意してください。

２．競技実施関係（準備物や諸会議等）

①　選手登録

プレーヤー、チーム役員の登録方法、期限、変更方法については各大会で定めます。申込期日を過ぎたプレーヤーの登録は認められないことやチーム役員の登録は随時できること

など、各大会の要項に定めたとおりで実施してください。
　また、大会によって、プレーヤー変更は代表者会議前日や開始前までに届け出ることなど決まりがありますが、届出書には理由の記載や、証明書の提出を問うべきではありません。ただし国体は、国体要項に従う必要があります。

② **感染症対策**

　感染症対策は、主催者や大会関係者だけでなく各チームおよびその家族等の協力のもと、感染防止のために主催者が決めた措置を遵守、お互いに感染防止に努めてください。
　万が一、発熱等の症状がある、あるいは感染症が疑われる状況においては、速やかに主催者に報告、自主的に参加を見合わせてください。

③ 競技時間

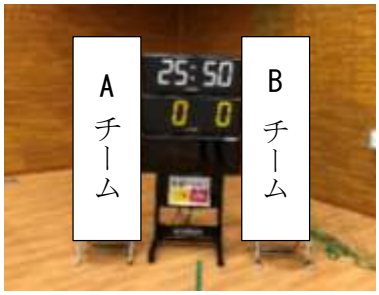
　競技時間は競技規則に則って実施します。大会で定めたものがあれば、それに従ってください。競技時間の計測は、加算式の電光表示板を使用します。電光表示板がない場合は、ジャッジーズテーブルの上にコート内から見える卓上時計を用意してください。卓上時計がない場合は、ストップウォッチを使用してください。電光表示板が機能しなくなったときは、可能な限り、用紙等による時間掲示をし、チーム関係者、観客に競技時間の経過がわかるよう配慮してください。

④ ハーフタイム

　ハーフタイムは 15 分以内としますが、各大会で定めた時間に従って運営してください。電光掲示板を使用してのハーフタイムの計測は減算式を推奨します。ハーフタイムのコートの使用は、国内では原則として次の試合のチームの練習に使用できるものとしますが、大会毎に取り決めて使用することが望ましいでしょう。

⑤ 得点・時間表示

　電光掲示板によるチーム名表示は、スコアシートに記載の左側を A、右側を B とし、Aチームを得点表示でも左側に表示、右側には B チームを記載します。これはトーナメント表では左側のチーム、リーグ戦の対戦表でも左側に記載のチームが A とします。したがって、スコア表の AB が前半後半で変わらないため、得点掲示板などの表記も左右の表示を変える必要がありません。



※ 4 面表示とすることで観客にもより見やすい環境となることから、4 面表示を推奨します。
※ 対角でなく中央に設置せざるを得ない場合は、混乱を招かないよう、チーム表記を明確に示すようにしてください。

⑥ 松ヤニの使用

　特に禁止されていない場合、指・手のひら（手の甲は許されない）に松ヤニを付けて競技しても構いません。ただし、松ヤニが許可されている大会でも、チームの責任において、コートから離れたとき、会場内の廊下、更衣室を含め、その他の施設に松ヤニがつかないよう対応する必要があります。
　また、大会や会場の使用条件によっては、松ヤニそのものの使用を禁止することや、靴に松ヤニをつけることを禁止することを可能とします。

⑦ 医務

　コート脇に担架を用意してください。併せて車いすを用意し、状況に応じて対応してください。迅速に対応できるように、予め設置場所や担当者を決めておき、事前に使い方も周知しておく必要があります。

⑧ ユニホーム

1) 大会で使用するユニホームは、1 つの色がシャツの大部分をはっきりと占める必要があります。また、蛍光色の使用は許可されていません。 その上で、チームは 2 種類以上

を用意することとします。1 種類は明るい色（淡色）の上下セット、もう 1 種類は濃い色（濃色）の上下セットとし、また、同系色を避けて用意する必要があります。GK の色は上記 2 種類以外の色を用意します。CP・GK と 4 色のユニホームを揃えることになります。

2) 同じチームの GK のシャツの色は、同色でなければなりません。ビブス等を着用する場合、登録された色と同色でなければなりません。またその場合、登録された番号と同じでなければなりません。登録された GK と同色の、穴あきのユニホーム（ビブス）を着用することは許可されます。ユニホームの色が同じであれば、形にはこだわる必要はありませんが、登録された番号が、表・裏共に確認できる状態でなければいけません。

3) 番号はユニホームにきちんとつけておかなければいけません。また番号が明確に読み取れるように配色、数字の大きさ、太さも配慮する必要があります。背番号がとれそうな状態でのプレーは禁止します。ピンやテーピングで止めることは許されません。これらが正されるまでは、競技に出場することができません。確認、出場の許可はテクニカルオフィシャルが行います。

4) **ユニホーム広告に関する事項は、本協会が定める「ユニホームに関する細則」を確認してください**。ただし、国体では広告をつけたユニホームを着用することは許されていません。

5) 代表者会議でユニホームの確認、承認を行うことがあります。また、当該の試合で着用するユニホームは、ゲーム前のオフィシャルミーティングでレフェリー、テクニカルオフィシャル立会いの下で決定されます。第 1 試合は試合開始 30 分前、第 2 試合以降は、前の試合の前半終了直後にジャッジーズテーブル前で行います（大会や試合期日に別途定められることもあります）。その試合に着用する全ての種類のユニホームを持参してください。対戦する 2 つのチームのユニホームの色とデザインの組み合わせは、互いに明確に区別できる必要があります。調整がつかない場合は、チーム番号の大きいチームが変更します。

6) チームはユニホームとして、シャツ・パンツ、そしてソックスの色を統一してください。なお、ソックスは色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問いません。また、ユニホームの規格は以下に示した通りとします。

7) 試合中、ユニホームが破損し、競技を続行できないと判断されるときは、別のユニホームに着替えなければなりません。その場合、番号は異なってもかまいません。また状況によって、交代地域にいるその他のプレーヤーのユニホームと交換することも可能とします。

⑨ 代表者会議

各チームは、各大会で指名された代表者（監督や主将）は代表者会議に出席しなければ

なりません。会議において、大会実施の諸条項の確認などを行い、大会の円滑な運営に役員、チームとも協力しなければいけません。また、その大会で着用するすべての種類のユニホームを持参し、代表者会議で確認することが望ましいですが、原則は各試合のオフィシャルミーティングでレフェリー、 テクニカルオフィシャルが立会いの下に確認します。

⑩ ゲームエントリー

代表者会議で決定したチーム役員、プレーヤーのみが競技に参加、出場することができます。各試合の出場プレーヤー、参加チーム役員数は競技規則に定められた通りとしますが、主催者が別に定めたときは、その規則に従ってください。

⑪ オフィシャルミーティング

トスは、試合開始前、ジャッジーズテーブル前で行います。国内での第 1 試合のトスは、概ね試合開始 30 分前とし、第 2 試合以降は、前の試合の前半終了直後に行います。トスには、チームを代表するプレーヤー、もしくはチーム役員が立ち会います。トスは競技開始前にレフェリーが行いますが、テクニカルオフィシャルは立会い、問題が生じたときにはテクニカルオフィシャルが助言・勧告します。

⑫ メンバー表の提出

チームはメンバー表を毎試合ごとに提出する必要があります。大会本部が用意して配布し、毎試合提出することも可能です。スコアキーパーは提出されたメンバー表をもとに、公式記録用紙に転記します。テクニカルオフィシャルは公式記録用紙にプレーヤー、チーム役員、その他の記入事項が正しく記入されたかを管理します。

⑬ 背番号

背番号は、1 から 99 までとします。ただし、国体での背番号は、1 から 12 とします。

⑭ ボール

空気圧の数値は各試合の前に、テクニカルオフィシャル、レフェリー、チーム役員の協議によって決定します。適正なボールの機能が発揮できる空気圧とします。

2020年施行の新ガイドライン**（通達参照のこと：2020年2月15日）**より、**予備のボールをジャッジーズテーブルのみならず、コートサイド（各コーナー付近）に置き、それらの使用を可能とします。**ただし、予備のボールを使用するかどうかは、競技規則 3：4 に基づきレフェリーが決定します。国内大会では、マルチボール方式で防球ネットが設置できない状況下で、従前からジャッジーズテーブル以外にも予備ボールを置き、使用を認めていましたが、防球ネットが完備されている状況下での新たに 4 つの予備ボールの設置については、大会主催者の判断に委ねます。

⑮ 登録証

メンバー表とともに登録証は、各試合前に各チーム代表者がレフェリー、テクニカルオフィシャルに提出します。プレーヤー・チーム役員は、各試合に登録証を提出しなければ、試合に参加、出場することはできません。

試合終了後、テクニカルオフィシャルもしくはレフェリーは、両チーム代表者に登録証を返却します。

裁定委員会に提訴されるプレーヤー、チーム役員がいる場合は、当該者の登録証はその場で返却せず、裁定委員会終了後、裁定委員会の処置に従い返却します。

また、ドーピングコントロール検査対象者に選出されたときは、ドーピングコントロール班の係員に渡します。検査終了後に返却されます。

⑯　チーム役員の服装

　交代地域にいるチーム役員は、スポーツウェアか平服をきちんと着用していなければいけません。また、相手チームの CP と、はっきり区別できる色でなければいけません。

　試合開始前のトスの段階で相手チームの CP のユニホームの色を確認し、重複しないよう配慮してください。止むを得ずプレーヤーのユニホームの色と同じ場合、テクニカルオフィシャルはレフェリーと共に、チーム役員に色の異なる上着の着用を指示してください。正さなければ交代地域に留まることは許されません。

⑰　身に着けられるもの（保護を目的とした装具）

　サイクリングパンツ、アームスリーブ、アンダーシャツ、コンプレッションソックスなど従前に定められていた「身に付けられるもの」については、別紙の「ＪＨＡ保護を目的とした装具」記載している取り扱いとします。また、大会ごとに、遵守しなければならない事柄、注意事項として事前に参加チームに通知しておくことを推奨します。

⑱　役員カード

　試合に参加するチーム役員に、A から D の首からさげられるカードを渡します。試合中、チーム役員に常に着用させておかなければいけません。このカードは、ハーフタイム中もつけておかなければいけません。

　カード A をチーム責任者とします。カード A をつけているチーム役員がいなければ、責任者として認められている行動はできません。国体は監督がカード A をつけます。IHF 規則では、プレーヤーとチーム役員の兼任は認められていませんが、国内では兼任を認めています。兼任プレーヤーが交代地域にいる時間が長いときは、役員カードを首から下げていなければいけません。試合に出場する場合は、カードを交代地域に置いておかなければいけません。

⑲　記録用紙

　IHF が制定した公式記録用紙に準じ、平成 28 年度から改正した公式記録用紙を使用します。ただし、**国内の競技会において、手書きの場合には、従来のランニングスコアを公式記録用紙として使用することができます。**公式記録用紙はジャッジーズテーブルで記載し、電算システムや記録補助としてのランニングスコアはジャッジーズテーブル後方の競技役員席で記録します。 本協会ホームページに掲載している PC を利用した公式記録用紙・ランニングスコアシステムをダウンロードして利用することを推奨します。

⑳　TD の配置

　全日本大会のテクニカルオフィシャルは、大会ごとに指名しプログラムに掲載してください。また、全国大会だけでなく、ブロック大会、都道府県大会、地区大会でもテクニカルオフィシャルを配置して実施することを推奨します。

　競技会の種別に限らず、MO は競技規則、競技運営に精通し、責任を持って試合管理に当たることができる者、TD はジャッジーズテーブルの補佐、交代地域の管理などを行うことができ、補助員とともに試合の運営にあたる能力がある者とします。

㉑　テクニカルオフィシャルの服装など

　テクニカルオフィシャルの服装は、できるだけテクニカルオフィシャルとして統一した服装とします。ブレザーにネクタイ着用もしくはスポーツウェアを着用してください。

３．試合前（セレモニーや確認）

①　記録用紙の確認

　試合開始 **40 分前から** 10 分前までの間に、各チームの責任者は、公式記録用紙に転記されたプレーヤー、チーム役員の記入が正しいものであるかを確認し、確認の署名をします。チーム役員が、A から D の区分で記入されているかを確認します。最終的に、誤記載、記入漏れの責任は、確認を怠ったチーム責任者にあります。

　試合開始前に負傷したプレーヤーが出た場合、試合開始 10 分前までは交代することができます。この場合、大会にエントリーしているプレーヤーでなければ交代はできません。

②　アナウンス

　延長戦を実施したこと等により定刻の試合開始時間に開始できないときは、試合開始までの時間は各大会によって定めます。その場合、試合開始予定時間を各チーム、観客に知らせてください。

③　選手紹介

　選手紹介では、プレーヤー、チーム役員のみならず、レフェリー、テクニカルオフィシャルなど関係者は全員紹介してください。

④　セレモニー

　試合前の入場は原則、レフェリーの先導で行います。センターラインに平行に並ぶ場合もレフェリーが先導します。原則として挨拶は、コート中央にサイドラインと平行に横一列に並び、観客、ベンチに対して礼をして始めます。プレーヤーの紹介を行う場合にはベンチから、あるいはコート外から入場する方式を取り入れるなど、各大会で工夫して行ってください

　また、試合開始の挨拶時、テクニカルオフィシャルを含めてジャッジーズテーブル補助員、モップを担当する補助員も起立し、挨拶をします。

⑤　登録者の確認

　各チームは、その大会に出場するプレーヤー、参加するチーム役員の登録証を持参し、試合ごとにテクニカルオフィシャルが確認します。

　テクニカルオフィシャルとレフェリーは、試合開始前までに、登録証によってチーム役員とプレーヤーの照合を行います。場内放送でプレーヤー紹介がある時は、その際にテクニカルオフィシャルが照合します。

４．試合中

（記録、得点、交代地域、タイムアウト、段階罰、負傷退場、延長戦、7MTC など）

① 通信機器の利用

レフェリー 2 名とテクニカルオフィシャルのうち 1 名の計 3 台 1 セットを最小単位とし、競技中の通信機器の利用を積極的に推進します。余裕があればもう 1 名のテクニカルオフィシャルが使用します。

② 記録・得点

試合途中のレフェリーの各種の合図に対しては、タイムキーパーが対応します。レフェリーが得点の合図をした時、手を高く上げ、確認の合図をします。レフェリーがプレーヤーに警告を与えるためにそのプレーヤーを指し示した時に、番号を特定できた場合には、タイムキーパーはイエローカードを高く上げて合図をします。番号がわからなければ、イエローカードは上げる必要はありません。退場、失格も前述の要領で対応します。退場の場合、再開の合図の際、タイムキーパーは退場を意味する 2 本指を用いて合図をします。以上の点は、試合開始前に、レフェリーと打ち合わせをしておく必要があります。これらの業務はタイムキーパーの業務です。

TD はこれらの業務を行うことはありませんが、業務の指示、支援をします。

③ チーム役員

試合開始後遅れてきたプレーヤー、チーム役員は、テクニカルオフィシャルが承認することにより、試合に出場、参加できます。承認されるためには、出場、参加資格があり、事前に提出されたメンバー表に記入された者でなければいけません。

記録用紙に記載されていないプレーヤーや、参加資格のないプレーヤーが競技に出場した場合、当該チーム責任者に、レフェリーが罰則を適用します。

プレーヤーとチーム役員が兼任の場合、罰則は個人に適用するものとします。コート上での罰則はプレーヤーに、交代地域でカードを着用しているときはチーム役員に記録します。ただし、プレーヤーで適用され、あるいはチーム役員で適用された場合であっても、個人として警告を 2 回適用することはできないことから、繰り返しの違反は 2 分間の退場となります。

④ チーム責任者の許される行為

事実判定以外の事項につき、必要かつ適正と認められる場合、チーム責任者だけがテクニカルオフィシャルを含み、ジャッジーズテーブル補助員と話しをすることができます。スポーツマンシップに反しない程度の得点か得点でないかの確認、問い合わせは許容されるべきです。

⑤ 試合中の確認事項

試合中、事実判定を除いた確認すべきことが生じた場合には、役員カード A を付けたチーム役員がテクニカルオフィシャルに問い合わせることができます。この問い合わせに対し、テクニカルオフィシャルは真摯に対応、適切に判断しなければなりません。必要があれば競技委員長、大会委員長と協議し、適切な競技運営を遂行します。

⑥ チーム役員の退場

チーム役員が退場となったとき、退場者電光表示板の番

号表示は入力する必要はありません。ジャッジーズテーブルの上に紙で掲示する際は、A から D と表記し、プレーヤーの入場時間を掲示します。

⑦　交代地域（規定と管理）

チーム役員もプレーヤーも、次のことは許されません。

- レフェリーやテクニカルオフィシャル、タイムキーパー、スコアキーパー、プレーヤー、チーム役員、観衆を挑発、抗議、その他のスポーツマンシップに反する方法（言葉、表情、身振り手振り）で妨害または侮辱すること。
スポーツマンシップに反する行為には、判定に対する不満を表すジェスチャーをしたり、大声を出す、相手チームのみならず自チームのプレーヤーに悪態雑言を浴びせる、観客に対して不満の表現をしたり、大会・競技役員を含めて観客に不当な表現を用いたりすることを含みます。

- 競技に影響を与えるために、交代地域を離れること。
プレーヤーやチーム役員は、原則として自チームの交代地域に留まるものとします。しかし、チーム役員が交代地域を離れ別の場所へ移動したときは、チームを指揮し管理する権限を失います。その権限を再び得るためには、交代地域に戻らなければいけません。

- 交代・入場を意図しないコート内への立ち入りは不正入場ではありません。例えば、プレーヤーが水分補給やタオル使用のために交代エリアラインを通らず交代地域に戻った、**あるいは、チーム役員がコーチングゾーン内のサイドライン際でプレーに影響を与えることなく戦術的指示を出していた**としても、罰則の適用はありません。ただし、水分補給できるのは、自分のチームの交代地域のみとします。相手チームの松ヤニを使用したり、水分補給をするためにコート外に出ることは、コートの不正使用となり違反行為となります。加えて退場の判定の際、交代エリアラインを通らず、潔く交代地域に戻った場合は罰則を付加する必要はありません。

- チーム役員は原則として、ベンチに座っていなければいけません。ただし、チーム役員 1 名のみが戦術的な指示を出すことや、治療を目的としてコーチングゾーンの範囲内で動くことが許されます。
- 試合中、許可した者を除き、いかなる者でも交代地域に出入りさせてはいけません。
- 試合中、交代地域にスペースがあれば、その地域内での短時間のウォーミングアップは許されます。しかし、交代地域内でボ ールを持つこと、触ることも許されません。また、ウォーミングアップを中断するようであれば、ベンチに座らなければなりません。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出したり、試合の判定に反応して大きな声もしくはジェスチャーをすることは許されません。ウォーミングアップを中断したと見なされ、その後ウォーミングアップを再開したとしても直ちに座るよう、TD から指示をしてください。指示に従わない場合はスポーツマンシップに反する行為として、罰則が適用されます。

▶ CP と交代した GK は、ベンチに着席していなければいけません（交代後、交代地域に立ったままで待つことは許されません）。

⑧　交代地域で使用できるもの**（通達参照のこと：2020年5月16日）**

交代地域において、パソコンやタブレット端末等の技術的器具の使用を認めます。

選手の安全・戦術的指示のためで、持ち運びができるもの(マイクロフォン、ヘッドフォン、イアピース、スマートウォッチ、タブレット、またはノートパソコン等）の使用を認めます。ただし承認されない機器を使ったり、機器を使った結果として不適切な言動（例えば、レフェリーの事実判定についての質問等の道具として使用すること等）があった場合は、交代地域から外して交信できない状態にします。罰則により競技場を去ったプレーヤーやチーム役員との交信も許されません。

この件に関しては、本協会強化本部・指導普及本部より別途使用についての具体例を含めたガイドラインを通知し、それに従うこととします。

交代地域では、メガホンの使用を禁止します。

また、全国大会、ブロック大会を除く各種大会においてチームにスタッフが少ない場合、競技に影響ない範囲で交代地域においてビデオ、写真撮影を可能とします。

⑨ **記録用紙に記載されていないプレーヤー（通達参照のこと：2020年2月1日）**

記録用紙に記載されていないプレーヤーがベンチしていることやコート上でプレーしていることが分かった場合、以下の手順で競技を運用します。

- チーム責任者に段階的罰則を適用します。
- 大会規定のベンチ入りできる人数に対して、記録用紙に記載されている人数が最大数未満の場合に限り、追加で記録用紙に記載することができます（大会にエントリーし、参加資格が認められているプレーヤーであることが条件）。また、例えば 11 番で登録したプレーヤーではなく、記録用紙に記載のない 14 番の選手プレーヤーが誤って試合に参加して場合も、11 番を削除して、代わりに 14 番を記入（追加）することを可能とします。
- 競技の再開は、チーム責任者に罰則が適用されているため、中断の理由に相応しいスローで競技は再開となります。
- 記録用紙の特記事項に記載します。

⑩ ユニホーム（背番号）を間違えて参加したプレーヤー

例えば本来 14 番で記録用紙に登録していた選手が、間違えて 18 番のユニホームを着用しプレーしていたことが競技中に判明した場合には、競技を中断し、背番号を記録用紙に記載されているとおりに着替えさせてください。その再開方法は、競技の中断に相応しいスローで競技を再開とし、記録用紙にその旨を記載します。

⑪ チームタイムアウト

グリーンカードは 3 枚準備します。それぞれのカードには ①、②、③ と番号をつけ、明確にしておく必要があります。前後半に最高 2 回までしか請求できないことから、前半には ① と ② の番号がついているカードを配布します。前半 1 回も使用していないチームからは、① のカードのみを回収します。また前半に 2 回使用したチームには、後半が始まる前に ③ のカードのみを配布します。本来使用しなければならないカード番号でなくても、申請は認められます。

チームタイムアウト終了後、TD は正しいカード番号に戻してください。試合後半残り 5 分間は、1 回しか請求できません。後半 25 分を経過し、2 枚のカードが残っている場合、TD は ③ のカードを回収してください。残り 5 分でチームに誤って 2 回のチームタイムアウトを請求させないためにも、回収を怠りなく行ってください。

コーチングゾーンを越えてジャッジーズテーブル近くでグーンカードを出したり引っ込

めたりするような状態の時は、スポーツマンシップに反する行為としてレフェリーを呼び、罰則を適用するよう指示します。

グリーンカードは、チームアウトを請求するときにのみ取り扱い、通常は置いておくことが原則となります。しかし、チーム役員は、状況を見計らうことはあり得るので、コーチングゾーン内で手に持つ、または背中に挟む等、出すタイミングを計りながら戦術的指示を行うことは認めなければなりません。

プレーヤー兼任のチーム役員がグリーンカードを出す場合、役員カードを首からぶら下げるか、手に持っていなければいけません。チーム役員登録をしていないプレーヤーはグリーンカードを提出する権利がないため、このような場合、受け取ってはいけません。したがって、その試合にチーム役員が不在の時は、チームタイムアウトの請求ができません。

⑫ 主催者が認めたテレビ関係者は、チームタイムアウトの時間だけ交代地域の付近で報道活動することができます。また、コート内から、ベンチの活動を撮影することが許可されます。その他の時間帯の報道活動は、交代地域内での取材活動は認められません。

⑬ 負傷したプレーヤー

プレーヤーが負傷して救護が必要な場合、レフェリー・TD の許可・指示に従ってプレーヤー、チーム役員を含めて関係者が 2 名までコート内に入ることが許されます。また、同じチームの複数のプレーヤーが負傷した場合には、規定の人数よりも多くコートに入ることが許されます。この場合も 1 人のプレーヤーに対して最大 2 名までとします。試合再開をスムーズにするために、テクニカルオフィシャルまたはレフェリーの指示によって、交代するプレーヤーを予めコート内に入れることもできます。

⑭ 出血時の対応並びに重大な負傷の状況

試合中、出血して血液がユニホームに付着し拭き取れない場合は、ユニホームを交換しなければいけません。その場合、番号は異なってもかまわいません。競技中に外傷等が発生した場合、出血を認める場合はコート内に留まることは許されません。レフェリーが交代地域に戻るよう指示をする必要があります。レフェリーが出血等に気がつかないときは、テクニカルオフィシャルが笛の合図でレフェリーに知らせてください。TD による止血の確認がなされた後、当該プレーヤーは競技参加が可能となります。骨折、脱臼といった整形外科的外傷、脳震盪、心臓震盪、その他競技に出場することでプレーヤーの健康が明らかに阻害されると判断できる場合は、医師、専門家の判断を参考にして、チームの判断で出場の可否を決定します。ただし、誰が見ても明らかに競技することが適切でないと判断される場合は、競技に参加させることはできません。

モップを担当する補助員は、プレーヤー等が出血し、その血液がコート上についたときは、感染予防のため、通常のモップ、雑巾で拭くことは避けてください。モップを担当する補助員または専任係は、**直接血液に触れないように**、ゴム手袋を着用しなければいけません。一度使用したゴム手袋、雑巾はその都度廃棄のための袋に入れ、感染予防の処置をした後、医療用廃棄物として廃棄しなければいけません。

⑮ 明らかな得点、得点の取り消し、退場者の得点

例えば速攻のような場合、両レフェリーが、違反の事実を見ることができないような状況になった場合、テクニカルオフィシャルは得点後に、レフェリーに失格相当の違反の事実を知らせ、罰則を適用するよう指示します。

得点に関わることについて、その場で異論が出るような場合、慎重に対応しなければなりません。次のスローオフが吹かれた場合、得点は取り消すことができないことから、レフェリーは短時間で適切かつ公正な判断を下す必要があります。そのためテクニカルオフィシャルは、決定のために支援しなければいけません。ただし、レフェリーの事実観察や

判断に基づく判定が、最終的なものとなります。
　試合中に退場しなければならないプレーヤーが何らかの理由によって退場せずに試合に出場し続けたことが判明した場合、その時点から退場を適用します。出場したことに対する責任はテクニカルオフィシャル、レフェリーにあり、プレーヤーにそれ以上の罰則の適用はしません。事実が判明する間にそのプレーヤーが得点をあげた場合、その間のすべての記録を認められます。ただし、退場が判定された後の得点において、次のスローオフまでに退場の事実が判明した場合、得点は認めず、その時点から当該プレーヤーを退場とします。

⑯　スコア誤記の取り扱い
　スコア―シートの誤記載、誤記入が判明した場合、適正な状況から再開となります。競技中、誤った判定、判断で競技が行われ、途中でその判定、判断が誤っていたことが判明した場合、その時点で適正な処置をし、競技を再開します。試合後終了後に記録ミスが判明した場合は、勝敗に関する場合は相応しい状況から再試合をしなければいけません。修正した結果同点であった場合は、延長戦を行わなければいけません。
　スコア誤記に関して、プレーヤー、チーム役員にその責任を負わせることはできません。もし、得点を認めた後にスローオフの笛が吹かれたならば、その得点は修正することはできません。

⑰　オウンゴール（以下 OG と表記）
　この状況で得点が入った場合、得点したチームの得点欄に OG として記録します。個人の得点にはならないため、出場プレーヤーの記載のない欄に得点として記録してください。さらに、特記事項の欄に OG があったことを記載します。

⑱　競技終了前 30 秒間
　競技終了前 30 秒間の失格、報告書付きの失格およびスポーツマンシップに反する行為が起きた場合は、競技再開は全て 7m スローとなります。
　この場合の終了間際とは、正規の競技時間だけではなく延長戦も含みます。

⑲　競技終了の合図
　ブザー、または笛で行います。音が適切に競技者、観客に分かるよう管理します。

⑳　最後の一投
　いわゆる「最後の一投」を行う際、**負傷したあるいは負傷を訴えた GK 以外の防御側のプレーヤーの交代は許されません（通達参照のこと：2020年2月1日）**。また、攻撃側の最後の一投をするプレーヤーは、直ちにその位置に着かなければいけません。攻撃側は 1 名の交代が許されますが、一投を行うための交代しか行うことができません。

㉑　延長戦
　延長戦の実施については、各大会で定める。正規の後半戦を終了した段階で同点により勝敗が決しない場合は、延長戦を行います。第 1 延長戦を行ってもなお同点で勝敗が決しない場合は、第 2 延長戦を行います。

- レフェリーがトスを行います。
- 延長戦開始までの休憩時間は 5 分とします。
- 延長戦のハーフタイムは 1 分間です。休憩後に円滑に試合が始められるよう、テクニカルオフィシャルはレフェリーと協力して対応してください。

㉒　7 メートルスローコンテスト（以下 7mTC と表記）
　延長戦を行い同点の場合は、7mTC により勝敗を決します。7mTC は次の要領で実施します。原則は 5 名で行います。後半試合終了後、当該チームは 7mTC を行うプレーヤーの

リストをレフェリーに提出します。大会によっては 3 名で行うこともできます。7mTC の登録・記録用紙を利用すると管理が行いやすいため、活用を推奨します。

実施要領は次の通りとします。

- 先投、後投をコイントスで決定します。
- 両チームのプレーヤー、チーム役員は、ジャッジーズテーブル業務の妨げにならないよう、使用するゴールの反対側のコートのセンターラインから 4.5m 離れた仮想ライン上に整列させます。
- 両チームのスローをするプレーヤーは、4.5m の整列ラインから交互にスローを行います。
- 交互に 7m スローを行い、（5 投あるいは 3 投が終了した時点で）得点の多いチームが勝利となります。なお、スローの結果が 3 対 0、もしくは 4 対 1 等のように途中で勝敗が確定となれば、その時点で 7mTC を終了となります。
- 7mTC を行う際、登録されてないプレーヤー、あるいは罰則が適用されているプレーヤーは参加資格がありません。5 人制で実施する場合と、状況によって 5 人参加できない場合があります。例えば 1 人少ない場合、記録用紙には 5 回目のスローが失敗した旨を記入します。なおその際、補充はできません。

㉓ ドーピング対応

大会でドーピング検査を実施する場合は、レッドカード席を設ける必要があります。その場合、即座に失格を判定されたプレーヤーはコート外周（大会により設置場所は異なる）に用意したレッドカード席に着席していなければいけません。プレーヤーの管理は、アンチ・ドーピング・コントロール班が行います。当該プレーヤーは、試合終了後、ドーピング検査の対象者となることがあります。

㉔ 臨時トレーナー

試合中のプレーヤーの応急手当の際の管理は、テクニカルオフィシャルが行います。

応急手当を行うチーム役員も、本協会に登録されていなければいけませんが、国内の特殊事情で、トレーナーが登録締め切り日までに氏名を特定できないこともあります。その場合、交代地域の外側に臨時トレーナー席を用意し、プレーヤーが負傷した場合、トレーナー席が設置されている場所で応急手当をすることを認めることとします。ただし臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることはできません。またこの席からコート内にいるプレーヤーに指示をすることは、交代地域規定違反となります。これらの違反をした場合、チーム責任者に罰則が与えられます。

交代地域の外に用意された臨時トレーナー席は、**おおむね GK ラインの延長線上**でベンチより後方に設置してください。

この臨時トレーナー席に立ち入ることのできる該当者は、トレーナー等の公認資格を有していなければいけません。必要であるときは身分証明書の提示は求めることが望ましいでしょう。

㉕ 通訳の配置

IHF 及び AHF 主催を除く国際試合の場合、通訳（チーム付きを含む）を置くことができます。通訳席はベンチの後方に設置します。通訳席で通訳業務以外のこと（声を発してプレーヤーに指示）をすることは許されません。

大会役員やテクニカルオフィシャルとの通訳をすることが主業務となります。IHF、AHF主催ならびに国内大会では通訳を置く場合、チーム役員として予め登録されておくことが必要となります。

㉖ 突発的事象

突発的事項が発生し競技時間が終了していなかった場合、テクニカルオフィシャルは試合を中断させなければなりません。

混乱によって試合当日に試合が続行できないと判断された場合は、原則として、観客の有無にかかわらず、翌日（別の日）に同スコア、同じ残り時間、中断時の状況から開始しなければいけません。競技主催者、関係者と協議の上、再開方法など決定することが望ましいでしょう。

大会、各試合の続行に関して特別な判断が求められる場合は、大会委員長、競技委員長および日本協会代表者が協議し、決定します。

㉗ レーザーポインターでの妨害

試合中、観客席等から競技を行っている関係者に対してレーザーポインターの照射が認められたとき、照射に気がついた関係者がテクニカルオフィシャルに報告し、MO（またはTD）は会場アナウンサーを通じて照射をやめさせるように放送をします。引き続き照射が行われるようであれば、プレーヤー等関係者の健康を考慮して無観客試合とすることもあり得ることを放送します。

㉘ 当該試合の関係者以外の競技場内への立ち入り

前半終了間際、あるいは、試合終了間際になると、次の試合のプレーヤーがコート近くにきて、各種の準備活動を始めることが考えられます。試合に影響がありそうなウォーミングアップ、ボールの使用は禁止するなど、主催者の判断で、競技場内への入場を制限することができます。

５．試合後

① 試合終了後の挨拶

試合終了後はコート中央でサイドラインと平行に並び、ベンチ、観客がいれば反対側に挨拶をします。その後、すれ違いながら握手またはハイタッチをします。観客の有無を問わず、相手チーム役員もいることから国内でも積極的に実行したいものです。

② 公式記録用紙の取り扱い

公式記録用紙（ランニングスコア公式記録用紙も含む）は主催者用として大会本部に提出します。2 枚目は日本協会提出用として大会本部に提出します。3 枚目、4 枚目は、各チームに 1 部ずつ配布します。記録用紙が速やかにチームに配布できるよう、大会本部に提出できるよう管理します。各チームには公式記録用紙とランニングスコアの 2 種類を渡します。すべての事項が記入され、テクニカルオフィシャルが最終確認をした後、TD、MO の順で署名します。

③ 裁定委員会

各大会に裁定委員会・上告委員会を設置します。裁定委員会は、競技委員長、競技副委員長、審判長で構成されます。

試合終了後、チーム責任者を通じて行われる事実判定以外の口頭による異議申し立ての時間を試合終了後 1 時間以内とし、2 時間以内に納付金 5 万円を添えて文書で提訴する

ことになります。正式な手続きを経て裁定委員会を開催し、協議します。
　裁定委員会では必要に応じて、プレーヤー、チーム役員、レフェリー、テクニカルオフィシャル等の関係者を同席させ、事情を聴取することがあります。裁定しなければならない事案が生じた場合は、原則として当日に裁定をし、関係者に通知しなければなりません。その結果は、翌日には各会場に公示しなければなりません。
　ブルーカードの提示した場合を含め裁定委員会を開催する場合、テクニカルオフィシャルはレフェリーと共に裁定委員会開催要望書を作成し、競技委員長に提出します。
　また当該試合で特記事項があれば、裁定委員会開催要望書を競技委員長に提出します。
　交代地域規定に違反する行為があった場合、あるいは、特別な出来事があった場合、テクニカルオフィシャルは速やかに失格に関する報告書、裁定委員会開催要望書を作成し、競技委員会委員長（裁定委員会委員長）に提出する必要があります。
　裁定委員会ではプレーヤー、チーム役員のみならずレフェリー、テクニカルオフィシャル、大会関係者も重大な過失を伴う行為、処置が伴う場合には審議対象者となり、裁定委員会の審議の議案に含まれています。

④　上告
　チーム関係者は、裁定委員会の決定に不服がある場合、通知書を受理してから 2 時間以内に文書で上告することができる。上告のための文書は形式任意とし、納付金 15 万円を添えて上告委員会に提出されます。上告があった場合は大会上告委員会を開催します。
　上告委員会は大会委員長、大会副委員長、総務委員長および大会委員長が指名した委員で構成されます。大会上告委員会は上告の文書を受理してから 4 時間以内に最終決定を行います。この決定が、最終決定となります。

最後に

　当該の試合を二人のレフェリーとともに任されたのがテクニカルオフィシャルであり、その試合を円滑に運営し、成立させる責務を負っています。レフェリー、タイムキーパー、スコアキーパーまた、チーム役員、選手と協力しあい、素晴らしいゲームが展開できるようお願いいたします。

（参考）IHF Nominees Event Guide

MO・TDの準備および大会期間中の任務

マッチオフィシャル（MO）の準備および大会期間中の任務

大　会　前		
自宅での準備	研修会	
大会前に自宅での準備 － 競技規則と関連する規則・通達を学習します。 － 日本協会審判本部が提示している、競技規則書・競技規則研究に関するガイドライン・競技規則問題集（特に第２条、第４条、および第８条に関連）を基に学習します。 － 日本協会競技・審判本部からの通達された内容（映像資料も含めて）を学習しておきます。 － レフェリー評価者としての、評価方法について確認しておきます。	テクニカルオフィシャル研修会への参加。	大会前までに行われる競技規則試験での合格。

試　合　前		
服　装	機器類と広告に関する規定	テレビ
－ＭＯは、通知に従って主催者によって定められた服装を着用しなければなりません。 － 更に、ＭＯはすべての競技役員が指定された服装に従っているか、管理すべきです。	ＭＯは、大会関係者がコートの設置状況や機器、および広告に関する規定を遵守していることを確認しなければなりません。	ＭＯは、大会関係者と協力し、テレビカメラマンが試合中にベンチなど特別な場所での撮影を許可するか否かを決めておきます。

試　合　中			
スーパーバイザー業務	通信機器	交代地域	ゲーム観察
– 日本協会主催大会ではジャッジーズテーブル（以下、記録席）で２名のＴＤと一緒に業務を行わなければなりません。 – タイムキーパーを担うＴＤ（以下、ＴＫ）とスコアキーパーを担うＴＤ（以下、ＳＫ）の２名を指導する立場として、チームワークで不測の事態に備え、どのような状況にでも対応できる準備をしておきます。	– 日本協会競技・審判本部の指示に従って、レフェリー、ＴＫ、ＳＫと通信できるヘッドセットを使用してください。 – 最新のルールに従ってレフェリーとチームをサポートします。	– 交代地域規定に従った振る舞いに気を払います。 本当に必要な場合以外は、ＭＯ席を離れないようにします。	– 試合にすべてを集中し、他の業務をしてはいけません。 – チームによる公式な抗議につながる、競技規則に従っていない判断をすることを避けるため、適切な判定を下さなければなりません。 メモ： ＭＯは、事実観察に基づいてレフェリーが行った判定を除き、ゲームを中断したり、規則違反についてレフェリーに忠告を行う権利を持っています。 試合中に特別な事態が発生した場合、ＭＯは最終決定をしないといけません。その場合、直ちに大会委員長等に連絡します。判断が難しい場合は、最初に大会委員長に相談することを推奨します。

試　合　後
報告書
競技規則と関連し、報告書の作成が必要となった場合は、報告書を裁定委員会に提出してください。チーム紹介時における不適切な振る舞いや、競技規則や通達等で禁止された装具を選手が使用した（試合前に正さずに競技に参加した）場合も含みます。

一般的な任務（大会中の担当試合以外での業務）	
利用できるものとして	**ミーティング**
緊急時に電話やメッセージなど受けとれるように大会委員長に連絡先を伝えておきます。	- チームと一緒に代表者会議等に出席します。 - レフェリー・ＴＤが招集されるテクニカルミーティングに出席します。 - その他必要に応じて、招待される各種会合に出席します。

レフェリーのアセッサー（評価者）としての活動
- 担当の試合ではレフェリーアセッサーとしても活動をします。 - ソフトウェア”Dartfish”等を活用し、映像を用いてレフェリーへの指導およびフィードバックを行います。 - 各試合の後、レフェリー評価票をもとに、レフェリーペアと簡単なミーティングを行います。 - レフェリー評価票を完成させ、審判長に提出します。

タイムキーパー／スコアキーパーとしての TD の準備および大会期間中の任務

大　会　前		
自宅での準備	準備するべき項目	
大会前に各自家庭で準備すること － 競技規則と関連する規則・通達を学習します。 － 日本協会審判本部が提示している、競技規則書・競技規則研究に関するガイドライン・競技規則問題集（特に第２条、第４条、および第８条に関連）を基に学習します。 － 日本協会競技・審判本部からの通達された内容（映像資料も含めて）を学習しておきます。 － レフェリー評価者としての、評価方法について確認しておきます。 － 競技規則の研究。	テクニカルオフィシャル会議等に参加すること。	大会前までに行われる競技規則試験に合格しておくこと。

試　合　前		
服　装	公式記録用紙	機器とその機能の確認
－ ＴＤは、通知に従って主催者によって定められた服装を着用しなければなりません。	－ ＴＤは試合開始 40 分前から 10 分前までに各チームの「チーム責任者」によって公式記録用紙にサインがされてあることを確認しなければならない。	－ ＴＤは記録席に予備のタイマー、タイムキーパーのためのストップウォッチや笛（または他の合図を送るための器具）などの必要な備品が準備されていることを確認しなければならない。

服　装	公式記録用紙	機器とその機能の確認
－ 更に、ＴＤはすべての競技役員が指定された服装に従っているか、管理すべきです。		－ ＴＤは公式試合球が準備されてあることを確認しなければならない。 － ＴＤは会場責任者（競技会場の代表）と協力して電算タイマーやスコアボードの機能が正常であるか確認しなければならない。 － ＴＤは公式記録用紙が準備されてあるか確認しなければならない。ＴＤはＩＤカードを携帯するＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄを含むチーム役員が公式記録用紙に記載されているかを確認しなければならない。 － 大会の開始時の代表者会議において、決定された事項と最新のルールに従って、以下のことが確認されなければならない。 a. 選手の名前と番号の整合性：選手の番号と登録番号とが合っているか（どの選手も大会期間中は同じ番号のユニホームを着用しなければならない）を確認しなければならない。

服　装	公式記録用紙	機器とその機能の確認
		b. 選手のユニホーム： 各チームは大会開始前の代表者会議で許可されたのユニホームを着用しなければならない。チーム名や都道府県名、メーカーロゴ等、大会規程に則っているか確認しなければならない。 c. 選手のユニホームの背面には少なくとも 20cm 以上で、前面には 10cm 以上の大きさの番号を表示しなければならない。使用可能な番号は 1 から 99 までである。 d. 各チームのゴールキーパーは同じ色のユニホームを着用しなければならない。

レフェリーのアセッサー（評価者）としての活動				
監　督	コミュニケーション	交代地域	競技時間	試合観察
- 開催地のタイムキーパーとスコアキーパーをそれぞれ監督する。チームワークの精神を持って、どのような状況でもサポートも行う。 - 試合に指名された開催地のタイムキーパーとスコアキーパーとチームになりＴＤは監督・サポートする。 - 可能な限り、試合の前後または試合中に起こる全ての出来事に注意を払い、抗議につながるように出来事を防ぐように努めなければならない。また、試合中起こりうる事象に対して説明責任を負うことを肝に銘じておく。	- ヘッドセット（通信機器）が５台使用が可能な場合は、ＭＯ、ＴＤ、およびレフェリーで使用し、競技・審判本部によって提示された最新の指示に従ってコミュニケーションを図る。 - ヘッドセットが最低の３台の場合は、レフェリーおよびテクニカルオフィシャルのうち１名が使用する。	- ＭＯと協力して競技規則および交代地域規程従って交代地域の秩序を保つ。	- ＴＤには正確な競技時間を管理する責任がある。競技時間の管理が不適切な場合は、ＭＯおよびレフェリーが正確な競技時間を決定することができる。	- 競技中は試合とスコアキーパー、またタイムキーパーの業務に集中して取り組むこと。 - ＴＤの主な業務と責任は競技が競技規則や各種規程に則って正しく行われていることを確認することである。 - 正当な抗議につながるような状況を避けることに専念しなければならない。 - 一方で、ＴＤはレフェリーではない。レフェリーのみが事実判定に関する責任を負う。 - ＴＤは判定を下す権限は与えられていないので、競技規則運用に関し、求められればアドバイスをすることのみに徹する。

タイムキーパーとしての TD の追加業務

- 競技時間、競技の中断、退場時間、選手の入退場に関する管理をすること。

- タイムアウトの際には、即座に競技タイマーを止めること、試合再開の際には、競技タイマーを再開すること。タイムキーパーはレフェリーやＭＯが笛による合図で競技を中断した場合は、即座に競技タイマーを止めること。

- レフェリーにより判定された全ての罰則を確認すること。

- 以下の点を確認すること。
  a. 退場時間中に退場した選手が交代地域にいること。
  b. 失格した選手や役員が競技再開前に交代地域より去っていること。

- レフェリーが 3 回目の退場を判定し、その結果、失格となった選手にレッドカード（失格）であることをはっきりと伝えること。

- それぞれの交代ラインの間のみを通って、選手が入退場することを監視すること。

- レフェリーと協力してハーフタイム中に公式試合球に何らかの細工がされないように注意すること。

試合の流れに応じた
MO および TD の任務

【試合開始前】

試合開始までの手順

試合開始９０分前

○ **競技場到着**
♦ レフェリーアセッサー兼任はレフェリーとのミーティングを行う

試合開始７５分前

○ **備品点検**
（ゴール・キャッチネット・ジャッジーズテーブル上の備品、および公示時計など）

試合開始６０分前

○ **ジャッジーズテーブルの備品の確認および操作点検**

- 補助時計
- イエロー、レッド、ブルーカード
- グリーンカード①②③（2セット）
- チーム役員用のA～DまでのＩＤカード（2セット）
- 公式記録用紙
- 複数のストップウォッチ
- 複数の笛
- 2分間退場者用の補助カード
- 負傷者カード
- MO、TD補助シート

試合開始４０分前

○ **各チーム役員にＩＤカードおよびチグリーンカード①②を渡し、チーム責任者Ａからサインをもらう。遅くとも10分前までにはサインをもらうこと。**

試合開始３０分前

○ **オフィシャルミーティングに参加する（2 試合目以降は、前の試合のハーフタイム）**
○ **プレーヤーやチーム役員服装や装具を確認する**
必要があればチーム責任者の協力を得る

試合開始１１分前

○ **規定に従ってオープニングセレモニーの準備をする**
セレモニー後試合開始までの時間を通知

試合開始　２分前

○ **交代地域内、後方のボール等チームの道具を確認する**

試 合 開 始

※ ♦：ＪＨＬテクニカルオフィシャルのみの手順

par. ： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 前

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
必要な機器備品	笛・公式記録用紙・グリーンカード、イエローカード、レッドカード、マッチレポート、チームオフィシャルＡ～Ｆ用ＩＤカード、予備カード、公式試合球、予備ストップウォッチがない	全てが揃っているかをＴＤが確認する。 ない器具・備品は補充する。	ＭＯ・ＴＤの任務	
	公式掲示時計、退場者掲示が操作できない	予備のストップウォッチで計測、一定の間隔でアナウンス、手動掲示板で残り時間を示す。	ＭＯ・ＴＤの任務	
コート	ベンチの位置などが不適切	修正する。	第１条 図３	＋ 会場責任者
	安全地帯の確保ができていない／危険な広告ボードがある	修正する。必要に応じて緩衝剤、保護材でカバーする。	1:1 par. 2	＋ 会場責任者
	コート、ラインの不備	修正する。必要に応じて公式記録用紙に記載する。	第１条	＋ 会場責任者
準備	スコア記載の誤り	修正する。		
	選手の背番号がスコアシートに記載されている番号と異なる	試合前に提出されたメンバー表通りに修正を求める。	4:8 par. 1 17:3 par.1	
	メンバー表の提出が遅れる	メンバー表の提出を求める。必要に応じて、公式記録用紙に記載する。		
	試合開前 10 分前になっても、公式記録用紙にチームオフィシャルＡがサインしていない	チーム責任者を呼ぶようチームに要請し、公式記録用紙にサインを求める。 サインは必ず、チーム責任者が行わなければならない。		
	選手がオフィシャルミーティングで承認されていない色のウェアを着用している	承認を受けた色のウェアの着用を求める。解決されない場合には、トーナメント表の後に記載されているチームがユニホームを変更しなければならない。したがって、チームは登録されたユニホーム全色を持参しておかなくてはならない。公式記録用紙に記入する。		

par. : 第〇段落　　: MO の任務　　: TD の任務　　: レフェリーの任務

試 合 前（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	両チームのユニホームが同系色	競技規則に従い修正を求める。	4:7 par. 1	
	チーム内で着用しているサイクリングパンツの色が統一されていない	サイクリングパンツの交換あるいは着用しないよう求める。サイクリングパンツはチームで色を統一し、かつユニホームの基調色と同色でなければならない。		
	レフェリーのシャツとチームのユニホームが同系色	レフェリーは 5 色めを選択する。問題がある場合には、黒色のウェアを着用する。	17:13	
	ウォームアップ中に選手が負傷した	試合開始 10 分前までは、選手の交代を行うことができる。		
	ＧＫと相手チームＣＰのユニホームの色が同系色	修正を求める。必要に応じて、ＧＫが異なる色のビブスなどを着用することで修正する。	4:7	
	Ａチームの役員とＢチームのＣＰのユニホームが同系色	Ａチームの役員に別の色を着用するようを求める。	交代地域規程	
	ユニホームの前面の選手番号がない、あるいは破損した	ユニホームの変更を求める。必要に応じて、公式記録用紙に記載する。	4:8 par. 1	
	選手がネックレスあるいはその他選手の安全を危険にさらすもの（例：膝用プロテクター）を着用している	修正を求める。改善されるまでは競技に参加することができない。	4:9	
	一方のチームが、試合開始前（または後半の試合開始前）までに到着していない	公式記録用紙に記載する。必要に応じてスポーツマンシップに反する行為として、チーム責任者に段階的罰則を与える。	8:7	
	片方のチームが現れない。	遅刻の理由を明確にする。到着見込時間を確認し、開始時刻が遅れる可能性をアナウンスし、その旨を公式記録用紙に記載する。		
★	片方のチームが棄権した。	得点表記（例：10 - 0、12 - 0、16－0 等）は、大会規定による。		

par. : 第〇段落　　: MO の任務　　: TD の任務　　: レフェリーの任務

試 合 前（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	オープニングセレモニー前に、チームがコートを離れるのが遅すぎる	テクニカルオフィシャルは速やかにコートを出て、準備するよう求める。公式記録用紙に記入する。必要に応じて、スポーツマンシップに反する行為としてチーム責任者に罰則を与える。	8:7	
	一方のチームが更衣室に戻ったのち、オープニングセレモニーに遅れてくる	公式記録用紙に記入をする。必要に応じて、スポーツマンシップに反する行為としてチーム責任者に罰則を与える。	8:7	
	チームにゴールキーパーがいない	公式記録用紙には背番号のみでゴールキーパーとして記載する場所はない。コートプレーヤーの中から 1 名がゴールキーパーとなる。	4:1 par. 2	＋ ﾁｰﾑ責任者
	チームにチーム役員が同行していない	チーム役員の所在を明らかにする。登録されているチーム役員が試合に遅れて参加するかどうか、あるいはプレーヤーの一人が公式記録用紙に署名し、必要に応じてチーム責任者業務を引き継ぐかどうかを決定する。	4:2 par. 1	
	チームがベンチ後方で通訳者を配置すること希望。しかし、当該通訳者はチーム役員としてチームリスト既に登録されている	チーム役員として登録されている場合に限り、交代地域の後方に席を設けることが可能。		
	オープニングセレモニーで整列している際に、プレーヤーの一人が自国国旗を持っている。あるいは、相手チームの国歌演奏の際に、公正を欠く行為を行った	このような行為は著しくスポーツマンシップに反する行為とみなし、報告書を伴う失格とする。公式記録用紙に記載する。ただし、試合開始後にコート上のプレーヤーを 1 名、2 分間減らすことはせず、また選手の補充も不可とする。	8:10a 16:11b	
	スコアボートの記録とスコアキーパーの記録とが一致していない	テクニカルオフィシャル、タイムキーパーで連携、確認し、修正する。		

par. ： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 前（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	チーム責任者Ａが不在	他のチーム役員の中から１名が「チーム責任者」として指名されなければならない。	4:2 par. 1	
	ＴＶプロデューサーがスローオフ時間の延長を要請された	必要に応じＭＯが決定する。		＋ 競技委員長 （または会場責任者）
	前の試合の遅れが原因で、試合時間を延期しなければならない	ＭＯが開始時間を決定する		＋ 競技委員長 （または会場責任者）
	ＴＤが１人しか会場に来ていない	ＭＯは別のＴＤを指名するか、他の方法で対応する。		
	審判の一人がアップ中に負傷した	ＭＯは控え審判員１組を指名、あるいは別の方法で対応する。		
	ＣＰがＧＫとしてプレーする際、ビブスを着用する	テクニカルオフィシャルが決定する。		
	交代地域エリアにボール（ボールケース）がある（試合開始前、ハーフタイム終了後）	ボールの撤去を求める。ボールケースごとベンチの後方に置く。	1:1 par. ２ 交代地域規程	

【試合中～後】

試合中・後の業務

試 合 開 始	○ 前半開始
３０分後	○ 前半終了およびハーフタイム開始
ハーフタイム	○ 地元スコアキーパーと記録用紙の確認 ○ 試合球がテーブルに戻ってきていることを確認 ○ 使用しなかったグイリーンカードを回収する ○ 次の試合のオフィシャルミーティング（タイムキーパーを務める TD はテーブルに待機）
ハーフタイム １分後	
ハーフタイム 残り　２分	○ 後半開始前に、ロッカールームよりチームがコートへ戻ってきているかどうか確認する ・まだコートに来ていない場合は、チームのロッカールームまで呼びに行く
後半開始　１分前	○ 両方のチームの全員がロッカールームから戻ってきていることを確認 ○ ベンチの後ろにある全ての備品やボールがカゴ等の中に収められていることを確認 ○ グリーンカード②番（前半で使用されていない場合）および③番を渡す
後 半 開 始	
後半残り　５分	○ 競技規則に則り、グリーンカードの枚数を確認する（必要があれば回収する）
後半残り１０秒	○ 通信機器でレフェリーに対し残り時間 10 秒からカウントダウンを行う ・前半も同様に行う
後半終了（試合終了）	○ 延長戦や 7mスローコンテストがなければ競技は終了
試　合　後	○ チーム役員やレフェリーと挨拶する
試合後　２分	○ 試合の集計を地元のスコアキーパーやリザルト担当と比較し、公式記録用紙に記入する
試合後　７分	○ レフェリー、TD、MOの順で確認し、サインをする
試合後 10 分	○ 公式記録用紙を担当者に提出 ○ ブルーカードが出た場合は報告書の作成
	○ テクニカルオフィシャルおよびレフェリーで試合を振り返る ○ レフェリーアセッサーが配置されている場合（MO との兼任がない場合）は、アセッサーの進行でレフェリーとテクニカルオフィシャルで試合を振り返る

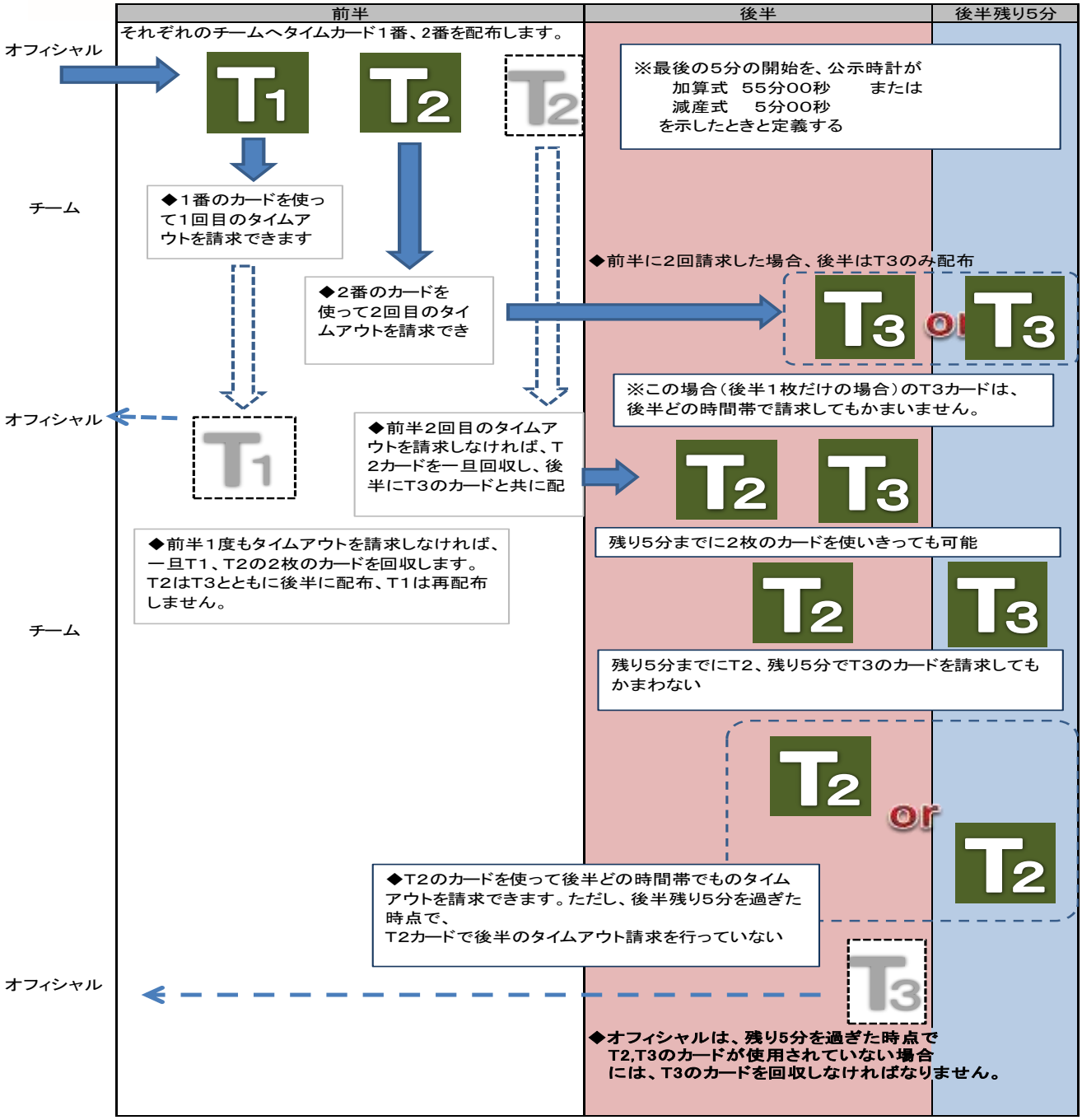
チームタイムアウト中

1	タイムキーパー	＜競技規則より求められること＞ ● 笛を吹くと同時に時計を止める ● 同時にタイムアウトのジェスチャー、またはグリーンカードを掲げる ● 請求したチームの方へ腕を伸ばして示す
2	レフェリー	● チームタイムアウトを認める
3	タイムキーパー	● グリーンカードを机上に示し、ストップウォッチを用いて時間を計測する
4	スコアキーパー	● スコアシートに時間を記入する
5	レフェリー	● ボールを再開場所に置き、コート中央に立つ 備考：常に両チームが観察できること！ ● どちらか一方は、常に確認のためにジャッジーズテーブルに行く **必要であれば**：打ち合わせをすべきことがあれば、この時間で行うこともできる
6	タイムキーパー	● 50 秒計測後、ブザーを鳴らし、10 秒後に競技を再開させることを伝え、グリーンカードを収納する
7	レフェリー	● 10 秒後に競技が再開されるようにする （必要であればチームを急がせる） ● 競技の再開に応じた場所に位置する （チームタイムアウトを請求したチームからのスローとなる） ● 競技を再開する － 競技が中断されたときの状況にふさわしいスローから － インプレー中に中断された場合は、競技が中断されたときにボールがあった位置から競技を再開する
8	タイムキーパー	● 公示時計を進める

＜補足事項＞　チームタイムアウトの取り扱いについて

- 競技規則 2:10 および競技規則解釈 3 に従って、各チームは、通常の競技時間中に最大 3 回のチームタイムアウトを請求する権利がありますが、延長戦では請求できません。
- チームタイムアウトは前半、後半にそれぞれ最高で 2 回までしか請求できません。
  例　1）　前半 2 回請求の場合、後半は 1 回のみ
  　　2）　前半 1 回請求の場合、後半は 2 回まで
  　　3）　前半請求なし、後半は 2 回まで
- 後半、競技終了前の 5 分間は、各チーム 1 回しか請求できません。
- 一方のチームが連続してチームタイムアウトを請求するには、対戦相手が少なくとも 1 度はボールを所持する必要があります。

【取り扱い例】



延 長 戦

通常の競技時間で同点だった場合

1	休憩時間	5 分間
2	コイントス	

注）退場となったプレーヤーは、退場時間が満了するまで競技には参加できない。
これは、延長戦にも適用する。

3	延長前半	5 分間
4	休憩時間／サイド交代	1 分間
5	延長後半	5 分間

同点だった場合

6	休憩	5 分間
7	コイントス	
8	第 2 延長が行われる場合は、第 1 延長と同様に行う	

第 2 延長終了でも同点だった場合

9	7mスローコンテスト	

注）この段階で参加資格がないプレーヤー（失格となった場合）や退場時間が満了しないまま競技時間が終了したプレーヤーは 7mスローコンテストには参加できない。

par. ： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
時間管理	会場の公式時計が作動しない	予備の時計を使用し、会場アナウンスは、一定の間隔で競技時間を競技場内に知らせる。 ・残り５分を除き５分刻みに。 ・残り５分からは４、３、２、１分、３０秒の間隔でアナウンスする。		
	会場の公式時計が途中で故障	速やかに予備の時計を使用し、会場アナウンスは、一定の間隔で競技時間を競技場内に知らせる。		
	会場の公式時計と使用中のストップウォッチに誤差が生じた	ＭＯと協議し、必要な修正を行う。		
	試合を中断できる（させなければならない）人物は誰か？	ジャッジーズテーブルに座る者（テクニカルオフィシャル、地元ＴＫ・ＳＫ）が試合を中断できる。		
	会場の公式スコア―ボードに退場時間が表示できない	準備されている退場者カードを使用する。		
	一方のチームが明らかな得点チャンスを得ている最中に、タイムキーパーが笛を吹き、試合を中断した	・守備側チームが交代違反：７mT。 ・攻撃側が交代違反：相手チームのフリースロー。 ・守備側チームのその他の反則：７mT。 ・攻撃側のその他の反則：相手チームのフリースロー。 ・相手チームがチームタイムアウトを要求：７mT。	競技規則解釈７	
	一方のチームが明らかな得点チャンスを得ている最中に、ＭＯが笛を吹き、試合を中断した	・守備側チームの違反：７mT。 ・攻撃側チームの違反：相手チームのフリースロー。	競技規則解釈７	
チームタイムアウト	コーチングゾーンを離れたチーム役員が、グリーンカードを出すことを躊躇している	コーチングゾーンに戻す。再び起こった場合には、段階的罰則を適用する。	競技規則解釈７	

par. ： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	ＭＯが交代地域にいるプレーヤーもしくは役員に罰則を課すようレフェリーに指示している間に、そのチームからチームタイムアウトの申請が出された	チームタイムアウトは認められない。グリーンカードをチームに戻す。当該プレーヤーもしくは役員に罰則を課す。	交代地域規程	
	プレーヤーまたはチーム役員が、スポーツマンシップ反する行為をしたため、タイムキーパーもしくはＴＤが笛を吹き、試合を中断した状況で、チーム役員がチームタイムアウトを申請した	チームタイムアウトを認める。選手・チーム役員に段階的罰則を適用する。	競技規則 解釈３	
	チームタイムアウトの条件が整っていない状況で、タイムキーパーが試合を中断した ～チームタイムアウトを認める際の手順は？～	グリーンカードを差し戻し、チームタイムアウトを認めない。 【適切な手順】 ・申請が可能な回数・時間は？ ・ボールの所持は？ ・グリーンカードをテーブルに置く、またはＴＤに手渡しする。 ・当該チームのボールの所持が明らかである際に、ＴＤは中断の笛を吹くことができる。 ・タイムキーパーは時計を止めジェスチャー１５を示す。 ・レフェリーによる確認で、計測を開始する。	競技規則 解釈３	
	６０秒が経過しても、プレーヤーの準備が整っていない	レフェリーおよびテクニカルオフィシャルは、プレーヤーに準備を促す。 必要に応じて、チーム責任者に対し、スポーツマンシップに反する行為により段階的罰則を与えるよう、レフェリーに指示する。	交代地域規程	
	観客席のチーム役員が、チームタイムアウトの最中にチームに対してアドバイスを行う	アドバイスを止めさせる。必要に応じて、レフェリーに段階的罰則を与えるよう指示する。	交代地域規程	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	一方のチームが後半２７分に、２回目のチームタイムアウトを申請した。３枚目のグリーンカードは、どうすべきか	ＴＤは後半２５分を過ぎた段階で、３枚目を回収する。もしくはその時点で、３枚目を返却するよう求める。	競技規則 解釈３注	
	チームＡがボールを所有している最中（競技は中断している）で、同チームのチーム責任者がチームタイムアウトを請求した	チームタイムアウトは認められる：ＴＤは速やかに笛で合図。ただし、チームタイムアウトが終了した時点でもなお、競技が中断していた理由が継続している（解消されていない）場合、交代地域規定により、競技が再開できるまで、チームタイムアウトは例外的に延長されます。これは交代地域規定の違反にはなりません。	2:10 競技規則 解釈３	
交代地域内における行為	登録されていない人物が、交代地域内にいる	・試合開前に修正（退出を指示する） ・試合中：チーム責任者に段階的罰則を与えるようレフェリーに指示する。かつ該当する者を退出させる。	4:2 par. 3	
	チーム役員が立ち上がっている、あるいはサイドライン沿いを歩いている	コーチングゾーンを出ていなければ、この行為は認められている。スポーツマンシップに反する行為とはみなされない。	交代地域規程	
	チーム役員が、ジャッジーズテーブルに向ってスポーツマンシップに反する言葉を発した	テクニカルオフィシャルは、直ちに笛を吹き、レフェリーに罰則を与えるよう促す。	8:7 - 8:10 交代地域規程 競技規則 解釈７	
	交代地域の後方でのプレーヤーのウォーミングアップについて	ボールの使用は認められない。常に動き続け、ウォーミングアップをしないようであれば、椅子に座らせる。ウォーミングアップ中に声を発しての自チームへの指示、応援はできない。その行為が行われていれば、まずは注意する。続けるようであれば椅子に座らせる。それでも指示に従わない場合には、罰則を適用するよう、レフェリーに促す。	交代地域規程	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	コーチが繰り返し、コーチングゾーンを離れて、選手に指示するため、ジャッジーズテーブルの業務の妨げになっている（視野を遮っている）	先ずは、注意する。繰り返し行われた場合には、レフェリーに段階的罰則を適用するよう促す。	交代地域規程	
	複数のプレーヤーあるいはチーム役員が、ジャッジーズテーブルの前に立ち、業務の妨げになっている（視野を遮っている）	・座るよう求める。 ・繰り返し行われた場合は、「チーム責任者」に対し、段階的罰則を与えるようレフェリーに促す。	8:7 交代地域規程 競技規則 解釈７	
	レフェリーやＭＯに対し、チーム役員が繰り返しスポーツマンシップに反する行為を行っている	レフェリーに段階的罰則を与えるよう促す。	8:7～10 交代地域規程 競技規則 解釈７	
	観客に対する挑発的行為	レフェリーに罰則の適用を促す。	8:7 - 8:10 交代地域規程 競技規則 解釈７	
	５人目のチーム役員（例えば理学療法士）が交代エリアに入ってくる	登録されていない５人目のオフィシャルは排除し、「チーム責任者」に段階的罰則を適用するようレフェリーに指示する。	4:2 par.1･3 交代地域規程	
	ＭＯに報告せずにプレーヤーあるいはチーム役員が交代地域を離れる	チーム役員： 交代地域を離れることは認められるが、交代地域外からの助言は認められない。 プレーヤー： 交代地域の外からの干渉は認められない。	交代地域規程	
	プレーヤーの負傷が深刻で、2 名のチーム関係者だけでは対処できない	レフェリー、テクニカルオフィシャルは規程以上の人数の入場を認めて負傷者を運び出し、当該プレーヤーが必要とする治療の観察を行う。	4:11 par.1	
交代の違反	記録用紙に記載のないプレーヤーが、コート上でプレーしている	「チーム責任者」に段階的罰則を適用するようレフェリーに指示する。公式記録用紙にその旨記載する。 当該プレーヤーに対する罰則は、8:3-8:10 に基づく違反があった場合のみとなる。	4:2 par.1･3 交代地域規程	

par. ： 第〇段落　　： MO の任務　　： TD の任務　　： レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	プレーヤーの入場が早すぎる	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、当該プレーヤーに退場を判定するよう促す。相手チームのフリースローもしくは状況によって７mT で再開する。	4:4 par. 1 4:5 競技規則解釈７	
	入場が早すぎたプレーヤーが、交代地域に走って戻ってきた	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、当該プレーヤーに退場を判定するよう促す。相手チームのフリースローもしくは状況によって７mT で再開する。	4:4 par. 1 4:5 競技規則解釈７	
	交代のためコートから出るプレーヤーが、交代ラインの外側を通って出た	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、当該プレーヤーに退場を判定するよう促す。相手チームのフリースローもしくは状況によって７mT で再開する。	4:4 par. 1 4:5 競技規則解釈７	
	交代してコートに入るプレーヤーが相手チームの交代ラインを利用して入場した	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、当該プレーヤーに退場を判定するよう促す。相手チームのフリースローもしくは状況によって７mT で再開する。	4:4 par. 1 4:5 競技規則解釈７	
	コートに規程の数以上の（余計な）プレーヤーが入場した	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、当該プレーヤーに退場を判定するよう促す。相手チームのフリースローもしくは状況によって７mT で再開する。	4:1 par. 1 4:4 par. 1 4:5 競技規則解釈７	
	競技が中断中の不正交代	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、当該者に退場を求める。競技の中断中であっても、交代地域規程は適用される。	2:8 par. 4 4:4 par. 3	
	複数のプレーヤーが同時に不正交代をした	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、最初に違反を犯したプレーヤーにのみ罰則を適用するよう、レフェリーに退場を促す。	4:5 par. 1	
	試合中に一方のコートプレーヤーがコート上に７人存在（ＧＫ不在の状況ではない）しているが、最後に入った選手が特定できない	「チーム責任者」に１名の退場者を決定（指名）させる。チーム責任者が氏名しない場合は、ＭＯが退場となるプレーヤーを指名する。	4:5 4:6 par. 1	

par. : 第〇段落　　: MO の任務　　: TD の任務　　: レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	２分間の退場となったプレーヤーがコートの外に出る際に、スポーツマンシップに反する行為を行った	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、レフェリーに報告。レフェリーは当該プレーヤーに、追加で２分間の退場を判定する（スポーツマンシップに反する行為により２回目の退場となる）。そのため当該チームは、プレーヤーが１名、４分間少ない状態でプレーをすることになる。	16:9a	
	交代地域にいるプレーヤーの違反	ＴＤまたはＭＯは競技を中断し、レフェリーに報告。レフェリーはＴＤまたはＭＯの指示に従って罰則を判定します。インプレー中であれば、相手チームのフリースローで再開となる（必要に応じて７mT で再開）。	8:7 - 8:10 交代地域規程 競技規則解釈７	
	退場あるいは失格となったプレーヤーが、交代地域外からコートを出た	基本的には罰則は課さない。ただし、スポーツマンシップに反する行為を行いながらコートを出ることは認められない（必要に応じてＴＤまたはＭＯは笛を吹き、レフェリーに罰則を促す場合もありうる）。	4:4 注 8:7 - 8:10	
	コートに入る準備ができたプレーヤーが、誤って早く、足半分ほど入場してしまった。ただし有利な状況には至らなかった	これは、罰則には当たらないため、ＴＤまたはＭＯは笛を吹かない。この状況はゴールエリアへの意図的でない侵入に関する規則と同等に扱われる。	6:2c ２文目	
退場	退場となっているプレーヤーが、退場時間が満了するよりも早くコートへ入場した	ＴＤまたはＭＯは即座に笛を吹き、レフェリーに報告。レフェリーは追加で２分間退場を判定する。チームは最初の退場の残り時間、１名減らした状態でプレーする。更にチームは、新しく追加された分の２分間もう１名減らした状態でプレーをすることになる（合計２名）。相手チームのフリースローで再開する（必要に応じて７mT で再開）。	4:6 par. ２	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	チームタイムアウトの時間以外に、チーム役員がコートに入った	明確に有利にならない限り容認する。「チーム責任者」には注意を促す。ただし繰り返し行われる場合は、スポーツマンシップに反する行為として罰則を判定する。	4:4 注 4:2 par. 2（ゴールエリアへの意図的でない侵入と同等として扱う）	
	チーム役員が憂慮すべき態度で試合進行を妨げる	ＴＤまたはＭＯは次の試合中断時、あるいは必要に応じて即座に笛で合図。レフェリーは違反の程度に応じて罰則を判定する。相手チームのフリースローで再開する（必要に応じて７mT で再開）。	4:2 par. 2 8:7 - 8:10 交代地域規程 競技規則解釈７	
	プレーヤーがコートに入ったが、同じチームのコートプレーヤー、ゴールキーパーとは異なる色のシャツ（例　ジャージを着たまま）を着用していた	ＴＤまたはＭＯは速やかにホイッスルで合図。 当該プレーヤーを、正しい服装に着替えるよう指示。 正しい服装への着替えが確認できたら、競技への参加が認められる。 ボールの所持は変更せず、中断された時点でボールを所持していたチームにより再開。 罰則も適用しない。	4:1 par. 3 4:7	
３回目の退場	レフェリーが 3 度目の退場を宣告したが、当該プレーヤーに対し、3 回目の退場としてレッドカードを提示する様子がない	ＴＤまたはＭＯは試合を中断させ、レフェリーに知らせる。レフェリーは失格を宣告し、交代地域から退出させ、失格者席に座わらせる（16:6d）。	競技規則解釈７Ｂｂ par. 1	
失格	失格となったプレーヤーあるいはチーム役員が交代地域に留まっている（交代地域から出て、失格者席に座らない）	当該者を移動させる。従わない場合、「チーム責任者」に罰則を判定する。	4:2 par. 3	
	失格したプレーヤーが観客席に座らず、ベンチやコートの選手とコンタクトできる場所に戻ってきた	当該プレーヤーを移動させる。従わない場合、あるいはスポーツマンシップに反する行為については公式記録用紙に記載する。	16:8 par. 1	

par. ： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	報告書を伴う失格をレフェリーが示す、その方法について	レフェリーが協議し、両チームのチーム責任者、テクニカルオフィシャルに対して直接の失格を示した後、ブルーカードが示された時。	16:8 par. 4	
	報告書を伴う失格が判定された際の手続きについて	レフェリーがブルーカードを示した段階で、報告書を伴う失格であると言うことが周囲に伝わる。 試合後、レフェリー・テクニカルオフィシャルが報告書を作成し、その報告書をもとに大会規定に則り裁定委員会等が開催されることになる。	16:8 par. 4	
	ＴＤまたはＭＯが、レフェリーの死角となるところで、失格処分にあたる行為があったことを確認した	ＴＤまたはＭＯは速やかに笛を吹き、レフェリーに知らせ違反を犯したプレーヤーへの罰則を促す。これらは、事実観察に基づくレフェリーによる決定ではない。	競技規則 解釈７	
	レフェリーが失格に値する違反に対して、別の罰則を判定した	ＴＤまたはＭＯからヘッドセットで知らせることは可能。ただしこれは、笛による合図・競技の中断ではないため、競技規則解釈７を該当する介入によるものではない。	競技規則 解釈７	
	レフェリーが間違って、別の番号のプレーヤーに対して失格を判定してしまった	ＴＤまたはＭＯは速やかに笛で合図し、レフェリーに知らせる。レフェリーによる判定が事実判定によるものであれば、その判定に従う。	競技規則 解釈７	
	チーム役員Ｃは前半で失格を判定されているにもかかわらず、後半５分が経過した時に、交代地域に座っていることに気が付いた	ＴＤまたはＭＯは、次の競技中断時に笛を吹いて競技を中断する。「チーム責任者」に対して段階的罰則を判定するようレフェリーに促す。チーム役員Ｃは、交代エリアから速やかに去らなければならない。公式記録用紙にその旨を記載する。	4:3 par. 3	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	チーム役員Ａが失格処分となった。その後、チーム役員ＣがＡと話すためにベンチを離れた	ＴＤまたはＭＯは次の競技中断時に笛で合図。レフェリーに対し、チーム役員Ｃに対し、スポーツマンシップに反する行為として罰則を促す。チーム役員Ａの行為に対しては、公式記録用紙へ記載する。	交代地域規程	
	チーム役員Ａが前半に失格処分となった。後半に記録用紙に記載されていない人物が交代地域にいることに気付いた	ＴＤまたはＭＯは次の競技中断時に笛で合図。役員Ａに代わる「チーム責任者」に対して段階的罰則を付加するようレフェリーに促す。記載のない人物は交代地域から去らなければならない。公式記録用紙に記載する。	4:2 par. ３	
終了合図	フリースローあるいは７mT が、まだ行われていない	終了合図の後にスローを実施：特別規定を適用。	2:5	
	フリースローあるいは７mT でボールが空中にある時に終了の合図があった	ゴールインしても無効。スローを再び実施。	2:4 par. ２	
	競技時間中の反則： 個人に対する罰則と７mT	ハーフタイム直前または競技終了直前、あるいは終了の合図と同時に起きた反則に対しては判定する（罰則の付加、フリースロー、７mT など）。レフェリーが終了の合図までに笛を吹かなかった場合同様であっても、同様に判定する。	2:4 par. １	
	フリースローや７mT が、前半あるいは競技終了合図後に行われる状況において、スローが実施される前に、守備側チームがプレーヤーの交代を希望している	認められない。誤った交代であり、コートに入ったプレーヤーは違反となり、レフェリーに退場を判定するよう促す。	2:5	
	レフェリーはチームＡに対して、競技終了の合図の後のフリースロー（または７mT）を与えた。これに対してチームＢは、負傷したゴールキーパーの交代を希望した	認められる。フェアプレイの精神、ゴールキーパーの保護が理由である。	ＩＨＦ通達	

par. : 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	競技終了後に行われたチームＡのフリースローで、プレーヤーはジャンプしてスローを実施した。レフェリーは、ゴールを認めた	テクニカルオフィシャルからの介入は不可能となる。このような状況を回避するために、ＴＤはスローが行われる前に、笛を吹いてレフェリーを呼び、正しいスローが行われるかどうか丁寧に観察するように促す。	競技規則 解釈７	
特殊な出来事	コートに物が投げ込まれる／置かれている	ＴＤあるいはＭＯは試合を中断し、レフェリーに知らせる。チーム責任者、観客に対して試合が秩序正しく行われるよう求める。中断の状況に相応しいスローで競技を再開する。	競技規則 解釈７	
	観客がコートに乱入してきた	ＴＤまたはＭＯは試合を中断し、レフェリーに知らせる。チーム責任者、観客に対して試合が秩序正しく行われるよう求める。中断の状況に相応しいスローで競技を再開する。	競技規則 解釈７	
	一方のチームが試合前あるいはハーフタイム終了後に、コートへの到着が遅れた	公式記録用紙にその旨を記載する。必要に応じ、スポーツマンシップに反する行為として「チーム責任者」に罰則を与える。		
	観客間の暴力	ＴＤまたはＭＯは次の競技中断時にのみ、レフェリーに笛の合図で知らせることができる。当事者に対して、試合が秩序正しく行われるよう求める。中断の状況に相応しいスローで競技を再開する。	競技規則 解釈７	
	選手のユニホームがひどく破れているが、レフェリーがそれを確認できていない	ＴＤまたはＭＯは次の競技中断時に笛で合図し、レフェリーに知らせる。同じ番号を原則として、当該選手にユニホームを着替えさせる。		

par. : 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	選手が出血しているが、レフェリーは気づいていない	選手は求められずともコートから出なければならない。必要に応じてＴＤ・ＭＯが即座にあるいは次の競技中断時に介入する。従わない場合は、必要に応じて段階的罰則を適用する。 止血が確認できるまでは、競技に参加することはできない。ＴＤが確認する。	4:10 競技規則解釈７	
	相当数の観客が、コートの周辺に立って観戦している	安全地帯の確認と監視を行い、観客席の明確化を求める。	1:1 par. ２	
	レフェリーの誤審に対して、ＴＤの対応は？	・レフェリーの事実判定に基づく誤審：介入は不可 ・競技規則の運用に反するレフェリーの決定:事後の抗議回避のため、ＴＤは速やかに笛で合図し、レフェリーの誤りを知らせる。	競技規則解釈７	
	レフェリーの誤審に対し、チーム責任者Ａが抗議をする状況でのＭＯの対応	ＴＤまたはＭＯは速やかに笛で合図する。競技規則の運用に関する正当な抗議であれば、レフェリーに相談し、正しい運用に改める。 レフェリーの判定が事実判定に基づく場合は、介入は不可。 必要に応じ、競技規則における該当部分に関し、チーム責任者に助言する。	競技規則解釈７	
	チーム責任者が自チームに対して、試合を放棄させようとしている	ＴＤまたはＭＯは速やかに笛で合図する。チーム責任者に対し報告書を伴う失格を判定するようレフェリーに促す。 もう片方のチーム役員及び選手が落ち着くように努める。必要に応じその結果を伝える。	8:10	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

試 合 中（続き）

テーマ	事　例	対処方法	参照規則	責任者
	公式記録用紙に記載されていない人物（会長や団長）が自チームに対して、試合を断念するよう強要した	チーム役員に対して、正式に許可されている者しか、試合に介入できないことを伝える。 状況に応じてチーム責任者に対して段階的罰則を判定する。公式記録用紙に記載する。	4:2 par. 3	
	チーム役員ＢがＢＧＭに関して、競技役員、テクニカルオフィシャルに苦情を申し立てた	ＭＯは会場責任者/会場アナウンサーに伝え、改善を求める。		
	ジャッジーズテーブルから笛またはブザーで合図をしているが、レフェリーは気づいておらず、プレーが継続している	レフェリーに気付かせるようあらゆる手段を用いる。合図後に起こった行為はすべて無効となる。ただし、中断の合図からレフェリーがそれに気づくまでに判定される罰則に関しては有効である。	2:9 注	
	プレーヤーが負傷し、レフェリーがチームに入場許可するジェスチャー１６を行った。当該チームから、役員１名とプレーヤー１名がコートに入った	認められている（参加資格のある２名のうち、うち１名が退場中のプレーヤーであっても、認められる）。医療的処置を行う際にのみ、コートへの入場が認められる。	4:11 par. 1 4:11 par. 2	
	プレーヤーの１人が、交代地域を出て更衣室へ移動、あるいは残りの試合を観戦するために観客席へと移動した	試合の妨げにならない限り、移動を妨げることはできない。しかし、選手ではあるため罰則が適用されることもある。 例：スポーツマンシップに反する行為をした場合	交代地域規程 最終段落	
	テクニカルオフィシャル、タイムキーパー、スコアキーパーが、体調不良のため任務遂行が困難となった	任務や役割は、新しいメンバー再編成する。		
	異議申し立てをするには	（チーム責任者を通した）事実判定以外の口頭による異議申し立てが、試合終了後１時間以内のみ認められる。その後、２時間以内に納付金と文書を提出する必要がある。		

par. : 第〇段落　　: MO の任務　　: TD の任務　　: レフェリーの任務

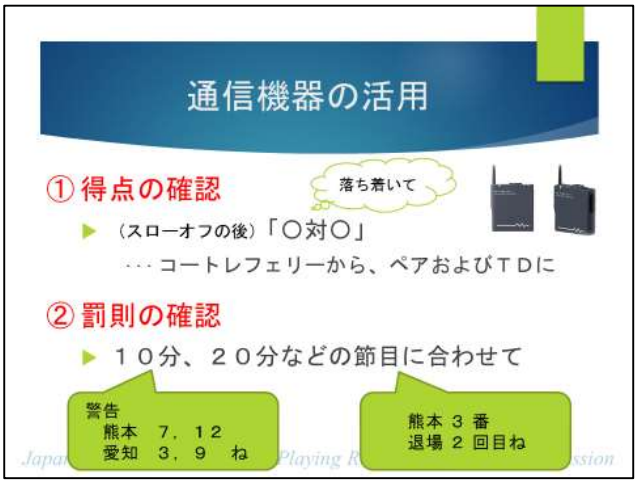
ハーフタイム中

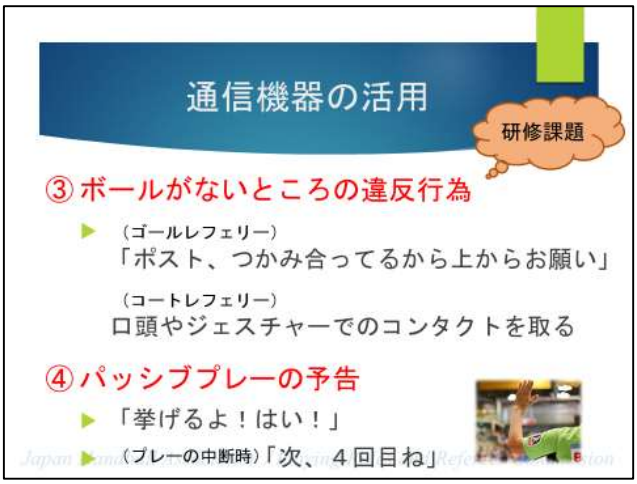
事　例	対処方法	参照規則	責任者
スコアシートのデータ（得点、警告、退場 など）が異なっている	テクニカルオフィシャル、電算チームで連携し、異なる項目を明確にする。		
チームがコートへ戻ってくるのが遅れた	公式記録用紙にその旨を記載し、スポーツマンシップに反する行為としてチーム責任者に罰則を課す。		

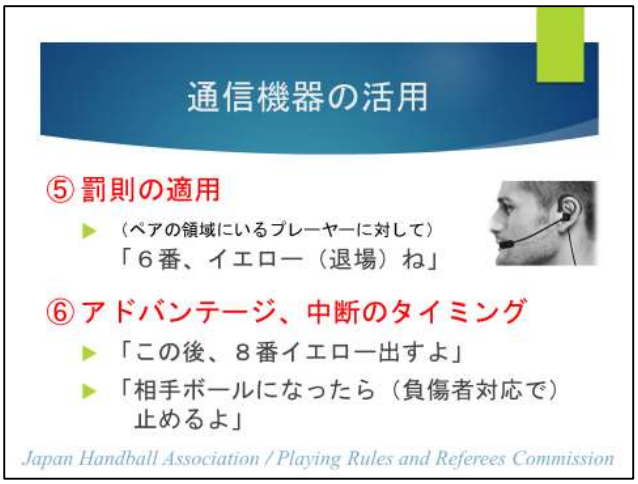
試 合 後

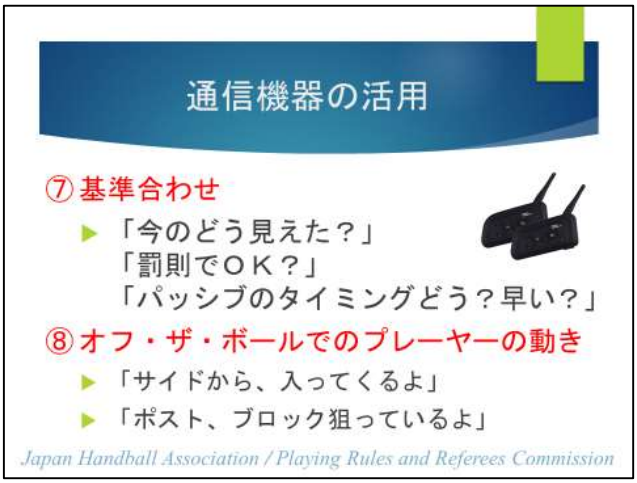
事　例	対処方法	参照規則	責任者
7mT の最中にチーム役員から抗議があった	ＭＯまたはＴＤは７mT の実施を妨げないよう確認しながら、笛で合図をする。チーム役員への失格を判定するようレフェリーに促す。	8:9 8:10 16:10	
スコアシートのデータが異なっている	テクニカルオフィシャル、電算チームで連携し、異なる項目を明確にする。		
試合終了合図後の特殊な出来事（プレーヤーや役員による侮辱行為 等）	レフェリーに知らせる：報告書を作成する。	16:11c	

＜補足事項＞　通信機器の活用について









通信機器の活用（ＴＤとの連携）

⑩ 罰則を適用する際

- 対象となるプレーヤーの番号の伝達

２番、警告です

退場は、５番です

⑪ 負傷したプレーヤーへの対応

- 治療行為や担架の要請
- ３回分の攻撃に参加できないことの伝達

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用

⑫ ポジションを変えるタイミング

- 「場所変わろう」
- 「攻撃が変わったら、逆側に行くね」

プレーヤーへの罰則

ベンチへの罰則

ゴールキーパーなし

モップを入れる際

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用（ＴＤとの連携）

⑬ 終了間際（時間の管理）

- 残り時間とカウントダウン

残り
５分、３分、１分
３０秒　・・・

１０、９、８、・・・
３、２、１、終了

⑭ チームタイムアウト

- 「タイムアウト出るよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

通信機器の活用（ＴＤとの連携）

⑮ 交代地域の管理

- ゴールキーパーなしでの攻撃
  ・・・「ゴールキーパーなしね」
  「ゴールキーパー戻ったよ」
- 「退場者戻るよ」
- コーチングゾーンを越えての指示
  ・・・ＴＤ、ベンチ側のレフェリーから注意
- 「交代地域からカットを狙っているよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

まとめ

共同作業

（レフェリー間、レフェリーとＴＤ間）

通信機器を使用していたとしても、
誰が見ても明確にコンタクトを取っている
姿を！

→安心感につながる

ただし、表情は注意！！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

7mスローコンテスト

延長戦終了後、同点である

- 各チーム5名のプレーヤーを選出する
- スローを行うプレーヤーの順番は問わない

注）
- 退場時間が満了していないプレーヤーは参加できない
- 競技開始時にいなかったプレーヤーをスコア用紙には追加できない
- 誰もがコートプレーヤーおよびゴールキーパーの役を務めることができる

- レフェリーが使用するゴールを決定する
- コイントスを行い、どちらのチームからスローを行うか決定する
- スローを行うプレーヤーおよびゴールキーパーを除く、両チームのすべてのプレーヤーとチーム役員は、使用するゴールの反対側のコートで待機する

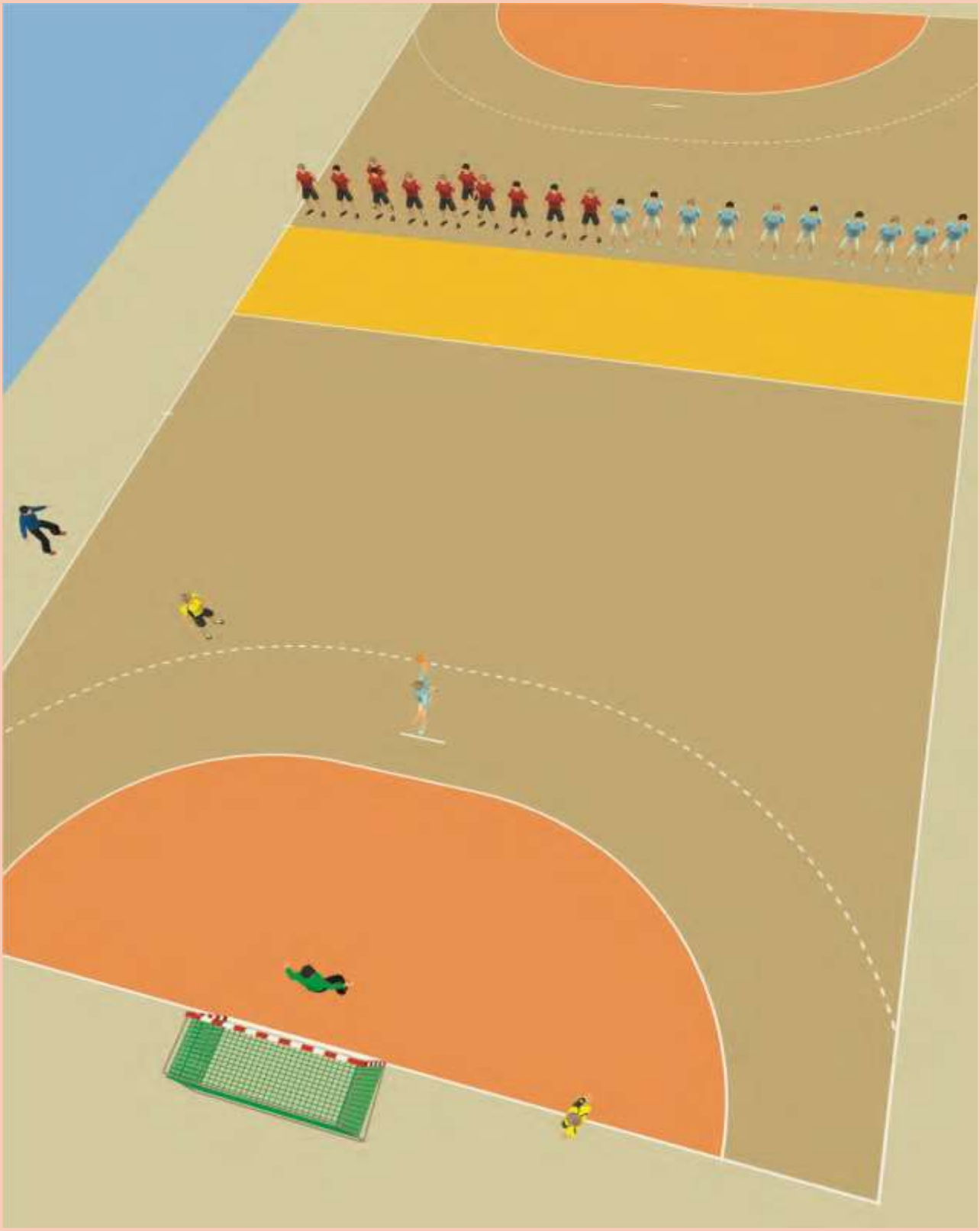
第1投	1投目：Aチーム 1投目：Bチーム
第2投	2投目：Aチーム 2投目：Bチーム
第3投	3投目：Aチーム 3投目：Bチーム
第4投	4投目：Aチーム 4投目：Bチーム
第5投	5投目：Aチーム 5投目：Bチーム

各チーム第5投後、同点の場合

- 各チーム、再び5名のプレーヤーを選出する
- どのプレーヤーでもよい
- 先攻と後攻を入れ替える

第6投	6投目：Bチーム 6投目：Aチーム
その後のスロー	両チームのスローのあと、一方のチームがリードするまでコンテストを行う

7mスローコンテスト



７ｍスローコンテストの実施要領

大会規程により 7m スローコンテスト（以下、7mTC と表記）により勝敗を決しなければならない場合、7mTC は下記の要領で実施する。

１）7mTC は 5 名制で行う。但し、登録していないプレーヤー、退場中のプレーヤー及び失格になったプレーヤーは出場できない。正規の競技時間で負傷により 3 回の攻撃が終了しなければコートに戻れないプレーヤーが、まだ 3 回の攻撃が完了していない状況で競技時間が終了した場合、そのプレーヤーは 7mTC に参加することができる。

２）延長戦終了後、7mTC を行う選手の申告・登録を行う。登録は延長戦終了直後、レフェリーは両チームの代表者を記録席前に集め、両チーム代表者からスローをするメンバーを申告・登録させる。その申告・登録メンバーの記録は、「7mTC 登録・記録用紙」(以後 7mTC 記録用紙とする)に記録席員が記入する。申告はスローをする順番ではない。
申告が終われば、記録席員は、両チーム責任者からサインを記入してもらう。

３）大会によっては 3 名で行っても良い。また、大会日程により大会日数に応じて 3 名方式、5 名方式を混合して採用しても良い。事前に大会要項に記載しておくこと。

４）申告・登録が終わると審判員は、使用するゴールを決定し、先に投げるチームをコイントスにより決定する。

５）両チームの選手、チーム役員は、使用するゴールの反対側コートのセンターラインから 4.5m に位置する交代地域ラインの仮想延長線上に並ぶ。

６）守備につかない GK は、交代地域の反対側の 7m ラインの延長上のサイドライン外側で待機する。GK はその試合の登録メンバーであれば交代して守ることができる。

７）スローする選手は申告・登録順番とは限らない。先に投げるチームの選手が 7m ラインに位置すれば、記録席員はその順番を 7m 記録用紙に記入する。(公式記録用紙記載は、別途指定通り行うこと。用紙が不足する場合は 2 枚目を使用しても構わない。)

８）第 1 投が終われば、記録席員はその結果を 7mTC 記録用紙に記入する。

９）以後、後に投げるチームの選手の順番と結果を 7mTC 記録用紙に記入する。

10）スローの結果が 3 対 0、もしくは 4 対 1 などのように途中で勝敗が決まれば、その時点で 7mTC は終了する。

11） 5 人制で実施する場合、状況によっては 5 人参加できない場合がある。その場合は、1 人少なければ 5 回目のスローが失敗した記録とする。補充はできない。

12）最初の各 5 名による 7mTC が同点の場合は、再度 7mTC を行う。その際、改めて 6 人目から 10 人目までの選手の申告・登録を行う。記入の要領は前と同じである。

13） 6 人目として最初にスローするのは、1 人目のチームと逆のチームから行う。

14） 6 人目からはサドンデス方式とする。

15）10 人目が終わりさらに同点の場合は、2 回目と同様に申告・登録を行い、2 回目と同様に逆のチームから行う。以下、15 人目が終わった段階で同点であった場合も同様に行う。記録用紙は裏面の 11 人目以降を使用する。

2018 年 8 月 12 日 改訂

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

７mスローコンテスト

事　例	対処方法	参照規則	責任者
チームＢの失格したプレーヤーが７ｍＴに指名される	修正を求める。	2:2 注	
チームＡが退場処分を受けたプレーヤーを７mT に指名した	修正を求める。	2:2 注	
スローを行うプレーヤーとゴールキーパー以外のプレーヤーとチーム役員はどこにいるべきか？	７mTC で使用しないもう半分のコートに両チームを移動させる：７mTC で使用するハーフコートのセンターラインから交代ライン４．５ｍの間には入ってはならない。		
スローを行うチームのゴールキーパーは、どこにいることができるか	コートレフェリー後方の、サイドライン。		
チームＢが一投ごとにゴールキーパーの交代を希望している	認められる。 対応の必要はない。	2:2 注 par. 1	
チームＡがコートプレーヤーをゴールキーパーとして起用することを希望している	認められる。 対応の必要はない。	2:2 注 par. 1	
最初の５投で決着がつかず、次の５投でもチームＢは再度、１５番のプレーヤーを指名した	認められる。 対応の必要はない。	2:2 注 par. 3	
第２ラウンドにおける７mTC は、どちらのチームが先投となるか	最初の５投で、後投だったチーム。	2:2 注 par. 1	
チームＢのゴールキーパーが、第２ラウンドで、Ａチームの７mT の第１投をセーブした。その直後、チームＢの第１投者がシュートを決めた	チームＢの勝ち。	2:2 注 par. 3	
チームＢの７mT の最中、チームＡのプレーヤーまたは役員が、７mTC で使用している側のコートにいる	・スローの妨げになる場合： テクニカルオフィシャルは笛で合図、必要に応じてやり直しをレフェリーに知らせる。違反するプレーヤー/役員の位置を修正する。 ・スローの妨げとならない場合： テクニカルオフィシャルは次のスローの前までに笛で合図。違反するプレーヤー/役員の位置を修正する。 ・再発時： テクニカルオフィシャルは次のスローまでに笛で合図。レフェリーに失格処分を促す。	2:2 注	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

７mスローコンテスト（続き）

事　例	対処方法	参照規則	責任者
７mT の最中、プレーヤーまたは役員が、ＭＯに対し侮辱行為をした	テクニカルオフィシャルは次のスローのまでに笛で合図、。違反したプレーヤー/役員に対し、報告書を伴う失格を判定するよう、レフェリーに促す。	16:6e 8:10a	
指名され、スローに参加するプレーヤーが、ＭＯに対し侮辱行為をした	テクニカルオフィシャルは次のスローのまでに笛で合図。違反したプレーヤーに対し、報告書を伴う失格を判定するようレフェリーに促す。 失格したプレーヤーは、他のプレーヤーとの交代が可能。	16:6e 8:10a 2:2 注 par. ４	
チームＡは、４、７、１１、１３、１９番の５名を指名した。 その中の１３番が、１投目のスローを行った	認められる。 対応の必要はない。 申告のあった５名の名簿は、スローを行う順番の指定ではない。	2:2 注 par. １	
チームＡは、４、７、１１、１３、１９番の５名を指名した。 にもかかわらず、１５番が、１投目のスローを行う準備をしている	今準備をしている１５番のプレーヤーを、既に申告されているプレーヤーに交代するよう注意する。	2:2 注 par. １	
チームＢが、ゴールキーパーを７mT のスロアーに指名した	認められる。 対応の必要はない。	2:2 注 par. １	
チームＢは、１５名のプレーヤーを試合登録し試合に臨んだ（登録には１名の余裕がある状態）。 その後の７mTC の際に「１６番目のプレーヤー」として、新たに１８番のプレーヤーを追加登録することを希望した	認められない。 プレーヤーの追加登録が認められるのは、当該ゲームの後半終了時まで。	4:1 par. ４	
７mT 失敗後、当該選手が観客席へ移動した	基本的に認められる。違反ではない。 著しくスポーツマンシップに反する行為が認められた場合には、テクニカルオフィシャルＯは速やかに笛で合図。 違反した選手の失格処分を促す。	交代地域 規程５ 最終段落	
指名されている１３番のプレーヤーが７mT 地点近くでもなお、トレーニングウェアを着たままである	当該選手にウェアを脱ぐよう求める。	4:7	

par.： 第〇段落　　：MO の任務　　：TD の任務　　：レフェリーの任務

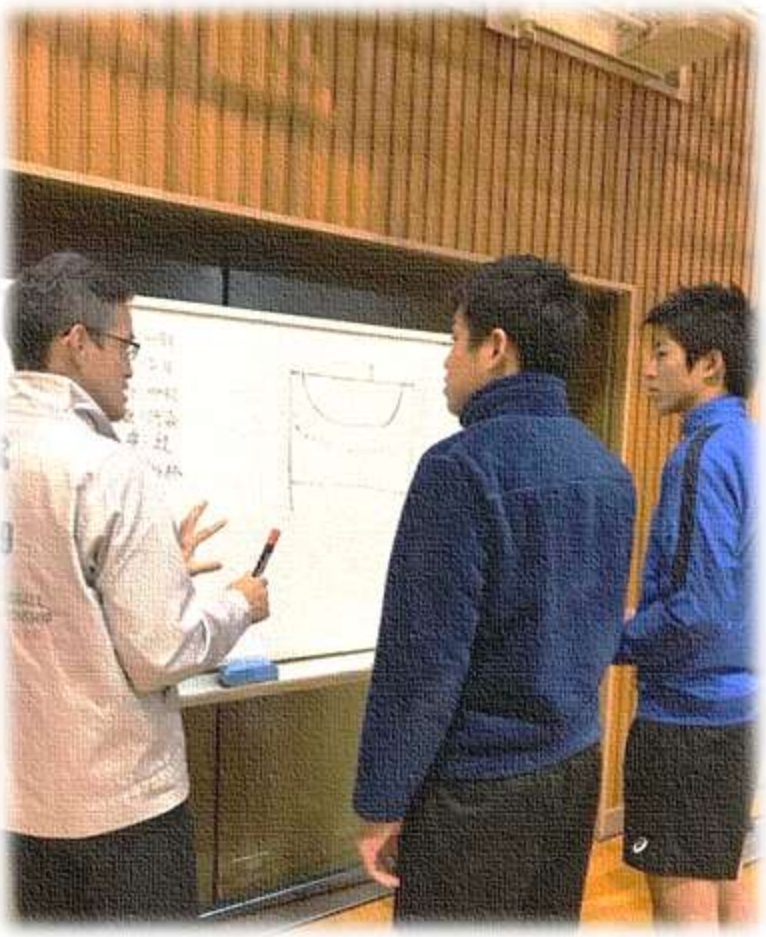
７mスローコンテスト（続き）

事　例	対処方法	参照規則	責任者
７番のプレーヤーが、スロー直前にスローを行う手を負傷した	選手交代が可能。	2:2 注 par. 4	
５番のプレーヤーがスローを行い得点した後、当該プレーヤーのこのスローは、同一ラウンドで２回目のスローであったことが発覚した	テクニカルオフィシャルは速やかに笛で合図、レフェリーに報告。 ゴールは無効となり、「スロー失敗」として、記載する。 この決定に対し、著しくスポーツマンシップに反する行為が認められた場合、違反したプレーヤーの失格をレフェリーに促す。	2:2 注 par. 4	
５番のプレーヤーがスローを失敗した後、当該プレーヤーのこのスローは、同一ラウンドで２回目のスローであったことが発覚した	テクニカルオフィシャルは速やかに笛で合図、レフェリーに報告。 「スロー失敗」と記載する。 著しくスポーツマンシップに反する行為が認められた場合、違反したプレーヤーの失格をレフェリーに促す。	2:2 注 par. 4	

運営業務（大会役員・会場責任者と協働して）

テーマ	業　務
到着時の会場巡回	スコアボード、記録席、交代地域、コーチングゾーン、メディアゾーン、ミックスゾーン、フロア、更衣室、ドーピング検査室、インターネットアクセスセンター、役員・来賓等の控え室、ＡＤセンターなどを中心に点検
チームホテル訪問	ー 施設/設備が期待に沿うかを全ての代表団と確認する ー 以下を中心に： ・食事の質と量 ・宿泊 ・ミーティングルーム ・ランドリー ・輸送スケジュール及び時間設定 ・開催者及びチームガイドとの連携 テクニカルオフィシャルは代表団の課題や要請に応えるため、食事やサービスの質の確認も兼ねて、ランチやディナーを共にすべきである。
テクニカルミーティングの準備	**ミーティングルームの確認** すべての必要機材（プロジェクター、電源、インターネットアクセス、プリンター、全連盟及びデレゲートのネームプレート、国歌確認のための音響機器）が使用可能であるかを確認
テクニカルミーティングにおける主催者（大会役員）の職務	ー 開会及び歓迎挨拶（代表者ら） ー 競技運営規程の確認（競技委員長） ー 競技規則の確認（審判本部長、審判長） ー ドーピング検査に関する確認 大会委員または医事委員会 チームリストの確認（競技委員長）
開催地組織委員会とのディリーミーティング	ー 試合が実施される全日程で実施する ー ミーティング内容は、運営上の諸問題、輸送、日程、ローカルタイムキーパー、ローカルスコアキーパーの業務状況 分析スタッフ及びスカウティングスタッフとの連携

レフェリーの
指導および評価



審判員への指導体制の確立へ向けて

（公財）日本ハンドボール協会
競技・審判本部

日本国内における審判員への指導及び助言について、その体制を確立したい。
指導・助言体制に関し、（公財）日本ハンドボール協会競技・審判本部では、その担当を担う者について下記の役割を位置づけている。

◆ インストラクター（主に　研修会での講師にあたる）
◆ アセッサー　　（主に　大会における審判員への指導・助言及び評価にあたる）

１．審判員への指導を行う者

○ 審判本部合同委員会メンバー及びサポートスタッフ（審判本部組織図参照）
○ 都道府県（支部）審判長
○ 各ブロックの審判長（ブロック、都道府県）
○ 各大会審判長・副審判長
○ 各大会マッチオフィシャル（MO）

２．指導の実際

○「競技・審判ハンドブック 2019-2020」P100～121【付録】１　審判指導に関する資料
○ 審判員の実技指導の手順

上記資料に基づき指導及び評価にあたる。

３．指導のための教材及び資料

○ 本誌および「競技・審判ハンドブック 2019-2020」P1～91
○ 競技規則及び通達
○ 年度目標
○ 各級公認審判員の目標
○ チェックリスト
○ 全日本大会担当審判員候補者研修会資料
○ 競技規則問題集

上記資料を使用し指導及び講習会にあたる。

４．指導場面

１）各都道府県・連盟における研修会

○ インストラクター

・プレゼンテーション指導（審判員の目標、各級公認審判員の目標　など）

２）各大会における審判会議・ミーティング

○ インストラクター

・プレゼンテーション指導（大会中や各日の目標、目標に対しての評価　など）

３）各大会における試合の後

○ アセッサー

・ゲーム観察、分析、評価、指導（各級公認審判員の目標とチェックシートを活用）

参考：

審判員の条件　・人間性
・競技規則の理解と運用
・技術（判定の能力､ポジショニング）
・アスリートとしての体力（フィジカル）

これらの観点から指導を行うことが大切である。

目標

「学ぶことを止めたなら、

教えることを辞めなければならない」

審判員の実技指導の手順

（公財）日本ハンドボール協会
競技・審判本部

審判員が可能性を最大限に発揮し更に向上してくれることを願い、全国にて統一した実技指導を目指し、以下の手順を参考に実技指導を行う。

また、本誌内「レフェリーアセッサーの資質と任務（P81～90）」を事前に確認しておくこと。

◆ 試合前

① 審判員に対して審判員個々に応じた各級の審判員の目標や年度の審判員の目標を確認してから、試合にのぞむことを伝える。

参考：・日本選手権、JHL　　A 級審判員の目標、年度の審判員の目標
　　・全国大会　　B 級審判員の目標、年度の審判員の目標
　　・ブロック大会（支部大会）　C 級審判員の目標、年度の審判員の目標
　　・都道府県大会　　各級の審判員の目標、年度の審判員の目標

② 審判員各個人やペアにおいて課題を持って、試合にのぞむことを伝える。

③ 評価表や審判指導用紙（ノート）などを用意し、アセッサー（審判員への指導・助言・評価者）自身も指導のための準備を整える。

◆ 試合後

＊最初に慰労する。
＊トラブルがあった場合でも決して試合直後に指摘しない。
＊更衣後など落ち着いた状態で反省会に入る。
＊関係者以外は反省会に入れない。
＊指導が長時間にならないように配慮する。（３０分を超えないように）

反省会の手順

① 審判員（ペア）に試合を終えた感想を聞く。

② 各級の審判員の目標を基に振り返る。
　各級の審判員の目標、年度の審判員の目標、チェックシートを必ず活用すること

③ 試合前の課題を聞く。

④ 試合前の課題に対してどうであったか聞く。

⑤ 試合での重要事項の確認。
　７mT、失格、トラブルなど
　特に疑問点はないかを聞くことは大切である

⑥ ⑤に対しての双方向からの意見交換する。
　審判員の分析とアセッサー（審判員への指導・助言・評価者）の分析の擦り合わせ

⑦ 審判上の指導を行う。（アドバイス・ヒントを与える）

評価表の記載事項順に指導

必ず良い点を指摘し励ます

重大事項の指導に関しては、よく確認した後に、はっきりと伝える

競技規則の適用違い（断定的）と審判に関する判断（一般的）な場合は使い分ける

競技規則に記載された用語を使用する

最新の情報を取り入れた指導

私見を優先させたり、あいまいな表現をしたりしない

必ず根拠を示し説明する

チェック

- ☐ 両審判員、TD が立会いのもとトスを実施
- ☐ メンバー表、登録証の確認
- ☐ ユニホームの確認（濃淡はっきりしたもの）
- ☐ ゴールやゴールネット、ボールの確認
- ☐ オフィシャルとの連携
- ☐ 定刻でスローオフか
- ☐ 得点の管理
- ☐ 時間の管理
- ☐ コート上の選手とボールから目を離していないか
- ☐ 得点合図の後に、位置を交代していないか
- ☐ バックステップで動いていないか
- ☐ 判定後、選手とボールの動きを確認してから、次の行動に移っているか
- ☐ ゴールレフェリーの際に同じ位置に立ち続けていないか（基本位置は６ｍラインとゴールポストの中間）
- ☐ ７mT の際、コートレフェリーはスロアーの利き腕側に立っているか
- ☐ GK なしでの攻撃（６人 or7 人）で、審判の位置取りは妨げになっていないか
- ☐ 手順は正しいか　１）笛　２）方向指示　３）ジェスチャー（必要に応じて）
- ☐ 正しいジェスチャーを用いているか
- ☐ ペアで同じ種類の笛を使用しているか
- ☐ 笛を口にくわえたまま、観察していないか
- ☐ コート上での立ち姿はどうか
- ☐ 罰則や７mT を判定した後のジェスチャーは、はっきりと１回だけ
- ☐ 役割分担は明確であるか（ペアの領域を判定していないか）
- ☐ 警告を判定の際、タイムアウトにしていないか
- ☐ 退場を判定の際、①タイムアウト　②ジェスチャー14 になっているか
- ☐ 差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議をしているか

⑧ 最後に必ず今後の課題を指摘する。

改善のヒントを与え、良い審判員となるよう励まして終える

2021年度 各級公認審判員の目標

２０２１．１．３１
（公財）日本ハンドボール協会審判本部

審判員に対し JHA ／連盟／ブロック／都道府県協会審判委員会が、共通の目標を持ち、一貫した指導をすることが必要である。

国内の審判員の多くは都道府県レベルの D 級審判員である。また各ブロック、全日本大会等で積極的に審判活動に関わっている者の多くは A 級および B 級審判員である。そのため、**指導の方向としては審判員として、まず、国内最高峰である「A 級審判員」、および全日本大会を担当できる「B 級審判員」のそれぞれの目標を示す。B 級・C 級・D 級審判員がその次の目標を達成することができるように指導助言にあたる**ことが重要になる。

審判技術の向上には以下の４つの要素が不可欠となる。　**※審判員の心得 10 箇条**

1）ハンドボールに携わるものとしての人間性
2）競技規則の理解と正しい運用
3）審判員としての技術
4）アスリートとして必要な体力

この４つの要素を各級審判員の目標の中に反映させ、指導助言にあたる。

1　A 級審判員の目標

A 級審判員の目標を「適切な位置取りと任務分担（対角線式審判法）によって、事実を正しく見極め、的確な判定で、試合を円滑に進めることを追究する」とする。その目標を達成するために

① 「レフェリー評価における着眼点」についてその項目の意味を熟知し、
　○ ハンドボール競技の特徴をおよび競技規則の解釈と適用を理解した上で、行うべきこと、観察すべきことを適切に実践する。
　○ 試合の流れやプレーの展開の予期・予測による実践と、審判員としての任務の遂行に努める。
② 瞬発力、スピード・反応性の強化を図り、持久力と的確な判断力の向上に努める。
③ 国内最高峰の大会である、日本リーグ・日本選手権さらには日本協会指名レフェリーとして、人間性を発揮し、よき模範として大会審判長・副審判長を補佐する。

2 B 級審判員の目標

B 級審判員の目標を「競技規則を理解し、正しく運用することによって、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

① 競技規則試験において A 級審判合格ラインの８５％以上の正答率
② B 級審判員の目標に記載されている各項目を熟知し、
　○ ハンドボール競技、競技規則、審判員の役割など基本的な知識を理解する。
　○ 競技規則に従って試合を運営することと、試合を運営するための基本となる技術の習得と実践。**判断基準を踏まえた説明ができるようになること**。
③ フィジカルに対する基本姿勢を身につける。持久力をつける。
　○ 体力テスト（シャトルランテスト）で男子７７、女子６７の基準をクリアする。
④ 大会運営に関わる知識を身につけ、審判長（大会、各都道府県等）、競技委員長の役割や任務を理解し協力する。

３　都道府県、ブロックにおける指導について

Ｃ級およびＤ級審判員への指導指針

上記の A 級・B 級の審判員の目標に対する取り組みを踏まえ、C 級および D 級審判員には特に、

① 競技規則に従って試合を進めるための「競技規則の理解」を深めさせる。

○ 競技規則問題集を用いての座学、ビデオテスト、各種プレゼンを用いたアイトレーニングを各都道府県・ブロックにおいて積極的に実践する。

例）競技規則問題集から基本的な問題を抜粋し、**競技規則試験において８０％以上の正答率（B 級審査合格基準）。**

映像資料も分かりやすいものを抜粋する。

② 競技規則に従って試合を進めるための笛の吹き方やのジェスチャーの示し方、基本走法の定着を図る。

③ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養う。

④ 試合中は失敗を恐れず、競技規則に基づいて自分が判断したように、自信をもって判定できるように助言する。

例）７ｍスローが必要かどうか悩むなら判定する。

罰則が必要なら判定する（警告か即座に２分間の退場なのかの判断に悩んでも、どちらかは判定できるようにする）。

※起きた事象に反応、判定する（Ｃ級に向かって精度を高めていく）。

⑤ 基本的な事項を教える。

例）笛が必要な場面、ＣＲとＧＲのポジションと役割分担の基本

⑥ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養うようにする。

⑦ ハンドボールに関わる人々からの情報を得て、「ハンドボール競技」に関する理解を深めるようにする。

⑧ 公認審判員としての心構えを教える。

例）服装、試合の準備の仕方など

⑨ 体力テストにおいて、B 級審判員の合格ラインである、シャトルランテスト（男子７７、女子６６）の基準をクリアする。

４ 審判指導の基本として

「審判員の倫理綱領」を熟知させ、

○ ハンドボールに関わることだけでなく、一般社会における「社会道徳」や「社会規範」について知り、実践する態度を養えるようにする。またハンドボール（審判活動）を通して見聞を広げ、広い視野をもって全日本大会・国際試合で活躍できる人材となれるよう育成する。

○ 審判員としての活動によって、**「審判技術の向上」を図るだけでなく、「人間性の向上」が図れる**ようにする。またハンドボールファミリーの一員として「仲間を尊重」し、互いを認め合うために必要なコミュニケーション力が向上するよう育成する。

○ 「教わるという姿勢」を持つことは当然であるが、「自分からチャレンジして発見し学ぶという姿勢」を持って、審判活動だけでなく、「ハンドボール」に関わっていけるようにする。また「仲間と競い合う」ことによって、他者の良い面を発見し、認めあいながら成長できるよう育成する。

A 級公認審判員の目標（2021 年）

全日本大会の審判員を担当することができるのはA級,B級の審判員である。その中で特にA級審判員には下記の点において期待したい。

① 全日本大会のみならず，日本リーグおよび日本選手権へのノミネートを目標に，さらには日本協会指名レフェリーとして認められ，各種大会での模範レフェリーとして活躍する。

② **「審判員の心得 10 箇条」を熟知**し，人間性を発揮し，大会審判長，副審判長を補佐して，審判団のよきリーダーとして活躍する。

③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと，事実を正しく見極め，**適切な判断基準を元に**，的確な判定を下し，TD やオフィシャル，チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。

④ ハンドボール競技の特徴を理解した上で，試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に（公財）日本ハンドボール協会審判本部作成の「レフェリー評価票」をもとに,A級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理・運営（**モダンハンドボールの理解**）	レフェリーとしての要素･全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失ってはいないか。	○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手･役員とのコミュニケーション	姿勢は正しいか。 **「穏やかに」重大な判定を下し、「明確に」チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、ボディーランゲージや口頭による説明ができているか**（怒らせる・失礼である・傲慢である・親切過ぎる）。	**○レフェリーの人間性** ○丁寧な指示と運営 ○TD,オフィシャルとの連携 ○チーム役員,選手との関係作り
	チームとの関係･平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 **双方にバランスのとれた判定に心がけているか。** 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。	○コミュニケーションのバランス **○判定のバランス** ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク（オフィシャルを含めて）	誰が見ても分かるように，パートナー･オフィシャルとの協力ができているか。	○目に見えるコンタクトの雰囲気
	ペアで均一な判定	1 人のレフェリーが支配したり，されたりしていないか。	○領域分担と判定者が一致しているか **○ゴールエリアライン間際の責任領域はゴールレフェリーである**
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。侵していることに気づいているか。	
(3) ゲームの観察	レベル･カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し，ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ･不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 不要な笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと，笛のタイミングは適切か。	○3 歩，3 秒の保障 ○不要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2 重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(4) １対１の 局面	罰則 8:4 にある即座に 2 分間退場への準備	**各種罰則を適用すべき判断基準を理解しているか。** 許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレーの区別ができているか。 第 8 条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当か。	○即座に 2 分間退場とすべきプレーを適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了前 30 秒間の集中
	チームに基準が理解されているか	**罰則の有無の判断基準が適切か。** 罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後の**ボディーランゲージ** ○プレーヤーへの基準の伝え方
	ハリウッドアクションの見極め	ハリウッドアクションを見抜き，予防的な処置を含めた，適切な処置ができているか。	○大きな声，影響と倒れ方の関係 ○心の準備
(5) 攻撃側の 違反	ボールを持ったプレーヤーの違反	**攻撃側の違反を判定すべき判断基準を理解しているか。** 違反を見逃していないか，探していないか。 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多くないか
	ボールを持たないプレーヤーの違反		○ゴールレフェリーがボールばかり追っていないか
	正しいブロック/ 不正なブロック		○接触・違反のスタートの見極め
(6) ７ｍスロー	明らかな得点チャンスの見極め	適切に 7m スローを与えているか。 **明らかな得点チャンスの判断基準を理解しているか。** 明らかな得点チャンスでないものに 7m スローを与えていないか。 GK 不在の状況での明らかな得点チャンスの見極め。	○防御側プレーヤーの位置観察ができているか
	ゴールエリア侵入と影響の見極め		○押し込まれてのエリア侵入を見極めているか
	ボールを所持していない明らかなチャンス		○違反がなければ明らかな得点チャンスになるプレーへの心の準備
(7) 違反	ステップ･ダブルドリブル･オーバータイム･明らかな着地シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は，7m スローに戻しているか。	○ステップ 2 歩＋2 歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処置
	各種スローの判定と適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレーヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8) 時間の管理 （**モダンハンドボールの理解**）	パッシブプレーの予告合図のタイミング	**適切な判断基準のもとで**予告合図のタイミングは適切か。	○選手交代，各種スローの実施の遅延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの判定	**違反を判定するタイミング，および判断基準は適切か。**	○ボールを持ったプレーヤーがゴールに向かっている状況で違反の笛を吹かない
	的確なタイムアウト･不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えすぎていないか。 タイミングが遅すぎていないか。	○タイムアウトを取らなければならない場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか	2 人の死角はないか。 **攻撃側と防御側の「間」を観察しようとしているか。** プレーヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担が臨機応変 ○レフェリーの基本走法
	明確なジェスチャー・笛の音	**判断基準を適切に説明できる明確なボディーランゲージを用いているか。** 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か（強弱，長短，軟硬の使い分け）。	○罰則，7m スロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり，十分な体力を有しているか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる

B 級公認審判員の目標（2021 年）

B 級審判員より全日本大会への参加資格が与えられる。国内のトップチームの試合を担当するためには，競技規則に従って試合を運営すること，および試合を運営するための基本となる技術を習得することが必須である。

以下に B 級審判員が習得すべき事項について記載する。コート上で１人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは，ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り，両レフェリーは様々な状況に関する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

＜試合前＞

１） トスには指定された時間に両レフェリー，TD が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また，公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。

２） ユニホームの確認は，必ず TD と協力し行う。判別し難いものは着用させない。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。相手コートプレーヤーの色とチーム役員の色とが重複しないように呼びかける。また，プレーヤーの装具についても規定にあっているかどうか，TD と協力し，観察しておく。

３） ゴールやゴールネット，ボールなどの点検は前もって（選手紹介や選手の確認の前）行い競技開始直前に行わない。

４） オフィシャル席の仕事を理解し，シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認，および機器の操作の確認を行うこと。

＜試合開始時＞

５） 競技の開始時刻を守る。（早く始めない）早めに選手紹介等が終了したとしても，開始時刻が定刻となるように TD，両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

＜試合中＞

○ 得点の管理，時間の管理

６） 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合，得点が誤って追加されていないか確認する。

また，時間の管理(タイムアウト)は１試合を通して同一の基準で，公平かつ平等に競技規則に則って処理する。どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

７） コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。

８） 得点合図の後，決して２人の位置を交代しない。

９） バックステップ走法は動きが遅く，非常に危険を伴うため用いない。

１０） 走りながら，あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後その直後の選手，ボールの動きを必ず確認し，次の行動へ移る。

１１） ゴールレフェリーは，コート内に立たないことを基本とし，展開に応じて前後左右に移動する。

１２） ７ｍスローの際，コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。

１３） CP ７名の状況で，GK と CP の交代の妨げにならないような位置取りを。

○ 判定の手順，ジェスチャー

１４） 判定の手順を守る。

①笛　②方向指示〔再開方法〕　③(必要に応じ)ジェスチャー

１５） 正しいジェスチャーを用い，余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

○ 立ち居振る舞い

１６） ２人のレフェリーは，同じ種類の笛を使用する。長い時間，笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで，プレーを観察することがないように。

１７） コート上で腕組み，両手を腰に当てる，ポケットに手を入れる，休めの姿勢など論外。

１８） **「穏やかに」判定を下し，全力で違反したプレーヤーやポイントへ駆け寄らない。**

○ 役割分担

１９） **ピボットプレーヤーの観察は，コートレフェリー，ゴールレフェリーで連携する。**

２０） **ゴールエリアライン際の判定は，すべてゴールレフェリーが判定する。**

２１） 領域分担を明確にし，ペアのレフェリーの近くで起こっているプレーに対して，遠い位置から判定をしない。

○ 競技規則の正しい運用

２２） **警告，退場を判定する際は，その理由をボディーランゲージで大きく示す。**

２３） **競技規則に則った「判断基準」のもとに判定を下す。**

「判断基準」をもとに説明ができる。

２４） 指し違えたときは，必ずタイムアウトを取り２人で協議する。

＜試合終了後＞

２５） 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認する。

＜ B 級公認審判員チェックリスト ＞

◆ 試合前	チェック
1）両レフェリー、TDが立ち会いのもとトスを実施	□
2）メンバー表、登録証の確認	□
3）ユニホームの確認（濃淡はっきりした物 ： チーム同士、レフェリーウェアとチーム）	□
4）チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレーヤーと重複していないか）	□
5）プレーヤーの装具は、規定に沿ったものかどうかを観察	□
6）ゴールやゴールネット、ボールの点検（事前に）	□
7）オフィシャルとの連携（業務の確認、機器操作・動作の確認）	□
◆ 試合開始前	**チェック**
8）定刻でのスローオフか	□
◆ 試合中	**チェック**
得点の管理、 時間の管理	
9）得点の管理はできているか（得点のたびに確認しているか）	□
10）時間の管理（タイムアウト）は競技規則に則って処理できているか	□
11）時間の管理はできているか（目視による公示時計の動作確認）	□
走法と位置取り	
12）コート上の選手とボールから目を離していないか	□
13）得点合図の後に、位置の交代をしていないか	□
14）ゴールレフェリーへの移動時 ： バックステップで移動していないか	□
15）走りながら、あるいは選手に背を向けて方向指示やジェスチャーをしていないか	□
16）ゴールレフェリー時 ： 同じ場所に立ち続けていないか（展開に応じて前後左右に移動）	□
17）7mスローの際のコートレフェリー ： スロアーの利き腕側に立っているか	□
18）GK不在での攻撃（6人 or 7人）で、レフェリーの位置取りは交代の妨げとなっていないか	□
判定の手順、 ジェスチャー	
19）① 笛 ② 方向指示 ③（必要に応じ）ジェスチャー の判定の手順を守っているか	□
20）正しいジェスチャーを用いているか	□
立ち居振る舞い	
21）ペアで同じ種類の笛を使用しているか	□
22）笛を口にくわえたまま、観察していないか	□
23）コート上での立ち姿はどうか（ポケットに手を入れる、休めの姿勢になっていないか）	□
24）「穏やかに」判定しているか（罰則を出しに行く、ポイントへ行く際、全力で駆け寄っていないか）	□
役割分担	
25）ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか	□
26）ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定しているか	□
27）ペアでの領域分担は明確か（相方の近くで起きたプレーを、遠い位置から判定していないか）	□
競技規則の正しい運用	
28）警告や退場を判定する際、その理由をボディーランゲージを用いて大きく示しているか	□
29）競技規則に則った「判定基準」のもと、判定をしているか	□
30）判定をする際、「判断基準」をもとに説明することができるか	□
31）差し違えた場合、必ず ①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか	□
◆ 試合中終了後	**チェック**
32）公式用紙に正しく記入されているかどうか確認したか	□

C 級公認審判員の目標（2021 年）

C 級審判員は，公式試合（ブロック大会レベル）への参加資格が与えられる。ブロック大会は，各都道府県の代表チームの対戦であり，また全国大会の予選会である場合がほとんである。

そのような公式試合を担当するためには，競技規則に則って試合を運営すること，および試合を運営するための基本となる技術を**十分理解**し，**実践する**ことが**求められる** 。

また、**競技規則の理解**においては，競技規則試験において **8 割以上の正答率（B 級審判員認定に必要）**が求められる。

以下に C 級審判員が十分理解し，実践すべき事項について記載する。

＜大会への参加＞

1） 審判会議，代表者会議に出席し，その大会における申し合わせ事項などの共通認識を図る。出席にあたっては，ブレザー・ネクタイを着用する（本協会制定のものを推奨する）。

2） 大会審判員としての自覚を持つこと。所属都道府県の応援をしたり，他のレフェリーの批判をしたりするのは慎む。観衆，チーム関係者に見られていることを忘れない。

＜試合開始時＞

3） トスには指定された時間に両レフェリー・TD が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また，試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうかを確認する。

4） ユニホームの確認を TD と共にする。判別し難いものは着用させない。 チーム役員の服装についても助言する。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。

5） ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。

6） ゴール，コートやボールの点検を行う。

7） オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点，罰則，時間の管理について）。

＜試合開始時＞

8） メンバーチェックを登録証とともに確認する。

9） 選手入場・挨拶の後，両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

＜試合中＞

○ 得点の管理，時間の管理

１０） 得点の管理は，掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合，得点が誤って追加されていないか確認する。
また，時間の管理は試合開始時，タイムアウト時，再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

１１） ＣＲとＧＲの基本的な立ち位置や動きを意識する。
ＣＲは判定の後にポイントに素早く移動する。
ＧＲへの移動時，バックステップ走法は動きが遅く，非常に危険を伴うため用いない。

１２） ７ｍスローの際，コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。

○ 判定の手順，ジェスチャー

１３） 判定の手順を守る。
①笛　②方向指示〔再開方法〕　③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

１４） 2 人のレフェリーは，同じ種類の笛を使用する。長い時間，笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで，プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

１５） **ゴールエリアライン際の判定は，すべてゴールレフェリーが判定する。**

１６） **ピボットプレーヤーの観察は，コートレフェリー，ゴールレフェリーで連携する。**

○ 競技規則の正しい運用

１７） **警告，退場を判定した際は，その理由をボディーランゲージで大きく示す。**

１８） 指し違えたときは，必ずタイムアウトを取り 2 人で協議する。

＜試合終了後＞

１９） 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして，公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。

２０） 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。

D 級公認審判員の目標（2021 年）

D 級審判員は，公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。 公式試合を担当するためには，競技規則に従って試合を運営こと，および試合を運営するための基本となる技術を**理解**し，**実践する**ことが**求められる**

また，**競技規則の理解**においては，**競技規則試験において 6 割以上の正答率(C 級審判員認定に必要)**が求められる。

以下に D 級審判員が公認審判員として理解し，実践すべき事項について記載する。

＜試合前＞

1） 遅くとも，試合開始時刻の 1 時間前までに会場に到着できるように移動する。

2） 大会本部に挨拶をし，控室にて更衣をするなど準備をする。

3） トスには指定された時間に両レフェリー，TD が立ち会う。メンバー表，登録証の確認を確実に行う。また，試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。

4） ユニホームの確認をする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。

5） ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。

6） ゴール，コートやボールの点検を行う。

7） オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点，罰則，時間の管理について)。

＜試合開始時＞

8） メンバーチェックを登録証とともに確認する。

9） 選手入場・挨拶の後，両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

＜試合中＞

○ 得点の管理，時間の管理

１０） 得点の管理は，掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合，得点が誤って追加されていないか確認する。

また，時間の管理は試合開始時，タイムアウト時，再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

１１） CR と GR の基本的な立ち位置や動きを意識する。
CR は判定の後にポイントに素早く移動する。
GR への移動時，バックステップ走法は動きが遅く，非常に危険を伴うため用いない。

１２） 7m スローの際，コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。

○ 判定の手順，ジェスチャー

１３） 判定の手順を守る。
①笛　②方向指示〔再開方法〕　③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

１４） ２人のレフェリーは，同じ種類の笛を使用する。長い時間，笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで，プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

１５） **ゴールエリアライン際の判定は，すべてゴールレフェリーが判定する。**

１６） **ピボットプレーヤーの観察は，コートレフェリー，ゴールレフェリーで連携する。**

○ 競技規則の正しい運用

１７） **警告，退場を判定する際は，その理由をボディーランゲージで大きく示す。**

１８） 指し違えたときは，必ずタイムアウトを取り２人で協議する。

＜試合終了後＞

１９） 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして，公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。

２０） 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。

レフェリーアセッサーの資質と任務

豊富な経験と実務を積んだアセッサーによる評価は、レフェリーに貴重で積極的なアドバイスとなります。そのため、アセッサーは、確信を持った価値ある評価を提供できるよう努めなければなりません。

また、アセッサーによる評価は、優秀なレフェリー育成・強化に活用されるだけでなく、特にブロック大会以上の場において、レフェリーが所属する都道府県協会との連動も必要となります。

■　資質

（１）レフェリーとして活動した経験。

（２）「競技規則」の解釈と精神の正しい理解と十分な適用能力。

- ●レフェリーとしてゲームを観察する能力。
- ●レフェリーのパフォーマンスを客観的な視点で捉え、統一されたレベルに基づいて評価できる能力。
- ●レフェリーのパフォーマンスの力量と質を正しく認識する能力。
  （レフェリーが欠点を是正する上で実用的、専門的な助言となる）
- ●レフェリーと共にゲームを分析し、実践的で技術的助言を与える能力。
- ●洗練された評価表を作成する。

■　任務

（１）少なくともスローオフの１時間前には会場に到着する。

（２）競技規則、ノートと筆記用具を持参する。

- ●スローオフ前にレフェリーに会い、簡単な激励をすることがレフェリーと良い関係を保つ要素になる。ただし、試合直前には、審判上の技術的な指示はしない。
- ●ゲーム中、レフェリーのパフォーマンスについてノートを取り、試合後の分析と評価に活用する。
- ●励ましとなるレフェリーの良い点をアドバイスする。ただし、ハーフタイムはトラブル等が起こった場合以外行わない。
- ●ゲーム終了後、レフェリーのパフォーマンスについて反省を持ち、分析をレフェリーにアドバイスを与える。

■　はじめる前に

一般的にスポーツを指導する人のことを、「コーチ」と呼んでいます。コーチという語源は、元々、ハンガリー北部にあるコチ（kocsi）という町の名前に由来します。もともとコチは、初めてサスペンションを備えた大型四輪馬車が誕生した地として知られていました。この優れた機能を備えて走る馬車は コチ・セケール（kocsi szekér）、つまりコチの馬車と呼ばれ、人や物を輸送するために欠かすことのできない手段でした。馬車の役割（大切な人を、その人が望むところまで送り届ける）として使われていた「コチ」が語源となり、今ではスポーツの世界のみならず、教育現場やビジネス分野においても、コーチは、個人や組織の目標達成を支援する、大事なことを伝える存在として認識されています。

コーチが支援を行う際、その方法は、大きく分けると２つあります。

１つは、Teaching。そして、もう１つは、Coaching です。この２つの簡単な違いは、答えを「教える（ようとする）」か、自分で見つけ出すよう「導いたり支援する」です。

Teaching で答えを持っているのは「教える側」であるのに対し、Coaching で答えを持っているのは、相手となる「受け手側自身」になります。

② Teaching とは

Teaching では、上下の関係性を伴う「一方向」のコミュニケーションであるため、大人数に一度に指導することが可能であり、相手に方法や価値観の統一を、短時間で図ることが容易となります。

ただし、教える側への依存性が高くなる傾向にあり、モチベーションが下がりがちになってしまうこともあります。また、コーチとなる人物の知識や経験に左右されやすいため、受け手の個性が現れにくくなってしまう可能性もあります。

③ Coaching とは

Coaching では、答えを見つけ出せるよう導くために、お互いが対等な関係性の下で、「双方向」のコミュニケーションとなります。そのため、受け手となる方の構成を活かしつつ、相手の考える力や自主性の向上、可能性を引き出せるよう導くことから、受け手側は、自律することができ、モチベーションも上がる傾向にあります。

ただし、受け手側である相手が、答えを出すのを待つ時間がある程度は必要となります。また、双方向のコミュニケーションが必要であるため、一度に大勢の人に対しての実施は困難となります。

■　ゲーム指導（観察と分析能力）

アセッサーがレフェリーの能力（ゲームコントロール等のパフォーマンス）を判断するためには、レフェリーのパフォーマンスを的確に観察し、分析する能力が必要になります。

アセッサーの試合観察と分析の方法には、大別して次の２通りの方法があります。

① レフェリーのパフォーマンスを観察することによって良い点を伸張し、欠点を改善する分析を行い、アドバイス（教える）する。

② レフェリーのパフォーマンスを観察し、評価するために分析をする。

① レフェリングの Teaching

一般的にアセッサーの任務はレフェリングスキルの上達を指導することが重要であり、そのためにはアセッサーのレフェリング分析能力の質が問われます。

レフェリーのパフォーマンスをうまく分析できたならば、倫理的な裏付けを持って指導を行いますが、スキルや経験の比較的浅いレフェリーには基本的な事項を「Teaching（教える）」することが重要であり、スキルや経験のあるレフェリーに対しては、試合を観戦している観客等を意識した発展的なパフォーマンス指導（プレーヤーマネジメント等）に変化すべきです。 また、対象ゲームのみの指導といった短期的な指導の際には、これまでの課題とこれからの課題によって統一的な指導が行えるようにします。

特に注意しなければならないことは、充分なスキルを有していないレフェリーに対して基本的な事項も未完成であるにもかかわらず、発展的なパフォーマンスを指導する（教える）ことによって「絶対的に身につける必要があるレフェリングの基本的な事項」の指導がおろそかになることです。

※ 基本的な事項 →　「競技規則に関連した事項」「競技規則の精神」「位置取り」
「走法」「笛の強弱・シグナル」「ファウルの見極め」
「アドバンテージの解釈」「明らかな得点チャンスの解釈」 等

② レフェリングの Coaching

一般的にアセッサーはレフェリングスキルを評価することが重要な任務であり、そのためにはアセッサーはレフェリーのパフォーマンスを分析し、正当に評価する能力が必要になります。

この能力は、レフェリーとして高度なレベルの試合体験をすることが基礎になります。つまり試合を観察し、分析するためにはプレーヤーが試合の中で行うパフォーマンス（フ

ァウル・不正行為等）も高度にかつ巧妙に行われるものを見極める能力が重要になります。

アセッサーが行う指導は、限られた場所、時間内で有効的に行う必要があるため、Coaching にて指導します。つまりレフェリーのパフォーマンスの中で「ゲームを支配する出来事（鍵になる出来事）」に対して「簡潔に改善のヒント」を与える能力が重要です。

■　レフェリーに対する評価手順（基準）

（１）試合前

①レフェリー控室を訪問し、レフェリーと顔を合わせて激励する。

②レフェリーは試合前の準備とコンディションの調整中であるので、無駄話を避け、少なくとも選手紹介の１５分前には控室を出ること。

③コート全体が見渡せることはもちろんのこと、競技場全体が見渡せる位置を確保する（チーム関係者が近くにいない場所）　。

④レフェリー評価票（またはノート）等に試合中に起こった事項を記入し、ゲーム終了後のミーティングでの指導資料にする。

（２）試合中

①レフェリーのゲームコントロール上の要点をメモする。

②ゲームコントロール、競技規則の適用面を重点的に注意して観戦する。

③レフェリーの長所と短所を記入し、欠点のみでなく、良い点も記入しておくこと。

④周囲に観戦者がいる場合には、言動に注意しなければならず、特に重大事項等の場面で観戦者に同調するような表現は絶対に避ける。

⑤周囲の観戦者からその試合の場面等に関する質問があった場合は、応答しないのが原則であるが、答えるときは一般論として答える。

（３）ハーフタイム

①よほどのことがない限り、レフェリーとの接触は持たない（控室が同じでも激励程度にしておく）　。

②どうしてもアドバイスが必要な場合には、簡単に指摘したい部分のみを指導する。

③試合終了後のレフェリーへの指導のため、前半の指導上の要点をまとめておく。

（４） 試合終了後

①最初に慰労する。

②トラブルがあった場合でも、決して試合直後に指摘しない。

③レフェリーが落ち着いた後（例えば更衣後）、ミーティングに入る。

④トラブルがあり、チーム関係者が質問に来た場合は、レフェリーから事情を聞き、対処する（その時は個人的感情を入れず、競技規則に則った説明をする）。

（５）試合の分析とゲーム終了後のミーティング

①関係者以外、ゲーム終了後のミーティングに入れない

②一般手順

ａ．レフェリー（ペア）に試合を終えた感想を聞く

ｂ．試合前の課題を聞く

ｃ．課題に対してどうだったか聞く

ｄ．試合での重要事項（７ｍＴ、失格、トラブル）の確認を行う

③レフェリーの分析とアセッサーの分析との擦り合わせを行う。

④レフェリングの指導を行う（アドバイス・ヒントを与える）　。

⑤今後の課題と解決方法のヒントを与える。

［方法例］

①評価表の記載事項順に指導する。また、そのゲームで課題とした点を指摘し指導する。

②欠点のみを指摘するのでなく、まずは良い点を褒める。

③特に重大事項（７ｍＴ、失格、トラブル等）の指導に関しては、よく確認をした後に、はっきりと指摘する。併せて改善点も伝える。

④断定的に指摘する場合と一般的に指摘する場合を使い分ける。

・ 断定的・・・競技規則の適用間違い 等

・ 一般的・・・レフェリングの判断に関する事項

ただし、ハンドボールの常識（Common Sense）に適合したものでなければならない。

⑤一つの場面を強調しすぎると、良い場面がなくなるので注意する。

⑥レフェリーの任務遂行について、バランスを考えて指導する。特に動きの面を強調しすぎることにより、判断が悪くなる傾向があるので注意すること。

⑦特にそのゲームでポイントとなった事象（良い点、悪い点）を指摘し、改善点を指摘するか、その処置が良かったことにより、以後のレフェリングがスムーズに運べたことを指摘し、激励する。

⑧最後に必ず今後の課題を指摘して、改善のヒントを与え、良いレフェリングができるように指導する。

（６）評価表の記入

アセッサーが注意すべきことは、報告を行うのは競技規則が正しく適用されたか否かについてであり、アセッサーが同様の状況で取ったであろう行動についてではない。

考慮されるべき点は、レフェリーがその瞬間に取っていたポジションから見たはずのものに対してであって、アセッサーがサイドライン、スタンドから見たものではない。

①試合直後に記載するのでなく、時間を置き、考える時間を取ってから評価する。
②試合の局面から評価を行い、最終的に全体のレフェリングの流れを考慮に入れて記入する。
③客観的事実によって評価する。
④特に重大事項以外で１～２回あったことによって、評価を大きく左右しない。
⑤試合を大きく決定するような判定ミスや処置を誤った場合は、大きく減点する。
⑥項目ごとに指摘や改善点のアドバイスを記入する。
⑦コメント欄には、指摘点のアドバイスのみならず、賞賛と激励が公平にバランスよく配置されるように記載する。
⑧記入が終われば、必ず記載事項を点検する。

■　レフェリングの分析の方法と指導の観点

レフェリングの分析について大きな目的は、ストロングポイントのさらなる助長、そして課題を明確にして、レフェリーが「気づき」自らが改善点を引き出せるようにサポートします。さらには次の試合に向けて高いモチベーションになることが期待されます。

アセッサーには細かい点にこだわるのではなく、レフェリーの総体的なパフォーマンスにおける特徴や傾向の見極め、または試合の雰囲気や選手の温度、意図を感じられる観察力、そして必要な場面で求められる適切なマネジメントをアドバイスできる知識の深さなどが求められます。

（１）分析において考慮すべき点

①判定面

罰則を含めたスタンダードの確認。判定は公平で基準は一貫していたか。

②アドバンテージ

適格な適用と事後処理はできていたか。

③ポジショニング

特に重要な判断を求められた場面や判定にミスが見られたときのポジショニング、カウンターアタックに対してのスプリントが使われていたか

④監視すべき点

エリア際でのポジション争い、各種スローの位置、ＤＦの距離の監視が確実に行われていたか。

⑤マネジメント

カードの出し方や選手に注意を与えるときに適切なコミュニケーションが取られているか。反則を繰り返す選手に気づき、予防に努めていたか。意義や不満を示す選手への気づきはあったか。スピーディーなコントロールが意識されていたか。

⑥パーソナリティー

迷いのない早い判断、笛の長短強弱、立ち居振る舞い等、確固としたパーソナリティーが確立されていたか。

⑦ペアとの協力

アイコンタクトが取られ、ペアの判定に適切に対応でき、役割分担ができているか。

（２）指導の方法と留意点

①指導の前に、自身の評価表を振り返る時間を取ります。そして、担当レフェリーが次の試合へのモチベーションとなるべく、どのように進めていくのかポイントを絞り、プランを考える。その際、ポイントは別紙に書き出し、またマーカーなどでストロングポイントや改善点を色分けして整理しておきます。

②ストロングポイントは、レフェリーをポジティブな気持ちにさせることであり、小さい点でも良いので少なくとも２、３点は取り上げるようにします。

③改良点としては、個々の判断やマネジメントを確認するのではなく、総合的に見て不足していた点（傾向）を取り上げます。また、７ｍＴや失格など、重要な判定が求められた場面があれば確認をします。

④分析の時間は長い時間にならないよう、上限３０分を目安に行ってください。

⑤まず、担当レフェリーのコメントからスタートし、レフェリー自身が疑問に感じていた場面は振り返るようにします。

⑥改善点は「なぜ」そのような判断や対応を取ったのか、考えを述べさせます。次に改善するためには何を考慮すべきか、アセッサーがうまくリードし、気づきのヒントを与え、本人の言葉で引き出せるようにします。決め付けたアドバイスは避けてください。

⑦レフェリーからの質問を受けた後、総体的なパフォーマンスを再度振り返ってまとめます。その際も必ずストロングポイントには触れ、ポジティブな気持ちで次の試合へ臨めるよう導いていくください。

■　評価表への記入について

①試合前に評価票の上部の必要事項を記入します。

②試合中は、レフェリーのパフォーマンスのチェックを他のノート等に記入します。

③試合終了後、ミーティングをどのように進めるか整理をしながら、評価表のアセッサーコメント欄にそれぞれの項目について記入します。

④まず、ミーティングで必ず、全体についてレフェリーに感想を述べさせます。

⑤次に全体でのレフェリーの感想についてコメントをお願いします。

⑥次にアッセサーの気になった点について、レフェリーに質問してください。

⑦レフェリー、アセッサー両方のコメントの擦り合わせを行いながら、アドバイスを行います（アドバイスについては、レフェリーの分析の方法と指導の観点に沿って）。

⑧レフェリーとのミーティングが終了後、評価表を記入します。

⑨一方的な見方での評価でなく、レフェリーとのミーティングを踏まえての評価を行ってください。

⑩レフェリー評価の欄は、点数ではなく、コメントで記入します。

⑪レフェリーへのコメントは、ミーティングでアセッサーがレフェリーに行った、全体的なアドバイスの内容を簡単に記入してください（今後の課題も含む）　。

⑫全て記入後、再度見直しを行います。

⑬日本協会 競技・審判本部に提出してください。

（2019 年度全国審判長研修会およびマッチオフィシャル・TD 研修会資料より一部抜粋）

レフェリー指導者ハンドブック 2019

アセッサー編

アセッサーに求められること

- 審判員としての経験
- ゲーム観察
- 力量と質の分析
- 評価表作成
- 競技規則の理解と適用
- 評価基準の統一性
- 実践的、技術的助言

アセッサーに求められること

確信を持った価値ある評価を審判員に提供できるよう、そして、国内外におけるトップレフェリーの育成・強化を目指し、助言

任務 ～試合前～

- ◆ 余裕を持って到着
- ◆ 競技規則、ノート、筆記用具
- ◆ 審判員との顔合わせ
- ◆ 観察、評価場所

任務 ～試合中～

- ◆ 要点をメモ
- ◆ 観察ポイント
- ◆ 言動への注意
- ◆ ハーフタイムの過ごし方

任務 ～評価表への記入～

① 記入するタイミング
② 局面から全体へ
③ 客観的評価
④ Small Potato と Big Potato
⑤ 項目ごとに評価
⑥ 記載事項の点検

考慮すべきは
審判がその瞬間に取っていたポジションから見たはずのものに対して・・・

評価方法

任務 ～試合後～

- ◆ 第一に慰労
- ◆ ミーティングのタイミング
- ◆ チーム関係者への対応
- ◆ ミーティングの実施

任務 ～ミーティング～

- 関係者のみで実施
- 一般手順
- 双方向からの意見交換
- ゲームの振り返り

1）ペアからの感想
2）試合前の課題
3）課題に対して
4）重要事項の確認
5）疑問点

ミーティングを行う際の留意点

- 準備
- 言葉を引き出す
- 総合的な評価
- 所要時間

□ 評価表の振り返り
（色分けする等の整理も）

□ どのように進めていくか
プランを考える
（次につながる指導にする）

ミーティングを行う際の留意点

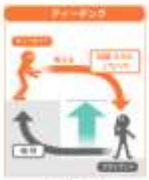
- 準備
- 言葉を引き出す
- 総合的な評価
- 所要時間

「なぜ」そう判断したのか
↓
気づきのヒント
↓
改善するにはどうすべきか
本人の言葉で引き出せる
よう試みる

まとめ

	Teaching	Coaching
関係性	上下	対等
答え	教える	引き出す
コミュニケーション	一方向	双方向
行動	依存	自律
モチベーション	下がる	上がる

“コーチ”として



教える
受動的

基礎的知識や技術を学ぶ
研修会等に有効
＜例＞知識、経験が浅い

気持ちを持つ人に有効
＜例＞「結果を出したい」
「上達したい」と
思っている人

引き出す
自発的

【Ａ・Ｂ級審査会の評価の要点について（2021 年改訂版）】

【評価のポイント】　　心技体を総合評価
（平成 29 年度より B 級審査においても体力試験を実施する）

1. 人間性 ： 礼儀や態度（競技規則筆記試験の結果も真面目かどうかを反映）

・コート上でのおだやかな振る舞いと、毅然としたボディーランゲージ
・大会の構成員としてのレフェリーグループ、仲間、チームとは？

2. 技　術 ： レフェリーの仕事の目的は？

① **首尾一貫性**：最初の５分間とは？
- 競技開始の直後でも、即座に２分間退場・レッドカードを出せる準備
- プレー（特に相手に対する動作）に対して、明確な基準を知らせる
- Prevent Action（これ以上はさせない、予防的な動作）

② **笛の音色**：プレーヤーや観衆にとって重要。目が不自由な観衆も存在する。
- スピーディーなハンドボールを演出するために判定のジェスチャーより大切
- 強弱長短を使って表現

③ **プレー評価**：特にナイスディフェンスにより惹起されたオフェンスのミス
- 防御側の権利の保障。ルールは「攻撃側」「防御側」に平等に存在する
- 安易に「攻撃側」有利な、フリースローハンドボールにしていないか

④ **罰則の適用**：相手に対する動作とスポーツマンシップに反する行為
- 危険につながる行為（注意・YC）を見極め、危険行為(結果的に相手の安全を軽視する行為＝2 分間退場、RC)を排除。
- Prevent Action(これ以上はさせない、予防的な動作)
- 真の教育的配慮とは？
- 競技の本質を根底から覆すような行為（シミュレーション、目隠し、ウイングポジションにおける防御側のロングステップ等）を排除

⑤ **位置取り・立ち居振る舞いと任務分担**：審査会における急造ペアでも常識的な範囲で
- セット攻撃時の姿勢と観察位置　＝ 攻防の「間＝ボール」を観察できる位置を
- 速攻（リスタート、ターンオーバー）時の走路・走法と観察位置 → 特に重要！
- 正しいジェスチャー（オリジナリティは不要）
- 任務分担の考え方（ボールの有無、ゴールエリア際、ピボットの観察）

⑥ ミス：基準ではない（ミスはあくまでミス）
- Small Potatoes と Big Potatoes
- 大きなミスをしないためのゲームコンディション

3. 体　力 ： 日頃のトレーニングの成果を！ 仲間意識をもって励まし合いながら！

【上達のために】　審査結果の如何にかかわらず

審判員の倫理綱領（競技・レフェリーハンドブック）に従えば自ずと道標は …

審判員の倫理綱領

レフェリングは、競技中の判定はもとより、
ハンドボール競技の進歩・発展に寄与するものであり、
レフェリーは責任の重大性を認識し、
ハンドボール競技への情熱を基に、すべての人に奉仕するものである。

1．レフェリーは生涯学習の精神を持ち、常にハンドボール競技の正しい理解とレフェリング技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。

2．レフェリーは任務の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を磨くよう心掛ける。

3．レフェリーはプレーヤーや監督の人格を尊重し、あたたかい心で接するとともに、レフェリング内容について理解と信頼を得るように努める。

4．レフェリーは互いに尊敬し、ハンドボール競技関係者と協力してレフェリングに最善を尽くす。

5．レフェリーはレフェリングの公平性を重んじ、レフェリングを通じてハンドボール界の発展に尽くすとともに、競技規則・諸規程の遵守および秩序の形成に努める。

6．レフェリーはレフェリング活動にあたって、営利を目的としない。

（公財）日本ハンドボール協会 審判本部

レフェリー評価票の記入方法について

総合的な評価	
レフェリーの総合評価は	□ とても良い □ 良い □ 概ね良い □ 適切 □ ほぼ適切 □ やや不十分 □ 不十分
このゲームは（難易度）	□ とても難しい □ 難しい □ やや難しい □ 普通 □ 簡単 □ レフェリーがゲームを難しくしてしまった
なぜ難しかったか	□ 結果・得点経過 □ ベンチの振る舞い □ 観客の影響 □ スピード □ 戦術 □ 違反行為 □ その他（下欄に具体的に記入）

項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コメント（優れている点・改善すべき点など）
(1) ゲーム管理・運営（モダンハンドボールの理解）	レフェリーとしての要素・全体的印象					
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション					
	チームとの関係・平等であるか					
(2) 連　携	チームワーク（オフィシャルを含めて）					
	ペアで均一な判定					
	領域分担					
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準					
	アドバンテージ・不必要な笛・発展性のないプレーの見極め・笛のタイミング					
(4) １対１の局面	罰則・8:4にある即座に２分間退場への準備					
	チームに基準が理解されているか					
	ハリウッドアクションの見極め					
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反					
	ボールを持たないプレーヤーの違反					
	正しいブロック / 不正なブロック					
(6) ７mスロー	明らかな得点チャンスの見極め					
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め					
	ボールを所持していない明らかなチャンス					
(7) 違　反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート					
	足を使った違反					
	各種スローの判定と適切な実施					
(8) 時間の管理（モダンハンドボールの理解）	パッシブプレー予告合図のタイミング					
	パッシブプレーの判定					
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない					
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか					
	明確なジェスチャー・笛の音					
	体力・走力					
レフェリーへのアドバイス・特記事項など						

○ 現在国内で使用している「レフェリー評価票」は、ＩＨＦで使用しているものと同様である。２０１６年２月、香港にて行われたＡＨＦチーフレフェリー・ＴＤセミナーにおいて、その記入の仕方について、下記の通り具体的に説明がなされた。国内の上級審判員審査会および、全日本大会審判員評価においても、この評価票を使用し、審判員へのフィードバックおよび指導に役立てていく。

※ カラーの網掛け箇所に関し、基本的には評価票内の同色欄と関連させています

１「レフェリーの総合評価」

７段階で評価する。以下にその基準を示す。
評価項目の(１)～(３)は、審判員としての基本姿勢に関わる大切な項目である。全日本大会審判員（Ａ級・Ｂ級）評価においては、（１）～（３）の項目において「適切」以上の評価がつくことが条件となる。また、**A級審査においては、(１)～(３）の項目において「良い」が2つ以上つくことが条件**となる。

（１）とてもよい・・・・・トップレフェリー、指名レフェリーに求められる

○ レフェリーの判定ミスがほとんどなく、ゲームに影響を与えていない。
○ 基準がとても明確で理解しやすい。
○ ペア間でのバランスがよい。
○ 素晴らしいゲーム運営がなされており、明らかにレフェリーが受け入れられている。

（２）良い・・・・・A級審判員の合格ライン（2017年改訂）

○ レフェリーの判定ミスが少ししかなく、ゲームに影響を与えていない。
○ 基準が理解しやすい。
○ すべての項目において、「不十分」の評価がつかないこと
○ (１)～(３）の項目において、「良い」の評価が2つ以上つくこと
○ (４)～(９）の項目において、「良い」の評価が3つ以上つくこと
○ 適切なゲーム運営がなされており、レフェリーは概ね受け入れられている。

（３）概ね良い・・・・・レフェリーコースの合格ライン（2017年改訂）

○ レフェリーの判定ミスが少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
○ 基準にややぶれがあるが概ね理解しやすい。
○ レフェリングの「評価項目」（４）～（９）の中で、不十分な項目が**1つ**しかない。（例：（４）１対１の局面、罰則　等）
○「項目ごとの評価」(１)～(３）において「適切」以上の評価がつく。

（４）適切・・・・・全日本大会審判員・B級審判員の合格ライン

○ レフェリーの判定ミスは少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
○ 基準にぶれがあるものの、試合の流れには影響を与えていない。
○ レフェリングの「評価項目」（４）～（９）の中で、不十分な項目が**2つ**ある。
（例：（４）１対１の局面、罰則、（７）違反、ステップ　等）
○「項目ごとの評価」(１)～(３）において「適切」以上の評価がつく。

（５）ほぼ適切

○ レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
（例：　点差の開いた試合　等）

○ 基準のぶれが大きく、一貫していない。

○ レフェリングの「評価項目」（４）～（９）の中で、不十分な項目が**いくつか**ある。（例：　罰則、ステップ、攻撃側の違反　等）

○「項目ごとの評価」（１)～(３）において「適切」以上の評価がつく。

（６）やや不十分

○ レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
（例：　点差の開いた試合　等）

○ 基準のぶれが大きく、一貫していない。

○ レフェリングの「評価項目」（４）～（９）の中で、不十分な項目がいくつかある。（例：　罰則、ステップ、攻撃側の違反　等）

○「項目ごとの評価」（１)～(３）において「不十分」の評価がつく。

（７）不十分・・・・・初心者、未経験のレフェリー

○ レフェリーの判定ミスが多い。

○ 多くの判定ミスが明らかに試合結果に影響を与えている。

○ 基準のぶれがとても大きい。

○ レフェリーの勝手な判断が、ゲームに影響を与えている。

○ レフェリーはゲームを理解していない。

○ 明らかにレフェリーがゲームをコントロールできていない。

２「項目ごとの評価」４段階

（１）とても良い

○ 申し分がなく、判定ミスがほとんどない。

（２）良い

○ 概ね満足できる、基準のぶれが少なく、チームにも受けいれられている。

（３）適切

○ 判定ミスがあり、改善は必要であるが、基準のぶれは少なく、チームにも受け入れられている。

（４）不十分

○ 判定ミスも多く、基準が受け入れられない。 改善を要する。

3「コメント」

◆ 別紙**「レフェリー評価に関する着眼点」を参考**に、レフェリーに対して今後改善を要する点について具体的に記載する。

◆ **上級審査会においては、審査に合格・不合格した理由について具体的な記載**があるとよい。レフェリーにとって今後何を努力していくべきなのか明確にし、指導・および評価の一体化を図る。

◆ 評価票裏面については、審査の際メモとして使用する程度で活用し、必要に応じて指導に役立てる。

4 「ゲームの難易度」

○ 試合全体を客観的に観察して、難易度がどうであったかをチェックする。

○ 「とても難しい」「難しい」「やや難しい」についてはその理由としてあてはまる項目をチェックする（複数可）。

○ 「レフェリーがゲームの流れを作った」は意図的な介入があったと疑われる場合にチェックする。

レフェリー評価における着眼点（朱書きは重要ポイント）

項	目	着　眼　点
(1) ゲーム管理・運営（モダンハンドボールの理解）	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。正しい判断基準に基づいた的確な競技規則の運用ができているか。
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション	不自然な，不安定な態度ではないか。集中力を欠いているような仕草が見えないか。チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し，基準を明確に伝えるようボディーランゲージや口頭による説明ができているか。ベンチ管理(交代プレーヤー・チーム役員)。
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。おだやかで公平な態度であるか。一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。弁解や妥協しがちではないか。ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。
(2) 連　携	チームワーク(オフィシャルを含めて)	誰が見ても分かるように，パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。
	ペアで均一な判定	１人のレフェリーが支配したり，されたりしていないか。ペア間のバランス。
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか（特にゴールエリアライン際)。侵していることに気づいているか。
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し，ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。アドバンテージ後の罰則を与えているか。ルール違反のアドバンテージを与えていないか。不要な笛でプレーを止めていないか。発展性のないプレーの見極めと，特に攻防が切りかわる笛のタイミングは適切か。
(4) １対１の局面	罰　則 ８：４にある即座に２分間退場への準備	許容範囲のタフなプレーとアンフェアなプレーの区別ができているか。ルール８(違反・スポーツマンシップに反する行為)に一致しない罰則を与えていないか。
	チームに基準が理解されているか	罰則が良いバランスで判定されているか。
	ハリウッドアクションの見極め	ハリウッドアクションを見抜き，予防的な処置を含めた，適切な処置ができているか。
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反	違反を見逃していないか，探していないか。正しい防御活動を認めているか。また，明確なボディーランゲージでプレーヤーへ基準を知らせているか。
	ボールを持たないプレーヤーの違反	
	正しいブロック/不正なブロック	
(6) ７ｍスロー	明らかな得点チャンスの見極め	防御側プレーヤーとの位置関係から，明らかな得点チャンスを見極め，適切に７ｍスローを与えているか。明らかな得点チャンスではないのにもかかわらず７ｍスローを与えていないか。
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め	
	ボールを所持していない明らかなチャンス	
(7) 違　反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート	正しく判定しているか。明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は，７ｍスローに戻しているか。
	足を使った違反	
	各種スローの判定と適切な実施	各種スローが正しく実施されているか。３ｍの距離を観察できているか。修正後の処置は適切か。
(8) 時間の管理（モダンハンドボールの理解）	パッシブプレー予告合図のタイミング	判断基準に則り，予告合図のタイミングは適切か。
	パッシブプレーの判定	違反の判定のタイミングは適切か。
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。与え過ぎていないか。遅過ぎないか。
(9) 動　き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか	２人の死角はないか(プレーヤー・ボールから目を離していないか)。サイドチェンジは適切か。
	明確なジェスチャー・笛の音	ルールブックにないジェスチャー，はっきりしないジェスチャーを用いていないか。最初に方向指示をしているか。笛の音は適切か(弱すぎる・大き過ぎる・挑発的など)。
	体力・走力	レフェリングをするにあたり十分な体力・走力を有しているか。

【評価票 記入例】

レフェリー評価票〔2020全日本大会用〕

氏名・ペア名		所属		期日	年　月　日
大会名				会場	
評価者	渡邊 [illegible] 印	対戦	vs	(男)・女	結果

総合的な評価

レフェリーの総合評価は	□ とても良い ☑ 良い □ 概ね良い □ 適切 □ ほぼ適切 □ やや不十分 □ 不十分
このゲームは（難易度）	□ とても難しい ☑ 難しい □ やや難しい □ 普通 □ 簡単 □ レフェリーがゲームを難しくしてしまった
なぜ難しかったか	☑ 結果・得点経過 ☑ ベンチの振る舞い □ 観客の影響 ☑ スピード □ 戦術 ☑ 違反行為 □ その他（下欄に具体的に記入）

項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コメント（優れている点・改善すべき点など）
(1)ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象 振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション チームとの関係・平等であるか		✓			ゲーム前の笛が弱い。プレーヤーへの言葉がけ。チーム役員へ接近時に近づき過ぎ。レフェリーがすべてコントロールするつもりで
(2)連　携	チームワーク（オフィシャルを含めて） ペアで均一な判定 領域分担		✓			自分のフレームが来ている時の合図。 → 高度技術を使って判定しているが、二人がチーム役員やプレーヤーに伝えることが大切。
(3)ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準 アドバンテージ・不必要な笛・発展性のないプレーの見極め・笛のタイミング		✓			
(4)1対1の局面	罰則・8:4にある部座に2分間退場への準備 チームに基準が理解されているか ハリウッドアクションの見極め			✓		→ 場面、特に攻撃の最後原則
(5)攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反 ボールを持たないプレーヤーの違反 正しいブロック / 不正なブロック		✓			攻撃展開中、ゴールエリアのATを利用した。ボールプレーヤーへ接近しにくい。その後のインフォメーションも必要
(6)7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め ゴールエリアへの侵入と影響の見極め ボールを所持していない明らかなチャンス	✓				※VIP 直ちの合図から、笛の合図までの時間例。ルールがGAと違ってきている
(7)違　反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな得点シュート 足を使った違反 フリースロー・スローオフなど		✓			
(8)時間の管理	パッシブプレー予告合図のタイミング パッシブプレーの判定 的確なタイムアウト・不要な中断をしない		✓			※試合中の笛 ⑥ 手を挙げてから最後の攻撃中に時間例が鳴りリズム
(9)動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか 明確なジェスチャー・笛の音 体力・走力		✓			※プレーヤーと同じリズムで動く → 攻撃とやふに見てるのでは？ 攻撃とやふにボールとやふに対応
レフェリーへのアドバイス・特記事項など	※ボールの展開による時間のなかでの笛を吹く場合。— 誰もが理解できない前（吹くべきかどうかよりも吹いたのであれば説明責任） ※ペアとして対応すべきもの そしてその手法のためにどうすべきか思考する。 ※常に「最高の手法」を考え、その一助にどうあるか。イメージを合わせる					

競技運営に関わる通達

服装や保護を目的とした装具に関する規定

ＩＨＦ国際ハンドボール連盟（2017 年 7 月発表）を基準とする
全日本大会では実施：ブロック、都道府県協会では推奨とする

２０２１年４月１日（公財）日本ハンドボール協会競技・審判本部

1　頭部や顔への装具

品目	例	国内	国際	条件
① マスク		可	不可	IHFではマスクは使用できない 国内大会では、表情が読み取れ、柔らかい素材であれば、主催者の判断で使用を認める。
② ヘルメット		不可	不可	ヘルメットは使用できない
③ 鼻の保護		可	可	柔らかく、単色で、テープ式のもの

2　ヘアバンド

例	国内	国際	条件
	可	可	ゴムバンド式で、薄く、幅広くないもの
	不可	不可	ゴムバンド式でないもの、厚手のもの、幅広いものは使用できない ※はちまきは伸縮性でなく、結び目から垂れた部分が危害を及ぼす可能性がある。国内では、主催者が、使用に支障がないと認めれば、使用を認める。

3　めがね・ゴーグル

例	国内	国際	条件
	可	可	スポーツめがねやゴーグルは、スポーツ用のバンドがあり、平らなプラスチックレンズで、フレーム上部がシリコンなど柔らかい材質であること
フレームが固い材質（バンド付）	主催者が規定	不可	IHFではスポーツめがねやゴーグルであっても、フレーム上部が固い材質のものは使用できない。 国内では、主催者が、使用に支障がないと認めれば、使用を認める。

4　マウスピース

例	国内	国際	条件
	可	可	透明であり、単色のマウスピースは使用できる
	不可	不可	不透明や、複数の色のマウスピースは使用できない

5　肩の保護やアームスリーブ

品目	例	国内	国際	条件
① 肩の装具	 	可	可	肩の装具は、やわらかく、薄手の材質であれば使用できる。色は問わない。
② アームスリーブ	 	可	可	アームスリーブはユニフォームの大部分を占めている色と同色か、類似の色であれば使用できる。

６　肘の装具

品目	例	国内	国際	条件
① 肘あて	 	可	可	薄くて柔らかい材質であれば使用できる。色は問わない。
② 肘あて （３カ所にパットがついている）		可	可	３カ所に保護のためのパットがついている肘あては使用できる。パット部分はエンボス加工されており、肘が床を滑る際に適した構造になっている。
③ ネオプレン（合成ゴムの肘あて：１枚のパット）		可	可	広い１枚のパットを用いたネオプレンの材質の肘あては使用できる。パット部分はエンボス加工されており、肘が床を滑る際に適した構造になっている。
④ 肘の サポーター		可	可	薄くて柔らかい材質であれば使用できる。色は問わない。固い部分がすべて柔らかいもので覆われており（相手に危害を加えなければ）使用できる。
⑤ 肘の装具		不可	不可	固い部分がむき出しになっている装具は使用できない。

7　膝の装具

品目	例	国内	国際	条件
① 膝 サポーター		可	可	柔らかい、薄手の材質であれば使用できる。色は問わない。 固い部分がすべて柔らかい素材で覆われており、相手に危害を加えないと判断できれば使用できる。
② 膝 サポーター （１枚の パット）		可	可	広い１枚のパットで保護目的であれば使用できる。
③ ネオプレン （合成ゴム の膝サポー ター ：１枚の パット）		可	可	広い１枚のパットを用いたネオプレンの材質の肘あては使用できる。 パット部分はエンボス加工されており、膝が床を滑る際に適した構造になっている。
④ 膝の装具		不可	不可	固い部分がむき出しになっている装具は使用できない。

８　ふくらはぎの装具

例	国内	国際	備考
	可	可	ふくらはぎへの装具は、靴下と同色であれば使用できる。
	不可	不可	靴下の色と一致しないふくらはぎへの装具は使用できない。

9　足首の装具

品目	例	国内	国際	条件
① 足首の装具		可	可	固い部分がすべて柔らかいもので覆われており、相手に危害を加えなければ使用できる。 国内大会では、靴下と同色でなくても使用を認める。IHFでは装具や覆うためのテープは靴下と同色とする。
② 足首の 固定具		可	可	固い部分がなければ使用できる。 国内大会では、靴下と同色でなくても使用を認める。IHFでは装具や覆うためのテープは靴下と同色とする。
③ 足首の装具		不可	不可	固い部分がむき出しになっており、靴下と色違いの装具は使用できない。

１０　服装

＜概要＞
○　（ゴールキーパーを除いて）長ズボンは使用できない。
○　４カ所（短パン＋膝の装具＋ふくらはぎの装具＋靴下）の使用は許可される。
　しかし、それぞれが分かれていること。
○ アームスリーブは**ユニホームの大部分を占めている色と同色**であれば使用できる。
○ サイクリングパンツも**短パンの大部分を占めている色と同色**であれば使用できる。
○ ふくらはぎの装具は、**靴下と同色**であること。
○ 足首の装具は、靴下と同色であること（**国内では、同色でなくてもよい**）。
○ 肘や膝の装具は色は問わない。

品目	例	国内	国際	条件
① スポーツ用 ヘッドス カーフ		可	可	単色のスポーツヘッドスカーフは使用できる。複数の選手がヘッドスカーフを使用する際は、全員が同色であること。
② スポーツ用 ではない ヘッドス カーフ		不可	不可	スポーツ用ではないヘッドスカーフは使用できない。
③ 長袖のアン ダーシャツ		可	可	ユニフォームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
		不可	不可	ユニフォームの大部分を占めている色と異なる色は使用できない。
④ サイクリン グパンツや ウォームパ ンツ		可	可	短パンの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
		不可	不可	短パンの大部分を占めている色と異なる色は使用できない。

品目	例	国内	国際	条件
⑤ 長ズボン		可	可	ゴールキーパーは、長ズボン、長タイツ、短パン、短パンとサイクリングパンツなどを使用できる。
		不可	不可	コートプレーヤーは、長ズボン、タイツ、長いサイクリングパンツ等は使用できない。
⑥ 靴下		可	可	靴下は同色で同じ長さを基本とする。
⑦ 上着		可	可	ゴールキーパーとなるコートプレーヤーはゴールキーパーと同一のものを使用する。穴を開ける場合は前後の番号の位置、透明なカバーをつけて穴を開けない場合も可能。 国内では従来のビブスに穴を開けたものの使用を従来通り認める。

１１　足首の装具

品目	例	国内	国際	条件
① イヤリング ピアス		可	可	小さいイヤリングやピアスは完全にテープで覆われていれば装着できる。
		不可	不可	完全にテープで覆われていないイヤリングやピアスは装着できない。
② ヘアピン		可	可	柔らかい素材でできているヘアピンは使用できる。金属やプラスティックのヘアピンの場合は、完全にテープで覆われていれば使用できる。
③ キャプテン マーク		可	可	単色のものであれば使用できる。
④ 短いリスト バンド		可	可	短いリストバンドは粘着性がなく、柔らかく、薄手のものであれば使用できる。
⑤ 長いリスト バンド		可	可	短いリストバンドは粘着性がなく、柔らかく、薄手のものであれば使用できる。長いリストバンドはユニフォームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。

品目	例	国内	国際	条件
⑥ 手首の装具		可	可	固い部分が覆われていれば、手首への装具は使用できる。
⑦ 手袋 グローブ		不可	不可	コート上で手袋やグローブは使用できない。ゴールキーパーも同様である。 交代地域での防寒具としての使用は認める。
⑧ フィンガーバンド		不可	不可	フィンガーバンドは使用できない。
⑨ 靴への 松ヤニ		可	可	靴に限り松ヤニをためておくことができる。そこから指へ補充する。 他の部位に松ヤニをためておくことはできない。
		※ただし、会場使用上の条件によっては、靴への松ヤニを認めない場合もある。		

交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン

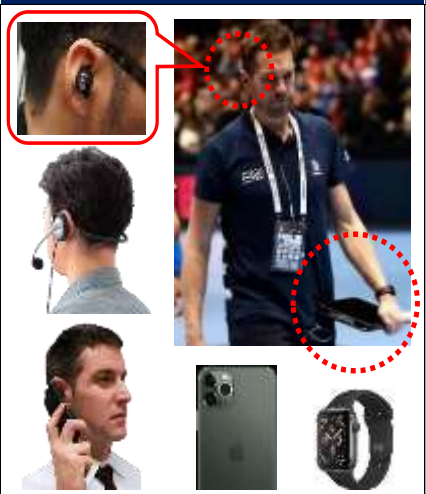
使用に関する詳細は主催者によって定めることができる

2021 年 4 月 1 日（公財）日本ハンドボール協会 指導・普及本部
競技・審判本部

（公財）日本ハンドボール協会競技・審判本部発行の「各大会におけるマッチオフィシャル(MO)並びにテクニカルデレゲート(TD)の任務と競技運営に関する事項（改訂版）2020 年 5 月 16 日」14 ページに関連しその使用方法等について、下記の通り通知する。

○交代地域で使用できるもの（通知文抜粋）

交代地域において、パソコンやタブレット端末等の技術的器具の使用を認める。選手の安全・戦術的指示のためで、持ち運びができるもの(マイクロフォン、ヘッドフォン、イヤ―ピース、スマートウォッチ、タブレットまたはノートパソコン等）の使用を認める。ただし承認されない機器を使ったり、機器を使った結果として不適切な言動（例えば、レフェリーの事実判定についての質問等の道具として使用すること等）があった場合は、交代地域から外して交信できない状態にする。罰則により競技場を去ったプレーヤーやチーム役員との交信も許されない。
この件に関しては、(公財）日本ハンドボール協会強化本部・指導普及本部より別途使用についての具体例を含めたガイドラインを通知し、それに従うこととする。
＝＝以上 2020 年 5 月 16 日変更部分

目　的	具　体　物	使　用　例	留　意　点　等
通話・通信機器		○携帯電話・スマートフォン ・交代地域外にいるチーム関係者と交信すること ・選手の負傷に伴う救急車や医療関係者と交信すること ・選手が生徒の場合は保護者と交信すること ○マイクロフォン・ヘッドセット・イヤーピースの使用 ・コーチと分析担当者などがイヤーピースを装着し、リアルタイムに音声でのコミュニケーションを行うこと	○交代地域を離れて使用しても可能 ○アンダーカテゴリーの試合においては、携帯電話の使用はチーム役員が行い、選手に使用させることを避けるよう配慮する ●交代地域外のチーム関係者等に連絡し、交代地域に道具や飲料水等を配達させることはできない → 交代地域にいる者に交代地域外へ取りに行かせる ●失格になり、コートを離れ交代地域外にいるチーム役員や選手とは交信できない → 事実が判明した段階でチームはその後、その技術的機器の使用ができない ○交代地域内と交代地域外との間の音声を用いた通信を行う際には、ヘッドセットやイヤーピース等のウェアラブルデバイスを使用することが望ましい
情報端末		○タブレット・スマートウォッチ・ノートパソコン等の情報端末の使用 ・交代地域外で作成する分析データをデータ通信を用いて交代地域内で共有できる ・交代地域内で分析作業を行うこと ・選手の生体情報や位置情報を送受信すること	○交代地域内外を問わず使用ができる。 ●競技時間中、競技運営上やレフェリーやMO、TDが下した判定の確認のために、技術的機器を使用することはできない → 事実が判明した段階でチームはその後、その技術的機器の使用ができない
ウェアラブルデバイス		○選手の生体情報および位置情報等の取得のためのウェアラブルデバイスの使用 ・ウェアラブルデバイス（生体情報モニタリング機器（心拍数測定等）や位置情報システム（GPS（全地球測位システム））やUWB（超広帯域無線通信）等の送受信機等）を用いての試合中の選手の生体情報や位置情報等を取得すること	○使用に関し、選手（自チーム・相手チーム含む）の安全面を最優先し、装着方法について細心の注意を払わなければならない ○使用する場合は、事前にMOや相手チームにその旨通知しておくことが望ましい

裁定委員会開催基準

レフェリーが競技規則 8 の 6 および 8 の 10(a)(b)に従いレッドカードの後にブルーカードを示した場合、またはマッチオフィシャル(これまでの JHA オフィシャル）、競技委員長が出場停止、もしくはそれ以上の処分を科すことが必要であると判断した場合は、裁定委員会を開催することとする。この判断は、レフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長がそれぞれの立場で判断することであり、それらの一人でも必要と認めれば、各人の責任で「裁定委員会開催要望書」（報告書）を作成し、競技委員長に提出しなければならない。「裁定委員会開催要望書」は競技終了後のみならず、大会終了後においても作成することができる（後日映像を解析した結果必要と認められる場合も含める）。競技委員長は提出される報告書により、裁定委員会を開催する。これはプレーヤーやチーム役員だけを対象とするのではなく、レフェリー、大会関係者による重大な過失を伴う行為や処置に対しても適用される。「裁定委員会開催要望書」の作成は、レフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長が作成するものとする。

１ 目的

国内公式大会におけるハンドボール競技の健全化を図る主旨で、各大会に裁定委員会を設ける。

２ 裁定

裁定しなければならない事項が生じた場合、裁定委員会はレフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長が提出した「裁定委員会開催要望書」、または任意の書式による要望書をもとに審議し、その処置について決定する。報告書が提出されない場合は、裁定委員会は開催できない。なお、大会期間中の出場停止を超える処分が必要な場合は、大会主催団体の定められた会議において審議し、処分を審議する。さらに、加盟団体の処分の範囲を超える場合は、本協会の懲罰委員会に提訴する。

３ 適用

競技規則 8 の 6 および 8 の 10(a)(b)によりレッドカードのあとブルーカードが提示された場合は、裁定委員会を開催する。その他、大会、競技の関係者による重大な過失による行為、処置がなされた場合、裁定委員会を開催する。

４ 裁定委員会

競技委員長、大会審判長、総務委員長、その他大会関係役員をもって委員会を構成し、開催する。状況を把握するために関係者を同席させる場合もある。

５ 事実確認

審議を行う前に、提出された「裁定委員会開催要望書」に記載されている内容が事実であるかどうかを確認する。要望書を記載していない裁定委員会参加者（２名）によって確認を行うことが望ましい。その際、当該者側からも立ち会いを依頼する。

要望書の記載内容が事実である場合は、当該者に署名をしてもらい確定文書とする。その要望書をもとに裁定委員会にて審議を行う。

要望書の記載内容に当該者が同意できない場合は、事実確認を再度行う。その際、要望書の作成者を同席させることもできる。映像の解析により要望書を提出した場合は、その根拠となった映像をもとに再度検証を行う。

6 審議内容

（１）処分

１）処分なし

２）出場停止（試合数は裁定委員会で決定する。）

３）大会出場停止（大会開催中であれば、その後の試合出場停止処分を決定する。
後日、主催団体が懲罰委員会を開催する。審議の結果を日本協会に報告しなければならない。）

４）有期限出場停止（大会期間中、もしくは大会終了後、主催団体が懲罰委員会を開催し、決定する審議の結果を日本協会に報告しなければならない。）

（２）その他

競技規則、大会規程、その他ハンドボール競技にふさわしくない重大な過失を伴う判定・処置をした場合、本協会に対して提訴する。

7 決定通知

処分の有無にかかわらず、「処分通知書兼解除報告書」にて、当該者、あるいは、当該チーム責任者に通知する。チーム関係者以外の場合は、任意の書式で処分を通知する。

8 処分解除

処分（１）、処分（２）の場合、処分解除相当の時期に、大会競技役員による確認と、解除報告書、及び、登録証への記入・認印をもって解除とする。これにより当該者はそれ以降の公式試合に出場可能となる。

処分（３）の場合、処分解除時期に当該主催団体から本人宛に解除通知文書を通知する。通知は日本協会にも送付しなければならない。

9 裁定委員会開催までの流れ

担当レフェリー、担当マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長が裁定委員会の開催が必要と認めた場合、試合終了直後に判断し、当該者の登録証の返還をしない。その後、公式記録用紙、「裁定委員会開催要望書」と当該者の登録証を、裁定委員会に提出する。競技終了後の行為に関しては、登録証を提出できない場合もある。その場合は、後刻開催される裁定委員会に届出させるものとする。

裁定委員会の開催が必要と認められる場合は、レフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長は相互に連絡を取り合う。裁定委員会開催に関して、審判員、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長の意見が異なる場合は、一人でも報告書を提出することを希望すれば、裁定委員会を開催しなければならない。

大会関係者の場合は、必要に応じた処置をとる。

裁定委員会の開催

審議しなければならない事項が発生した場合、原則として当日中に裁定委員会を開催する。また、審議の結果も原則として、当日中に当該者に連絡しなければならない。大会裁定委員長は提出された書類を整備し、委員会を招集する。委員長が不在の場合は代 理者がその任務を代行する。委員会は過半数をもって成立する。

審議の結果、処分が必要とされた場合は、「処分通知書兼解除報告書」にて、当該者、あるいは、当該チーム責任者に通知する。

裁定委員会の結果は、裁定委員会報告書を作成して日本協会競技運営部に送付する。

通知書の発行

出場停止処分以上を必要とする場合、当該者、あるいは、当該チーム責任者に「処分通知書兼解除報告書」を渡し、その処分を伝える。同時に、登録証裏面の備考欄に、期日、処分内容を記載し、返却する。

審議の結果、有期限処分が必要と裁定された場合は、裁定委員会は同一大会が開催されている期間内の出場停止を処分しなければならない。要領は上記の通りである。但し、登録証は返却しない。

処分の解除

試合出場停止の場合は、当該者、または、当該チーム責任者が「処分通知書兼解除報告書」、登録証、及び、出場停止試合数分の公式記録用紙コピー（出場していないことを証明するため）を処分解除相当数が経過した後の公式試合競技役員（競技委員長、その他の競技役員）に提出する。

競技委員長（競技役員）は、処分解除の条件が整っていることを確認したとき、解除報告書、登録証に解除期日、押印をし、コピーを取った上でコピーを返却する。

日本協会への連絡

大会競技委員長、及び、解除執行担当者は、処分通知書兼解除報告書原本を日本協会競技運営部に送付する。また、コピー１部と提出された公式記録用紙コピーを大会本部 で保管し、各種問い合わせに対応出来るようにする。

10 処分の参考目安

重大な違反に対しては出場停止とする。違反の程度が重大と判断される場合はそれ以上の処分が必要となるが、裁定委員会で即決することなく、各大会主催団体の懲罰委員会に提訴する。その場合は、大会中の出場を停止する処分をしなければならない。

平成 31 年 4 月 1 日
日本協会 HP 掲載

平成 30 年 7 月 31 日

ハンドボール関係者 各位

（公財）日本ハンドボール協会
競技本部長　高野 修

暑熱環境下における各種大会の運営について

平成 30 年 7 月 20 日付け、会長名にて「暑熱環境下における各種大会並びに部活動実施について」において熱中症対策などお願いしたところですが、今後も続くであろう日本列島の夏の猛暑の中での特に大会を主催、運営する場合の当面のガイドラインをお示しいたします。

夏期季節の大会では、健康管理はもちろんのこと、大量の汗などによるスリップ事故による怪我の危険性も高く、冷房設備がある施設での大会開催を念頭において、大会運営をお願いいたします。

【大会開催に関するガイドライン】7 月～8 月（気温が概ね 30 度を超える季節）

１．原則、全国大会では冷房設備がある施設で実施する。

２．ブロック、県内大会（公式戦）も可能な限り、冷房設備がある施設で大会を実施する。

３．止むを得ず、冷房設備がない場合には、給水タイムを設けるなどの対策を講じることができる。
また、いかなる場合にも体調管理を優先した行動を大会運営者、チーム関係者はとらなくてならないことを念頭に、救急医療体制の構築を大会ごとに行う。

【給水タイムに関するガイドライン】

大会において「給水タイム」を設定する場合、その権限は大会主催者（競技委員長）が持ち、試合前に関係チーム、競技役員、審判員に通知する。また、当初の設定がなくても、非常に温度が高くなった、湿度が高い天候となった場合、審判員が「給水タイム」を宣言する権限を有する。

以下にそのガイドラインを示す。概ね、正規の競技時間における前半および後半の 15 分前後に設定はしているがカテゴリーに応じて別途設定してもよい。

１．TD は正規の競技時間における前半および後半の 14 分(15 分前後を設定する場合）が経過したら、各チーム役員に対し、「次の競技中断時に給水タイムをとります」と告げる。チーム役員はこれを断ることはできない。

2．チーム役員に告げた後、競技時間が中断した時点で（告げた時点が得点後や、ゴールキーパースロー時など競技時間が中断している場合はその時点で)、タイムキーパーをつとめる TD は、笛を吹き、公示時計を止め、給水タイムであることを明確に告げる。

3．給水タイムは 1 分とする。チームは選手の給水を最優先する。チームの行動については TD が管理する。レフェリー、TD、補助役員も給水をとる。放送設備等ある場合は、観衆に対しても給水タイムであることを伝え、同様に給水を促す。

4．50 秒経過時点で、TD は笛を吹き、コートに戻るように促す。それ以降はチームタイムアウト後と同様に競技を再開する。

5．TD がチーム役員に告げた段階でボール所持しているチームがチームタイムアウトを請求することも可能である。告げた後、競技時間が中断するまでも同様である。この場合は、正規のチームタイムアウトに加え、1 分間の給水タイムを追加する。合わせて 2 分間となる。1 分 50 秒が経過した時点でタイムキーパーは笛を吹く。

6．TD がチーム責任者に告げた後、次の競技中断が７ m スローの場合は、その時点で給水タイムとし、競技の再開は 7m スローからとする。

7．延長戦のハーフタイムは 2 分とする。１分間のサイド交代に加え、１分間の給水タイムを設ける。

※チーム、役員、観客の安全面を最優先し上記の運用にあたるようお願いする。

詳しくは、(公財) 日本スポーツ協会ホームページ

「熱中症を防ごう」　http://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html

「医・科学ガイドブック」　http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide01

をご参照ください。

脳震盪（疑い）時の対応「ガイドライン」

（公財）日本ハンドボール協会　医事委員会

1 脳震盪

① 脳震盪とは、脳への外傷（衝撃）によって引き起こされる、結果的に一時的な脳機能障害をもたらすことをいう。

（ア） 進行と回復は急激である。また、一般的には自然に消退する。

（イ） 脳震盪を起こしたとしても、意識消失を伴わない場合もあり得る。

（ウ） 医療機関での一般的な画像検査では異常所見を認めない場合が多く、画像検査で脳震盪と診断をつけるのは困難である。

（エ） 最初の脳震盪のダメージが残っている状態で 2 度目の脳震盪を起こす「セカンドインパクトシンドローム」は、死に至ることもあり特に注意が必要である。

② 脳震盪（疑い）のあるもの

（ア） 試合のみならず、練習もそれ以上継続してはならない。

（イ） 脳震盪（疑い）と診断された選手は、以下の「段階的な競技復帰手順」に従って復帰をしなければならない。

（ウ） 脳震盪（疑い）は、青年と子供に対しては、より厳しく対応しないといけない。

③ 本ガイドライン

（ア） 最新の医学に基づき、定期的に適宜更新されるべきである。

（イ） 本ガイドラインは遵守されるべきであるが、現場に専門の知識を持った医師が常にいることを想定しておらず、運用についての責任は各個人、チーム管理者がとるべきである。

2 頭部外傷時の具体的救援方法 頭部外傷を受けた可能性がある選手には、救援者は以下の順で対応を行う。

①	救援者自身と受傷者の安全を確保する。 ゲーム中であれば中断させ、練習中であれば周囲（少なくとも同一コート内）での練習を中断させる。
②	生命兆候（呼吸、循環）のチェックをする。 生命兆候に異常があれば、救命救急処置を優先する。
③	簡単な意識状態を確認し、担架などでより安全で救援活動ができる場所へ移動をする。 コート内であればコート外へ移動を行う。また、プライバシーにも配慮を行う。
④	移動は複数名で行い、体幹と頭部を保持して頸部の安静（特に前後屈）に十分注意をする。

3 脳震盪（疑い）の判断

（要点） 次の①～③の方法を使用する。それぞれのうちのいずれか一つでも当てはまれば、脳震盪（疑い）と判断する。これらは、チームドクターによる診断が望ましいが、不在の場合にはトレーナーなどが代行する。

① 頭部または付近への外傷があり、以下の所見や症状を 1 つ以上認める。

これらは自覚症状・他覚症状の両方ともありうる。

<table>
<tr><td>意識の消失　（時間は問わない）</td><td>けいれんがあった
（時間は問わない）</td><td rowspan="3">いつもより感情的
（興奮、怒りやすい、神経質、不安）</td></tr>
<tr><td>頭痛・頭重感</td><td>頸部痛</td></tr>
<tr><td>嘔吐・嘔気</td><td>めまい</td></tr>
<tr><td>不適切なプレーをする</td><td>バランスが悪い</td><td>物が霞んで見える</td></tr>
<tr><td>眠くなりやすい</td><td>気分が良くない</td><td>光に敏感</td></tr>
<tr><td>反応が遅い</td><td>集中力がない</td><td>音に敏感</td></tr>
<tr><td>疲れている</td><td>思い出せない</td><td>霧の中にいる感じがする</td></tr>
<tr><td>寝つきが悪い</td><td>混乱している</td><td></td></tr>
</table>

② 記憶の障害

以下の質問に 1 つでも正しく答えられない。

<table>
<tr><td>現在の場所</td><td>今日の日付</td><td></td><td colspan="2">ゲーム中であれば</td></tr>
<tr><td>自分のチーム名</td><td></td><td></td><td>前半か後半か</td><td>試合会場</td></tr>
<tr><td>最近、自分のチームは勝ったか</td><td>今（具体的に）何をしていたか</td><td></td><td>対戦相手</td><td>最後の得点者</td></tr>
</table>

③ バランステスト

Ⅰ	利き足を前にし、踵に他方の足のつま先が付くように一直線に立つ
Ⅱ	両足に体重を均等にかける
Ⅲ	手を腰にし、目を閉じて 20 秒間じっと立つ
Ⅳ	もしよろけたら、目を開いて最初の姿勢に戻り、また目を閉じることを繰り返す

次のⅠ～Ⅳの姿勢で立たせる。

前頁の動作を 20 秒間続け、下記のいずれかを 合計 6 回以上認められれば、異常と判断する		
目を開ける	手を腰から離す	倒れる
よろける（足やかかとが浮いたり、一直線上の外にステップしたりする）		
5 秒以上、この姿勢が保持できない		

転倒に注意をし、危険な場合は中止して異常と判断をする

4 脳震盪（疑い）者への対応

① 上記から脳振盪が疑われれば、速やかに試合・練習から退かなければならない。

② 当該者は引き続き医学的評価を受けるべきである。短時間のうちに上記のすべてから回復したとしても、復帰は避けるべきである。

24 時間以内の対応 一人にしないこと
安静にし、ストレスのかかる活動を避ける
アルコール摂取は禁止
睡眠薬の使用は禁止
解熱や頭痛の鎮痛目的で抗炎症性薬の使用の禁止 （医療者向け）アセトアミノフェンかコデインの内服を行う
自動車の運転は禁止

48 時間以内に以下のことが起きれば、速やかに医療機関を受診すること。 ・意識状態の悪化は本人自身では気が付かないので、この基準は「本人」と「成人の付き添い者」に確実に説明をすること。	
頭痛がひどくなる	ぼーっとしたり、起きていられない
他人や場所がはっきり理解できない	嘔吐を繰り返す
いつもと行動が違ったり混乱している	感情が不安定（怒りやすい）
けいれん（体の一部が勝手に動く）が起きる	手や足に力が入らない
話し方がスムースでない	

5 脳震盪（疑い）の判断練習や試合の復帰

① 以下の 6 段階で競技復帰を行う。

② 通常の競技の再開まで最短で受傷後 6 日目になる。

③ 症状の有無は SCAT3（巻末参照）を用いても良い。

④ 症状が出現した場合は、医療機関の受診を推奨する。その後の復帰段階レベルは 1 に戻る。

復帰段階	リハビリとしての運動	
1	最低 24 時間は身体的な休養を取り、精神的にも安静にすること	24 時間無症状と確認できれば段階２へ
2	軽い有酸素運動 ・最大予測心拍量 70%未満の水泳、歩行、室内自転車 など ・レジスタンストレーニング（局所全身を問わず筋肉への負 荷）は禁止	24 時間無症状と確認できれば段階３へ
3	競技固有の運動 ・ランニングなど ・頭部への衝撃を与える運動は禁止	24 時間無症状と確認できれば段階４へ
4	接触のない練習 ・パス、ドリブル、フェイント、低負荷からのレジスタンストレ ーニングも開始可能	24 時間無症状でかつ、 本人と医師などの許可を得れば段階５へ
5	通常練習	24 時間経過して無症状であれば競技に復帰
6	復 帰	

追加

SCAT3（Sport Concussion Assessment Too l 3：スポーツ脳震盪評価ツール 3 版）とは、国際サッカー連盟 （FIFA）、国際アイスホッケー連盟（IIHF）、国際ラグビー評議会（IRB）のほか、国際オリンピック連盟（IOC）が作 成に関与をしている、スポーツ時の脳震盪の評価ツール。

現在は SCAT5 が発表されている。

【 選手・コーチ・ご家族向け参考資料 】

頭部外傷 10 か条の提言 日本臨床スポーツ医学会 学術委員会 脳神経外科部会

http://concussionjapan.jimdo.com/

脳震盪認識ツール 5 出典：藤原 QOL 研究所

http://www.fujiwaraqol.com/concussion/crt5_ja.pdf

テクニカルオフィシャル用
補助資料

JHAテクニカルオフィシャル　公式記録補助用紙

A										B									
大会名				会場名						回戦			年		月		日		審判員
前半	A	B	後半	A	B	最終	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7mTコンテスト	A	B		
7mT	得点／シュート数			チームタイムアウト						7mT	得点／シュート数			チームタイムアウト					
				1		2前後		3						1		2前後		3	

背番号	警告	退場	失格	失格（報）	得点								背番号	警告	退場	失格	失格（報）	得点							
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16

チーム得点										チーム得点									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

A	7mT									B	7mT								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16	17	18

A	チーム役員			選手 退場・失格						A	チーム役員			選手 退場・失格					
	警告	退場	失格	背番号	時間	背番号	時間	背番号	時間		警告	退場	失格	背番号	時間	背番号	時間	背番号	時間
A										A									
B										B									
C										C									
D										D									

7mスローコンテスト登録・記録用紙

Aチーム名：	Bチーム名：	大会名：
期日：　　年　　月　　日（　）	会場：	結果：Aチーム　　：　　Bチーム

先投チーム名（1～5）　　Ａ ・ Ｂ（どちらかに〇）

チームAの登録

No.	選手名	順番

チームBの登録

No.	選手名	順番

チームAサイン

チームBサイン

チームAのスロー結果
〇か×を記入

1	
2	
3	
4	
5	

チームBのスロー結果
〇か×を記入

1	
2	
3	
4	
5	

先投チーム名（6～10）　　Ａ ・ Ｂ（1～5の逆チーム）

チームAの登録

No.	選手名	順番

チームBの登録

No.	選手名	順番

チームAサイン

チームBサイン

チームAのスロー結果

6	
7	
8	
9	
10	

チームBのスロー結果

6	
7	
8	
9	
10	

（裏面）

先投チーム名（11～15）　Ａ ・ Ｂ（1～5のﾁｰﾑ）

チームAの登録

No.	選手名	順番

チームBの登録

No.	選手名	順番

チームAサイン

チームBサイン

チームAのスロー結果

11	
12	
13	
14	
15	

チームBのスロー結果

11	
12	
13	
14	
15	

先投チーム名（16～20）　Ａ ・ Ｂ（1～5の逆ﾁｰﾑ）

チームAの登録

No.	選手名	順番

チームBの登録

No.	選手名	順番

チームAサイン

チームBサイン

チームAのスロー結果

16	
17	
18	
19	
20	

チームBのスロー結果

16	
17	
18	
19	
20	

（公財）日本ハンドボール協会
2018年8月12日改訂

レ フ ェ リ ー 評 価 票〔2021全日本大会用〕

氏名・ペア名		所属		期　日	年　月　日
大 会 名				会　場	
評 価 者	印	対戦	vs	男 ・ 女	結果　：

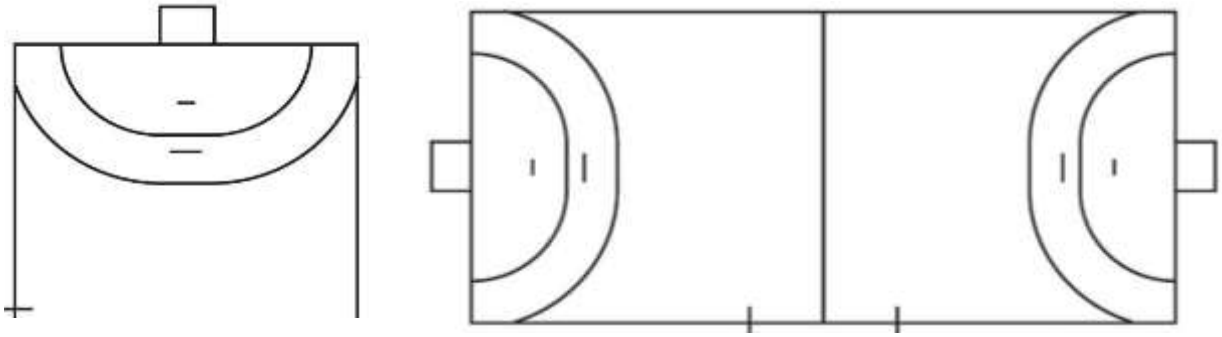
総　合　的　な　評　価

レフェリーの総合評価は	□ とても良い □ 良い □ 概ね良い □ 適切 □ ほぼ適切 □ やや不十分 □ 不十分
このゲームは（難易度）	□ とても難しい　□ 難しい　□ やや難しい　□ 普通　□ 簡単 □ レフェリーがゲームを難しくしてしまった
なぜ難しかったか	□ 結果・得点経過　□ ベンチの振る舞い　□ 観客の影響　□ スピード □ 戦術　□ 違反行為　□ その他（下欄に具体的に記入）

項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コメント（優れている点・改善すべき点など）
(1) ゲーム管理・運営（モダンハンドボールの理解）	レフェリーとしての要素・全体的印象					
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション					
	チームとの関係・平等であるか					
(2) 連　携	チームワーク（オフィシャルを含めて）					
	ペアで均一な判定					
	領域分担					
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準					
	アドバンテージ・不必要な笛・発展性のないプレーの見極め・笛のタイミング					
(4) １対１の局面	罰則・8:4にある即座に２分間退場への準備					
	チームに基準が理解されているか					
	ハリウッドアクションの見極め					
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反					
	ボールを持たないプレーヤーの違反					
	正しいブロック / 不正なブロック					
(6) ７mスロー	明らかな得点チャンスの見極め					
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め					
	ボールを所持していない明らかなチャンス					
(7) 違　反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート					
	足を使った違反					
	各種スローの判定と適切な実施					
(8) 時間の管理（モダンハンドボールの理解）	パッシブプレー予告合図のタイミング					
	パッシブプレーの判定					
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない					
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか					
	明確なジェスチャー・笛の音					
	体力・走力					
レフェリーへのアドバイス・特記事項など						

（裏面）

時　間	状　　況



＜日本協会 HP　競技・審判本部「競技規則」に関するページ＞

http://www.handball.or.jp/rule/index.html

競技規則、問題集、最新の通達を掲載中！

※　「競技規則」「競技・審判本部」の２種類のページがあります

＜競技・審判ハンドブック 2019 – 2020＞

http://www.handball.or.jp/rule/doc/referee_handbook2019.pdf

レフェリーとして必要なことは何か…
IHF が求めるモダンハンドボールに関する通達…　等を
まとめた一冊です（※ 2019 年 8 月時点での最新情報）
レフェリーのみならず指導者の方も必見です！

★ 競技・審判本部では、公式 YouTube チャンネルを開設しています！

https://www.youtube.com/channel/UCrA_UtDr4_sk6Mykclpkt_w/videos

年度ごとの「審判員の目標」に関する補助資料や、IHF が求めるモダンハンドボール（スピーディーなゲーム展開）に関するレフェリーの判定基準等を、映像で提供しています。

※ 解説等の資料は、日本協会 HP「競技・審判本部」ページに掲載しています

2021 Japan Handball Association
Japan Handball League Organization